別紙

平成２７年度　水道施設整備費に係る歩掛表　改定総括表

項　　目	26 年度版 頁番号	内　　容
第一編　請負工事標準歩掛		
第１章　積算基準		
第１節　請負工事積算基準		
1-1-1　適用範囲	１	・生活基盤施設耐震化等交付金の追加
第２節　工事費の積算		
1-2-2　間接工事費		
表-1	８	・工種区分（工事内容）の変更
	２１	・技術管理費として積み上げる項目に通水試験の追加
別表-2	２６	・現場管理費率標準値の変更
別表-3	２９	・一般管理費等率の変更
第２章　開削工歩掛		
第１節　標準掘削断面		
2-1-3　掘削幅の算定		
b3：接合作業幅	３７	・外面継手におけるプッシュオンタイプ（GX 形継手）呼び径 400㎜の追加 ・外面継手（GX 形継手）（T 頭ボルト締め付け）における呼び径 400 ㎜の追加 ・外面継手（S50 形継手）（T 頭ボルト締め付け）50㎜の追加
第３節　鋳鉄管布設工		
2-3-8　GX形継手接合歩掛表		
第8表	５０	・呼び径 400 ㎜の歩掛の追加
2-3-9　S50形継手接合歩掛表		
第9表	（新）	・S50 形継手接合歩掛の追加
2-3-10　NS形・SⅡ形・GX形継手挿口加工歩掛表		
第10-1表	５０	・GX 形における呼び径 400 ㎜の歩掛の追加
2-3-13　ポリエチレンスリーブ被覆歩掛表		
第13表	５３～ ５４	・歩掛の変更（S50 形追加による変更） ・備考の修正
2-3-15　管明示テープ歩掛表		
第15-1表、第15-2表	５６	・歩掛の変更 ・50㎜の歩掛の追加 ・天端明示作業の明文化
第８節　管切断工		
2-8-3　鋳鉄管切断・溝切り加工歩掛表		
第3-1表、第3-3表	８０～ ８１	・GX 形における呼び径 400 ㎜の歩掛の追加
第９節　弁類及び消火栓設置工		
2-9-5　仕切弁・空気弁ボックス設置歩掛表		
第10表	８９	・歩掛の変更
第10節　既設管撤去工		
2-10-3　鋳鉄管継手取外し歩掛表		
第2表	９３	・備考の修正（S50 形追加による変更）

項　　目	26年度版 頁番号	内　　容
第５章　その他歩掛		
第１節　通水試験工	１１５	・350mmの歩掛の追加
第３節　既設管内配管工		
5-3-4　配管歩掛表		
第16表	１３３	・機械器具損料の変更
第26表	１３６	・機械器具損料の変更
第二編　参考資料		
第１章　参考歩掛		
第１節管路土工		
1-1-4　路盤歩掛表		
第31表	１５５	・適用単価表の指定 ・指定事項の変更 ・振動ローラ１日当り単価表の追加
1-1-5　不陸整正歩掛表		
第33表	１５７	・適用単価表の指定 ・指定事項の変更
1-1-6　発生土処理歩掛表		
第41表	１６０	・歩掛の変更
1-1-7　アスファルト塊・コンクリート塊処理歩掛表		
第47表	１６２	・備考の追加（計算式の明示）
第３節　水道管挿入工事		
1-3-1　適用	１６６	・適用範囲の拡大
1-3-4　管挿入歩掛表		
第1表	１６７	・中大口径の歩掛変更
第2表	〃	・作業内容の変更
1-3-6　水道管継手歩掛表	１７１	・使用する歩掛表の変更
第４節　飲料水供給施設工		
1-4-2　サドル分水栓建込み歩掛表		
第1表、第2表	１７２	・歩掛の変更及び追加
1-4-7　量水器取付け（ねじ込み接合）歩掛表	１７３	・歩掛の変更
1-4-8　量水器取付け（フランジ接合）歩掛表	（新）	・歩掛の追加
第三編　設計業務委託標準歩掛		
第２章　配水管設計歩掛		
第１節　開削工法		
2-1-2　補正		
第13表	１８８～ １８９	・備考の追加 ・複数管径を含む場合等の考え方の修正
第２節　推進工法		
2-2-1　標準業務内容	１９１	・標準業務内容の明記
2-2-2　基本歩掛		
第2表、第3表、第4表、第5表、第6表	１９１～	

項　　目	26年度版 頁番号	内　　容
	１９２	・歩掛の変更
第３節　既設管内配管工法	（新）	・「第３節　既設管内配管工法」の基本歩掛を追加し、以降１節ずつ移動。
第３章　構造物設計歩掛 第２節　ポンプ場設計歩掛 3-2-2-2　実施設計（詳細設計） 第4表、第5表	２１３～ ２１４	・歩掛の変更 ・備考の修正
第３節　浄水場設計歩掛 3-3-2-2　実施設計（詳細設計） 第4-2表	２２９	・歩掛の変更
第5-2表	２３５	・歩掛の変更
第４章　耐震補強設計歩掛 第４節　浄水場土木施設耐震補強設計歩掛 4-4-2-1　耐震補強工事の実施設計 第3-2表	２７０	・歩掛の変更

※上記のほか、全般を通して、以下の改定を行っている。

・誤解しやすい表現に対する補足説明の追加
・表番号のないものに表番号を付番
・「(注)」を「備考」に統一
・誤記の訂正

別　紙

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号 P1

現行（平成 26 年度）

1－1－1　適用範囲

この積算基準は、水道施設整備費国庫補助事業に係る補助金を申請する際に適用する。

改定（平成 27 年度）

1－1－1　適用範囲

この積算基準は、水道施設整備費国庫~~補助事業に係る~~補助金及び生活基盤施設耐震化等交付金（水道施設に係る事業に限る）を申請する際に適用する。

P8

現行（平成 26 年度）

1－2－2－2　共通仮設費

表－1　工種区分

工種区分	工事内容
開削工事及び小口径推進工事	水道施設整備に関する工事にあって、次に掲げる工事 施工方法が開削工法又は小口径の推進工法による管渠工事
シールド工事及び推進工事	水道施設整備に関する工事にあって、次に掲げる工事 施工方法がシールド工法又は作業員が坑内で作業する推進工法による 管渠工事
構造物工事（浄水場等）	水道施設整備に関する工事にあって、次に掲げる工事 浄水場等を構築する構造物工事

改定（平成 27 年度）

1－2－2－2　共通仮設費

表－1　工種区分

工種区分	工事内容
開削工事及び小口径推進工事	水道施設整備に関する工事にあって、次に掲げる工事 施工方法が開削工法又は小口径の推進工法による管渠工事
シールド工事及び推進工事	水道施設整備に関する工事にあって、次に掲げる工事 施工方法がシールド工法又は作業員が坑内で作業する推進工法による 管渠工事
構造物工事（浄水場等）	水道施設整備に関する工事にあって、次に掲げる工事 浄水場等を構築する構造物工事(さく井工事を含む)

P9

現行（平成 26 年度）

別表－1

（表　略）

算定式

$K_r=A・P_b$

改定（平成 27 年度）

別表－1

（表　略）

算定式

$K_r=A・P^b$

P10

現行（平成 26 年度）

ａ．地区割増料

貨物の発地又は着地が、東京都（特別区に限る）又は、住民基本台帳に基づく人口が 50 万人以上の都市の場合には、各運輸局が工事した「一般貨物運送事業の貸し切り運賃」の地区割増料を加算する。ただし、貨物の発地及び着地が同一としない又は隣接都市間の場合は、発地又は着地のいずれか一方について加算する。

改定（平成 27 年度）

ａ．地区割増料

貨物の発地又は着地が、東京都（特別区に限る）又は、住民基本台帳に基づく人口が 50 万人以上の都市の場合には、各運輸局が工事した「一般貨物運送事業の貸~~し~~切り運賃」の地区割増料を加算する。ただし、貨物の発地及び着地が同一としない又は隣接都市間の場合は、発地又は着地のいずれか一方について加算する。

P11

現行（平成 26 年度）

表－2　下表

	冬期割増区間の運送距離に対応する基本運賃×割増率		割増率
	地　　域	期　　間	
冬期割増（C3）	北海道	自11月16日 至４月15日	２割増
	青森県、秋田県、山形県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県の全域	自12月１日 至３月31日	
	岩手県のうち、北上市、久慈市、遠野市、二戸市、九戸郡、二戸郡、上閉伊郡、下閉伊郡、岩手郡、和賀郡、福島県のうち、会津若松市、喜多方市、南会津郡、北会津郡、耶麻郡、大沼郡、河沼郡、岐阜県のうち、高山市、大野郡、吉城郡、益田郡、郡上郡		
深夜（C4）割増	運搬時間を「22～５時」に指定する場合。		３割増

改定（平成 27 年度）

表－2　下表

	冬期割増区間の運送距離に対応する基本運賃×割増率		割増率
	地　　域	期　　間	
冬期割増（C3）	北海道	自11月16日 至４月15日	２割増
	青森県、秋田県、山形県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県の全域	自12月１日 至３月31日	
	岩手県のうち、北上市、久慈市、遠野市、二戸市、九戸郡、二戸郡、上閉伊郡、下閉伊郡、岩手郡、和賀郡、福島県のうち、会津若松市、喜多方市、南会津郡、~~北会津郡、~~耶麻郡、大沼郡、河沼郡、岐阜県のうち、高山市、大野郡、~~吉城郡、益田郡、郡上郡~~飛騨市、下呂市、郡上市		
深夜（C4）割増	運搬時間を「22～５時」に指定する場合。		３割増

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P14	F1:冬季割増	F1:冬期割増

現行（平成 26 年度）

地　　域	期　　間	割増率
北海道	自11月16日 至 4月15日	2割
青森県、秋田県、山形県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県の全域	自12月1日 至 3月31日	
岩手県のうち北上市、久慈市、遠野市、二戸市、九戸郡、二戸郡、上閉伊郡、下閉伊郡、岩手郡、和賀郡、福島県のうち会津若松市、喜多方市、南会津郡、北会津郡、耶麻郡、大沼郡、河沼郡、岐阜県のうち高山市、大野郡、吉城郡、益田郡、郡上郡		

改定（平成 27 年度）

地　　域	期　　間	割増率
北海道	自11月16日 至 4月15日	2割
青森県、秋田県、山形県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県の全域	自12月1日 至 3月31日	
岩手県のうち北上市、久慈市、遠野市、二戸市、九戸郡、二戸郡、上閉伊郡、下閉伊郡、岩手郡、和賀郡、福島県のうち会津若松市、喜多方市、南会津郡、~~北会津郡、~~耶麻郡、大沼郡、河沼郡、岐阜県のうち高山市、大野郡、~~吉城郡、益田郡、郡上郡~~飛騨市、下呂市、郡上市		

P16

表－4－2

現行（平成 26 年度）

機械区分	規格	分解組立用クレーン 名称	分解組立用クレーン 規格
ブルドーザ バックホウ系 オールケーシング掘削機（クローラ式） 地盤改良機械 トンネル用機械	表-4 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	25ｔ吊
クローラクレーン系	35ｔ吊以下 （クラムシェル 平積0.6 ㎥含む）	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	25ｔ吊
	80ｔ吊以下 （クラムシェル 平積2.0 ㎥以下含む）		
	150ｔ吊以下 （クラムシェル 平積3.0 ㎥以下含む）		50ｔ吊
	300ｔ吊以下		
トラッククレーン	表-4 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	50ｔ吊
クローラ式杭打機	質量60ｔ以下	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	25ｔ吊
	質量100ｔ以下		
	質量150ｔ以下		
オールケーシング掘削機〔据置式〕	表-4 参照	クローラクレーン 油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型	60～65ｔ吊
連続地中壁用機械〔地下連続壁施工機〕	表-4 参照	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型	45ｔ吊
連続地中壁用機械〔クローラ式アースオーガ〕	表-4 参照	クローラクレーン 油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型	50ｔ吊

改定（平成 27 年度）

機械区分	規格	分解組立用クレーン 名称	分解組立用クレーン 規格
ブルドーザ バックホウ系 オールケーシング掘削機（クローラ式） 地盤改良機械 トンネル用機械	表-4-1 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	25ｔ吊
クローラクレーン系	35ｔ吊以下 （クラムシェル 平積0.6 ㎥含む）	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	25ｔ吊
	80ｔ吊以下 （クラムシェル 平積2.0 ㎥以下含む）		
	150ｔ吊以下 （クラムシェル 平積3.0 ㎥以下含む）		50ｔ吊
	300ｔ吊以下		
トラッククレーン	表-4-1 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	50ｔ吊
クローラ式杭打機	質量60ｔ以下	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 （第 1 次基準値）	25ｔ吊
	質量100ｔ以下		
	質量150ｔ以下		
オールケーシング掘削機〔据置式〕	表-4-1 参照	クローラクレーン 油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型	60～65ｔ吊
連続地中壁用機械〔地下連続壁施工機〕	表-4-1 参照	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型	45ｔ吊
連続地中壁用機械〔クローラ式アースオーガ〕	表-4-1 参照	クローラクレーン 油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型	50ｔ吊

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号 P21

現行（平成 26 年度）

上記以外で積上げする項目は、次の各項に要する費用とする。
（イ）特殊な品質管理に要する費用
・管接合部の水圧試験、超音波試験、Ｘ線検査等
・土質等試験：品質管理基準に記載されている項目以外の試験
・地質調査：平板載荷試験、ボーリング、サウンディング、その他原位置試験

改定（平成 27 年度）

上記以外で積上げする項目は、次の各項に要する費用とする。
（イ）特殊な品質管理に要する費用
・管接合部の水圧試験、超音波試験、Ｘ線検査等
・通水試験
・土質等試験：品質管理基準に記載されている項目以外の試験
・地質調査：平板載荷試験、ボーリング、サウンディング、その他原位置試験

P26

現行（平成 26 年度）

別表－２　現場管理費率標準値

対象額(N_P) ＼ 適用区分 ＼ 工種区分	1,000万円以下	1,000万円を超え20億円以下		20億円を超えるもの
	下記の率とする	$A \times N_P{}^b$により算定された率とする。ただし、変数値は下記による		下記の率とする
		A	b	
開削工事及び小口径推進工事	21.70%	104.8	-0.0977	12.93%
シールド工事及び推進工事	24.80%	28.9	-0.0095	23.58%
構造物工事（浄水場等）	16.51%	21.5	-0.0164	15.13%

改定（平成 27 年度）

別表－２　現場管理費率標準値

対象額(N_P) ＼ 適用区分 ＼ 工種区分	1,000万円以下	1,000万円を超え20億円以下		20億円を超えるもの
	下記の率とする	$A \times N_P{}^b$により算定された率とする。ただし、変数値は下記による		下記の率とする
		A	b	
開削工事及び小口径推進工事	25.61%	123.7	-0.0977	15.26%
シールド工事及び推進工事	24.80%	28.9	-0.0095	23.58%
構造物工事（浄水場等）	16.51%	21.5	-0.0164	15.13%

P27

現行（平成 26 年度）

1－2－3－4　単価表
(1)　(略)
(2)機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トラック	クレーン装置付　２t積　２t吊 クレーン装置付　４t積　２．９t吊	機-１	

改定（平成 27 年度）

1－2－3－4　単価表
(1)　(略)
(2)機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トラック	クレーン装置付　２t積　２t吊 クレーン装置付　４t積　２．９t吊	機-１	

（注）　適用単価表「機－１」は、国土交通省土木工事標準積算基準書による。

P29

現行（平成 26 年度）

別表－３　一般管理費等率
(1)前払金支出割合が35%を超え40%以下の場合

工事原価	500万円以下	500万円を超え30億円以下	30億円を超えるもの
一般管理費等	14.38%	一般管理費等率算定式により算出された率	7.22%

(2) 算定式
［一般管理費等率算定式］
Gp=-2.57651×Log(Cp)十31.63531(%)
ただし、Gp:一般管理費等率(%)
Cp:工事原価(単位円)
(注) Gpの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

改定（平成 27 年度）

別表－３　一般管理費等率
(1)前払金支出割合が35%を超え40%以下の場合

工事原価	500万円以下	500万円を超え30億円以下	30億円を超えるもの
一般管理費等	20.29%	一般管理費等率算定式により算出された率	7.41%

(2) 算定式
［一般管理費等率算定式］
Gp=-4.63586×Log(Cp)+51.34242(%)
ただし、Gp:一般管理費等率(%)
Cp:工事原価(単位円)
(注) Gpの値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

P34

現行（平成 26 年度）

1－3－2　その他
(1)～(6)　(略)
(7)雑材料
内燃機関の運転単価表には主燃料のほかにエンジン油、ギヤー油、マシン油、グリース、ボロ等を計上していたが、これらを全部集めても設計書に占める金額は小額となるため、設計の簡素化のためにこれらを一括して、主燃料金額に対するパーセントで「油脂類」として計上する。電動機使用の場合もモーター油等を雑材料として計上する。

改定（平成 27 年度）

1－3－2　その他
(1)～(6)　(略)
(7)諸雑費
内燃機関の運転単価表には主燃料のほかにエンジン油、ギヤー油、マシン油、グリース、ボロ等を計上していたが、これらを全部集めても設計書に占める金額は少額となるため、設計の簡素化のためにこれらを一括して、主燃料金額に対するパーセントで「諸雑費」として計上する。電動機使用の場合もモーター油等を諸雑費として計上する。

P35

現行（平成 26 年度）

2－1－3　掘削幅の算定
(1)吊込み時の掘削幅（計算に用いる各々の項目の標準寸法は別表による）
吊込み掘削幅（B1）＝管最大外径＋２×（吊込み余裕幅＋土留加算幅）

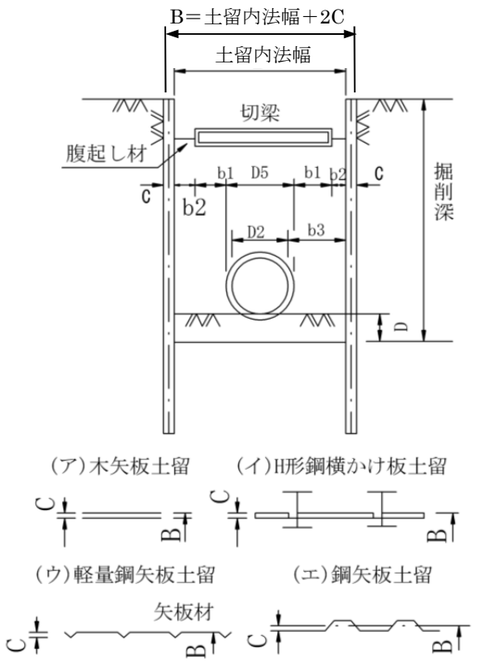
改定（平成 27 年度）

2－1－3　掘削幅の算定
(1)吊込み時の掘削幅（計算に用いる各々の項目の標準寸法は別表による）
吊込み掘削幅（B1）＝管最大外径＋２×（吊込み余裕幅＋土留加算幅）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号：P36

現行（平成 26 年度）



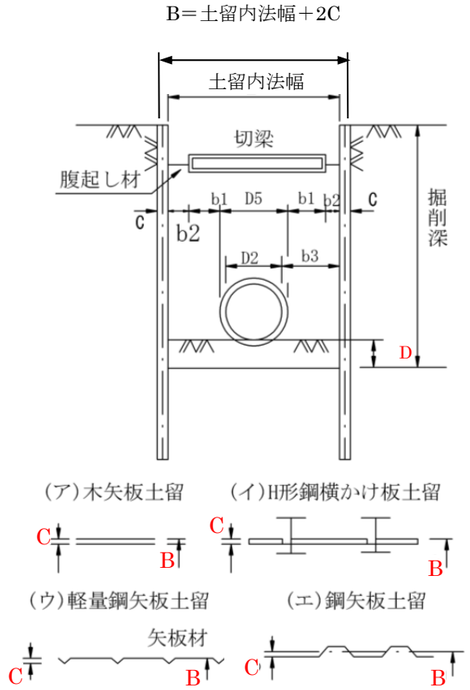
D＝会所掘の掘削深度
D2＝管外径
D5＝受口外径

B＝掘削幅
b1＝吊込み余裕幅
b2＝腹起し材幅
b3＝接合作業幅
c＝矢板厚

b2：腹起し材幅　　片側分　　mm

土留矢板種別	普通地盤における標準部材幅			腹起し材幅
	木製支保	軽量金属	鋼製	
木矢板	150	—	—	150
軽量鋼矢板	150	110	—	
鋼矢板及びH鋼横かけ　H=3.5以下	—	—	200	200
鋼矢板及びH鋼横かけ　H=4.0以下	—	—	250	250
鋼矢板及びH鋼横かけ　H=6.0以下	—	—	300	300

改定（平成 27 年度）



D＝会所掘の掘削深度
D2＝管外径
D5＝受口外径

B＝掘削幅
b1＝吊込み余裕幅
b2＝腹起し材幅
b3＝接合作業幅
c＝矢板厚

b2：腹起し材幅　　片側分　　mm

土留矢板種別	普通地盤における標準部材幅			腹起し材幅
	木製支保	軽量金属	鋼製	
木矢板	150	—	—	150
軽量鋼矢板	150	110	—	
鋼矢板及びH鋼横かけ　H=3.5m以下	—	—	200	200
鋼矢板及びH鋼横かけ　H=4.0m以下	—	—	250	250
鋼矢板及びH鋼横かけ　H=6.0m以下	—	—	300	300

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号：P37

現行（平成 26 年度）

b3:接合作業幅　　片側分　　mm

継手種別	摘要			標準接合作業幅	備　考
	呼び径(mm)	ボルト径	トルク		
外面継手（T頭ボルト締め付け）	～ 75	M16	6	150	レンチ長
	100～250	M20	10	250	
	300～350	M20	10	250	
	400～600	M20	10	250	
	700～800	M24	14	350	
	900～	M30	20	450	
外面継手	プッシュオンタイプ(T形継手管)			100	余裕幅
外面継手	プッシュオンタイプ(NS形継手管)			250	レバーホイスト（両側2箇所）
外面継手	プッシュオンタイプ(GX形継手管)　75～300			150	レバーホイスト（アーム長）(上部1箇所)
外面継手(GX形継手)（T頭ボルト締め付け）	～75	M16	—	150	ラチェットレンチ長
	100～300	M20	—		
内面継手	(U形継手管)			100	余裕幅
内面継手	700～800	セットボルト締め付け（UF、US形継手管）		350	レンチ長
	900～			450	
ポリ管等	ポリエチエレン管・硬質塩化ビニル管			100	余裕幅

c.矢板厚　　片側分　　mm

矢板形式	部材厚	矢板厚
木矢板　1.8以下	30	50
木矢板　2.7以下	45	
軽量鋼矢板　建込み	35	
軽量鋼矢板　打込み	35	
鋼矢板　Ⅱ型	100	100
鋼矢板　Ⅲ型	125	125
H鋼横かけ　1.5以下	30	50
H鋼横かけ　4.5以下	45	
H鋼横かけ　6.0以下	60	

改定（平成 27 年度）

b3:接合作業幅　　片側分　　mm

継手種別	摘要			標準接合作業幅	備　考
	呼び径(mm)	ボルト径	トルク		
外面継手（T頭ボルト締め付け）	～ 75	M16	6	150	レンチ長
	100～250	M20	10	250	
	300～350	M20	10	250	
	400～600	M20	10	250	
	700～800	M24	14	350	
	900～	M30	20	450	
外面継手	プッシュオンタイプ(T形継手管)			100	余裕幅
外面継手	プッシュオンタイプ(NS形継手管)			250	レバーホイスト（両側2箇所）
外面継手	プッシュオンタイプ(GX形継手管)　75～300			150	レバーホイスト（アーム長）(上部1箇所)
	プッシュオンタイプ(GX形継手管)　400			250	
外面継手(GX形継手)（T頭ボルト締め付け）	～75	M16	—	150	ラチェットレンチ長
	100～300	M20	—		
	400	M20	—	250	
外面継手(S50形継手)（T頭ボルト締め付け）	50	M10	—	150	ラチェットレンチ長
内面継手	(U形継手管)			100	余裕幅
内面継手	700～800	セットボルト締め付け（UF、US形継手管）		350	レンチ長
	900～			450	
ポリ管等	ポリエチエレン管・硬質塩化ビニル管			100	余裕幅

c.矢板厚　　片側分　　mm

矢板形式	部材厚	矢板厚
木矢板　H=1.8m以下	30	50
木矢板　H=2.7m以下	45	
軽量鋼矢板　建込み	35	
軽量鋼矢板　打込み	35	
鋼矢板　Ⅱ型	100	100
鋼矢板　Ⅲ型	125	125
H鋼横かけ　H=1.5m以下	30	50
H鋼横かけ　H=4.5m以下	45	
H鋼横かけ　H=6.0m以下	60	

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

2－1－4　掘削標準断面

(1)標準掘削断面は次のとおりとする。(図　略)

呼び径 (mm)	B (m)	DP (m)	D (m)	L (m)
50～200	2-1-3 より算出	0.60以上	0.30	0.50

備考　会所堀は、継手箇所（内面継手を除く）毎に実施する。
D:会所堀の堀削深度
L:会所堀の堀削延長
道路管理者等から指示のある場合は別に定めることができる。
管基礎の置き換えが必要な場合は別に定めることができる。

P38

(2)木矢板及び軽量鋼矢板を使用する場合は、次の標準掘削断面によることができる。(図　略)

呼び径 (mm)	B (m)	D (m)	L (m)
350以下	2-1-3 より算出	0.30	0.50
400～800	〃	0.60	0.80

備考　会所堀は、継手箇所（内面継手を除く）毎に実施する。
D:会所堀の堀削深度
L:会所堀の堀削延長
道路管理者等から指示のある場合は別に定めることができる。
管基礎の置き換えが必要な場合は別に定めることができる。

P42

2－2－5　支保歩掛表（木製）

第 12 表　木製支保工

(100m当り)

種　　目	形状寸法	単位	数量	摘　要
腹起し材	太鼓落し　n＝本 ℓ＝3m　　t＝cm	m^3		10回使用(素材単価×1/10)
切りばり材	丸　太　　n＝本 ℓ＝3m　　末口φ	〃		5回使用(素材単価×1/5)
諸雑費	かすがい・鉄線等	式	1	木材費損料の3%
型枠工		人		
普通作業員		〃		
計				

P43

2－2－6－3　施工歩掛

第 15 表　支保材設置・撤去

（表　略）

備考　１．(略)
２．世話役、とび工及び普通作業員の人数は次表の腹起し材施工歩掛と切梁材施工歩掛を合計して求めること。
３～５（略）

P45

2－3－1　吊込み据付（機械力）歩掛表

第 1 表

（表　略）

備考１及び２（略）
３．呼び径 350mm 以下の吊込み機械は現場の状況に応じ、トラッククレーン・油圧式伸縮ジブ型 4.9t 吊、またバックホウ（クレーン仕様）クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊を使用することができる。なお、バックホウ（クレーン仕様）は「クレーン等安全規制」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

改定（平成 27 年度）

2－1－4　掘削標準断面

(1)標準掘削断面は次のとおりとする。(図　略)

呼び径 (mm)	B (m)	DP (m)	D (m)	L (m)
50～200	2-1-3 より算出	0.60以上	0.30	0.50

備考　会所掘は、継手箇所（内面継手を除く）毎に実施する。
D:会所掘の堀削深度
L:会所掘の堀削延長
道路管理者等から指示のある場合は別に定めることができる。
管基礎の置き換えが必要な場合は別に定めることができる。

(2)木矢板及び軽量鋼矢板を使用する場合は、次の標準掘削断面によることができる。(図　略)

呼び径 (mm)	B (m)	D (m)	L (m)
350以下	2-1-3 より算出	0.30	0.50
400～800	〃	0.60	0.80

備考　会所掘は、継手箇所（内面継手を除く）毎に実施する。
D:会所掘の堀削深度
L:会所掘の堀削延長
道路管理者等から指示のある場合は別に定めることができる。
管基礎の置き換えが必要な場合は別に定めることができる。

2－2－5　支保歩掛表（木製）

第 12 表　木製支保工

(100m当り)

種　　目	形状寸法	単位	数量	摘　要
腹起し材	太鼓落し　n＝本 ℓ＝3m　　t＝cm	m^3		10回使用(素材単価×1/10)
切りばり材	丸　太　　n＝本 ℓ＝3m　　末口φ	〃		5回使用(素材単価×1/5)
型枠工		人		
普通作業員		〃		
諸雑費	かすがい・鉄線等	式	1	木材費損料の3%
計				

2－2－6－3　施工歩掛

第 15 表　支保材設置・撤去

（表　略）

備考　１．(略)
２．世話役、とび工及び普通作業員の人数は第 16 表の腹起し材施工歩掛と第 17 表の切梁材施工歩掛を合計して求めること。
３～５（略）

2－3－1　吊込み据付（機械力）歩掛表

第 1 表

（表　略）

備考１及び２（略）
３．呼び径 350mm 以下の吊込み機械は現場の状況に応じ、トラッククレーン・油圧式伸縮ジブ型 4.9t 吊、または、バックホウ（クレーン仕様）クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊を使用することができる。なお、バックホウ（クレーン仕様）は「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号

現行（平成 26 年度）

P47

2－3－4　伸縮可とう管設置歩掛表（鋳鉄製）
（表番号無し）接合形式－F（フランジ）、S（挿口）、U（受け口）
（表　略）

P48

2－3－5　フランジ継手歩掛表
第 4 表
（表　略）

2－3－6　T 形継手歩掛表
第 5 表
（表　略）

P49

2－3－7　NS 形継手接合歩掛表
第 6－1 表　（NS 形）
（表　略）

P50

第 6－2 表　（NS 形）
（表　略）

2－3－8　GX形継手接合歩掛表
第 7－1 表　（GX 形）

（1口当り）

呼び径 (mm)	直　管			異　形　管		
	配管工	普通作業員	諸雑費	配管工	普通作業員	諸雑費
75	0.05	0.05	1%	0.05	0.05	1%
100	0.05	0.05	1%	0.05	0.05	1%
150	0.05	0.05	1%	0.06	0.06	1%
200	0.06	0.06	1%	0.07	0.07	1%
250	0.07	0.07	1%	0.08	0.08	1%
300	0.09	0.09	1%	0.09	0.09	1%

備考 1. P-Linkの接合は直管部の歩掛に30%を上限として割増する事ができる。
2. G-Linkの接合は異形管部の歩掛に30%を上限として割増する事ができる。

改定（平成 27 年度）

2－3－4　伸縮可とう管設置歩掛表（鋳鉄製）
第 4 表　接合形式－F（フランジ）、S（挿口）、U（受け口）
（表　略）

2－3－5　フランジ継手歩掛表
第 5 表
（表　略）

2－3－6　T 形継手歩掛表
第 6 表
（表　略）

2－3－7　NS 形継手接合歩掛表
第 7－1 表　（NS 形）
（表　略）

第 7－2 表　（NS 形）
（表　略）

2－3－8　GX形継手接合歩掛表
第 8 表　（GX 形）

（1口当り）

呼び径 (mm)	直　管			異　形　管		
	配管工（人）	普通作業員（人）	諸雑費	配管工（人）	普通作業員（人）	諸雑費
75	0.05	0.05	労務費の1%	0.05	0.05	労務費の1%
100	0.05	0.05		0.05	0.05	
150	0.05	0.05		0.06	0.06	
200	0.06	0.06		0.07	0.07	
250	0.07	0.07		0.08	0.08	
300	0.09	0.09		0.09	0.09	
350	－	－	－	－	－	－
400	0.10	0.10	労務費の1%	0.12	0.12	労務費の1%

備考 1. 呼び径75～300㎜のP-Linkの接合は直管部の歩掛に30%を上限として割増する事ができる。
2. 呼び径75～300㎜のG-Linkの接合は異形管部の歩掛~~に30%を上限として割増する事ができる。~~の60%増とする。

2－3－9　S50形継手接合歩掛表
第9表　（S50形）

（1口当り）

呼び径 (mm)	直　管		
	配管工	普通作業員	諸雑費
50	0.05	0.05	1%

備考　異形管、切管施工時の抜止め押輪の接合は直管歩掛の60%増とする。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

2－3－9　NS形・SⅡ形・GX形継手挿口加工歩掛表

第 7－2 表　（NS 形・GX 形）

（1口当り）

呼び径 (mm)	リベット式 NS形 配管工 (人)	リベット式 NS形 普通作業員 (人)	タッピンねじ式 NS形 配管工 (人)	タッピンねじ式 NS形 普通作業員 (人)	タッピンねじ式 GX形 配管工 (人)	タッピンねじ式 GX形 普通作業員 (人)	諸雑費
75	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	労務費の5%
100	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	
150	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	
200	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	
250	0.06	0.06	0.04	0.04	0.04	0.04	
300	0.07	0.07	0.04	0.04	0.04	0.04	
350	0.07	0.07	0.04	0.04			
400	0.07	0.07	0.05	0.05			
450	0.07	0.07	0.05	0.05			

備考 1．本表は、現地挿口加工の際、切断・溝切り加工後の挿口リングの取付け歩掛である。
　　 2．諸雑費には、工具損料、ドリル刃損耗費を含む。

P51　第 7－3 表　（SⅡ形）
（表　略）

2－3－10　NS形・S形・US形継手挿口加工歩掛表

第 8 表　（NS 形・S 形・US 形）
（表　略）

P52　**2－3－11　水圧試験歩掛表**

第 9 表　φ900㎜ 以上のダクタイル鋳鉄管の継手部に使用
（表　略）

改定（平成 27 年度）

2－3－10　NS形・SⅡ形・GX形継手挿口加工歩掛表

第 10－1 表　（NS 形・GX 形）

（1口当り）

呼び径 (mm)	リベット式 NS形 配管工 (人)	リベット式 NS形 普通作業員 (人)	タッピンねじ式 NS形 配管工 (人)	タッピンねじ式 NS形 普通作業員 (人)	タッピンねじ式 GX形 配管工 (人)	タッピンねじ式 GX形 普通作業員 (人)	諸雑費
75	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	労務費の5%
100	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	
150	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	
200	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	
250	0.06	0.06	0.04	0.04	0.04	0.04	
300	0.07	0.07	0.04	0.04	0.04	0.04	
350	0.07	0.07	0.04	0.04	－	－	
400	0.07	0.07	0.05	0.05	0.05	0.05	
450	0.07	0.07	0.05	0.05	－	－	

備考 1．本表は、現地挿口加工の際、切断・溝切り加工後の挿口リングの取付け歩掛である。
　　 2．諸雑費には、工具損料、ドリル刃損耗費を含む。

第 10－2 表　（SⅡ形）
（表　略）

2－3－11　NS形・S形・US形継手挿口加工歩掛表

第 11 表　（NS 形・S 形・US 形）
（表　略）

2－3－12　水圧試験歩掛表

第 12 表　φ900㎜ 以上のダクタイル鋳鉄管の継手部に使用
（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P53	2－3－12　ポリエチレンスリーブ被覆歩掛表	2－3－13　ポリエチレンスリーブ被覆歩掛表

現行（平成 26 年度）

2－3－12　ポリエチレンスリーブ被覆歩掛表

第 10 表

（100m当り）

呼び径 (mm)	労務費		諸雑費		
	配管工 (人)	普通作業員 (人)	ポリエチレンスリーブ (m)	固定具 固定用ゴムバンドの場合(組)	固定具 粘着テープの場合(m)
			A	B	
75以下	0.25	0.25	(a式による)	(b式による)	51.0
100	0.30	0.30			61.2
150	0.35	0.35			83.6
200	0.43	0.43			104.0
250	0.51	0.51			126.5
300	0.59	0.59			147.9
350	0.67	0.67			168.3
400	0.75	0.75			190.4
450	0.83	0.83			210.8
500	0.91	0.91			232.9
600	1.00	1.00			275.4
700	1.17	1.17			317.9
800	1.33	1.33			360.4
900	1.50	1.50			404.6
1000	1.67	1.67			447.1
1100	1.83	1.83			489.6
1200	2.00	2.00			532.1
1350	2.25	2.25			596.7
1500	2.50	2.50			659.6
1600	2.80	2.80			698.7
1650	3.10	3.10			719.1
1800	3.40	3.40			780.3
2000	3.75	3.75			869.6
2100	4.05	4.05			912.9
2200	4.50	4.50			961.4
2400	5.00	5.00			1035.3
2600	5.50	5.50			1129.7

備考 1．本表は、呼び径　50mmは管長3m
呼び径　100mm以下は管長4m
呼び径　250mm以下は管長5m
呼び径1500mm以下は管長6m
呼び径1600mm以上は管長4mについての歩掛である。

2．ポリエチレンスリーブを管1本当り単位とする場合は、C表の管1本当りスリーブ長で割戻すこと。

3．固定用ゴムバンドは、1組当り2条とした場合の歩掛である。また、使用組数を継手1箇所当り4組とし、直部1m当り（継手1箇所当り1mを除く）1組とした場合の歩掛である。

a　100m当りポリエチレンスリーブ使用量(A)の算定

$$A(m) = \frac{L_2 \times (1+a)}{L_1} \times 100.0m \quad \cdots\cdots a式$$

L_1:直管長(m/本) ……c表

L_2:管1本当りスリーブ長(m) ……c表

a:ポリエチレンスリーブ割増係数 ……c表

b　100m当り固定バンド使用量(B)の算定

$$B(組) = \frac{4組 \times (1+\beta) + (L_1 - 1.0m)}{L_1} \times 100.0m \quad \cdots\cdots b式$$

L_1:直管長(m/1本) ……c表

β:固定バンド割増係数……c表

c　管1本当りポリエチレンスリーブ長、直管長、固定バンド、割増係数は次表による。

改定（平成 27 年度）

2－3－13　ポリエチレンスリーブ被覆歩掛表

第 13 表

（100m当り）

呼び径 (mm)	労務費		雑材料		
	配管工 (人)	普通作業員 (人)	ポリエチレンスリーブ (m)	固定具 固定用ゴムバンドの場合(組)	固定具 粘着テープの場合(m)
			A	B	
75以下	0.25	0.25	(a式による)	(b式による)	51.0
100	0.30	0.30			61.2
150	0.35	0.35			83.6
200	0.43	0.43			104.0
250	0.51	0.51			126.5
300	0.59	0.59			147.9
350	0.67	0.67			168.3
400	0.75	0.75			190.4
450	0.83	0.83			210.8
500	0.91	0.91			232.9
600	1.00	1.00			275.4
700	1.17	1.17			317.9
800	1.33	1.33			360.4
900	1.50	1.50			404.6
1000	1.67	1.67			447.1
1100	1.83	1.83			489.6
1200	2.00	2.00			532.1
1350	2.25	2.25			596.7
1500	2.50	2.50			659.6
1600	2.80	2.80			698.7
1650	3.10	3.10			719.1
1800	3.40	3.40			780.3
2000	3.75	3.75			869.6
2100	4.05	4.05			912.9
2200	4.50	4.50			961.4
2400	5.00	5.00			1035.3
2600	5.50	5.50			1129.7

備考 1．本表は、~~呼び径　50mm以下は管長3m~~
呼び径　100mm以下は管長4m
呼び径　250mm以下は管長5m
呼び径1500mm以下は管長6m
呼び径1600mm以上は管長4mについての歩掛である。

2．ポリエチレンスリーブを管1本当り単位とする場合は、C表の管1本当りスリーブ長で割戻すこと。

3．固定用ゴムバンドは、1組当り2条とした場合の歩掛である。また、使用組数を継手1箇所当り4組とし、直部1m当り（継手1箇所当り1mを除く）1組とした場合の歩掛である。

a　100m当りポリエチレンスリーブ使用量(A)の算定

$$A(m) = \frac{L_2 \times (1+\alpha)}{L_1} \times 100.0m \quad \cdots\cdots a式$$

L_1:直管長(m/本) ……c表

L_2:管1本当りスリーブ長(m) ……c表

α:ポリエチレンスリーブ割増係数 ……c表

b　100m当り固定バンド使用量(B)の算定

$$B(組) = \frac{4組 \times (1+\beta) + (L_1 - 1.0m)}{L_1} \times 100.0m \quad \cdots\cdots b式$$

L_1:直管長(m/1本) ……c表

β:固定バンド割増係数……c表

c　管1本当りポリエチレンスリーブ長、直管長、固定バンド、割増係数は次表による。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

P54

c 表

呼び径(mm)	直管長(m)	ポリエチレンスリーブ		固定バンド
		管1本当りスリーブ長(m)	割増係数	割増係数
50	3.0	4.0	0～0.2	0～0.5
75～100	4.0	5.0	0～0.2	0～0.5
150～250	5.0	6.0	0～0.2	0～0.5
300～350	6.0	7.0	0～0.2	0～0.5
400～450	6.0	7.0	0～0.1	0～0.1
500～1500	6.0	7.5	0～0.1	0～0.1
1600～2600	4.0	5.5	0～0.1	0～0.1

備考 ポリエチレンスリーブの割増係数は、異形管、切管等に伴い使用不能となる材料割増しである。
また、固定バンド割増係数は、異形管、切管等に伴う接合箇所数の割増である。

P55

2－3－13　不断水連絡歩掛表

第 11 表

（1箇所当り）

本管呼び径×取出呼び径(mm)	特殊作業員(人)	配管工(人)	普通作業員(人)	機械損料(日)	諸雑費
φ 75×φ 40	0.22	0.55	1.29	0.14	労務5%
φ 75×φ 50					
φ 75×φ 75	0.27	0.56	1.63	0.21	〃
φ100×φ 40	0.22	0.58	1.34	0.14	〃
φ100×φ 50					
φ100×φ 75	0.27	0.59	1.68	0.21	〃
φ100×φ100	0.28	0.61	1.72	0.22	〃
φ150×φ 40	0.22	0.64	1.44	0.14	〃
φ150×φ 50					
φ150×φ 75	0.27	0.65	1.78	0.21	〃
φ150×φ100	0.28	0.67	1.82	0.22	〃
φ150×φ150	0.30	0.68	1.87	0.25	〃
φ200×φ 40	0.22	0.71	1.54	0.14	〃
φ200×φ 50					
φ200×φ 75	0.27	0.72	1.88	0.21	〃
φ200×φ100	0.28	0.74	1.92	0.22	〃
φ200×φ150	0.30	0.75	1.97	0.25	〃
φ200×φ200	0.32	0.77	2.03	0.27	〃
φ250×φ 40	0.48	0.79	1.64	0.14	〃
φ250×φ 50					
φ250×φ 75	0.53	0.80	1.98	0.21	〃
φ250×φ100	0.54	0.82	2.02	0.22	〃
φ250×φ150	0.56	0.83	2.07	0.25	〃
φ250×φ200	0.58	0.85	2.13	0.27	〃
φ300×φ 40	0.53	0.87	1.74	0.14	〃
φ300×φ 50					
φ300×φ 75	0.58	0.88	2.08	0.21	〃
φ300×φ100	0.59	0.90	2.12	0.22	〃
φ300×φ150	0.61	0.91	2.17	0.25	〃
φ300×φ200	0.63	0.93	2.23	0.27	〃

備考 1. 本表は鋳鉄管からの分岐とし、割丁字管取付けから穿孔完了までの作業に適用する。
2. 諸雑費には燃料・カッター刃の消耗費及び特殊工具損料費を含む。
3. 分岐機械の損料は、「第二編 参考資料 第2章 建設機械損料算定表」不断水穿孔機による。

改定（平成 27 年度）

c 表

呼 び 径(mm)	直管長(m)	ポリエチレンスリーブ		固定バンド
		管1本当りスリーブ長(m)	割増係数	割増係数
~~50~~	~~3.0~~	~~4.0~~	~~0～0.2~~	~~0～0.5~~
50～100	4.0	5.0	0～0.2	0～0.5
150～250	5.0	6.0	0～0.2	0～0.5
300～350	6.0	7.0	0～0.2	0～0.5
400～450	6.0	7.0	0～0.1	0～0.1
500～1500	6.0	7.5	0～0.1	0～0.1
1600～2600	4.0	5.5	0～0.1	0～0.1

備考 ポリエチレンスリーブの割増係数は、異形管、切管等に伴い使用不能となる材料割増しである。
また、固定バンド割増係数は、異形管、切管等に伴う接合箇所数の割増である。

2－3－14　不断水連絡歩掛表

第 14 表

（1箇所当り）

本管呼び径×取出呼び径(mm)	特殊作業員(人)	配管工(人)	普通作業員(人)	機械損料(日)	諸雑費
φ 75×φ 40	0.22	0.55	1.29	0.14	労務費の5%
φ 75×φ 50					
φ 75×φ 75	0.27	0.56	1.63	0.21	
φ100×φ 40	0.22	0.58	1.34	0.14	
φ100×φ 50					
φ100×φ 75	0.27	0.59	1.68	0.21	
φ100×φ100	0.28	0.61	1.72	0.22	
φ150×φ 40	0.22	0.64	1.44	0.14	
φ150×φ 50					
φ150×φ 75	0.27	0.65	1.78	0.21	
φ150×φ100	0.28	0.67	1.82	0.22	
φ150×φ150	0.30	0.68	1.87	0.25	
φ200×φ 40	0.22	0.71	1.54	0.14	
φ200×φ 50					
φ200×φ 75	0.27	0.72	1.88	0.21	
φ200×φ100	0.28	0.74	1.92	0.22	
φ200×φ150	0.30	0.75	1.97	0.25	
φ200×φ200	0.32	0.77	2.03	0.27	
φ250×φ 40	0.48	0.79	1.64	0.14	
φ250×φ 50					
φ250×φ 75	0.53	0.80	1.98	0.21	
φ250×φ100	0.54	0.82	2.02	0.22	
φ250×φ150	0.56	0.83	2.07	0.25	
φ250×φ200	0.58	0.85	2.13	0.27	
φ300×φ 40	0.53	0.87	1.74	0.14	
φ300×φ 50					
φ300×φ 75	0.58	0.88	2.08	0.21	
φ300×φ100	0.59	0.90	2.12	0.22	
φ300×φ150	0.61	0.91	2.17	0.25	
φ300×φ200	0.63	0.93	2.23	0.27	

備考 1. 本表は鋳鉄管からの分岐とし、割丁字管取付けから穿孔完了までの作業に適用する。
2. 諸雑費には燃料・カッター刃の損耗費及び特殊工具損料費を含む。
3. 分岐機械の損料は、「第二編 参考資料 第2章 建設機械損料算定表」不断水穿孔機による。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P56		

現行（平成 26 年度）

2－3－14　管明示テープ歩掛表

第 12 表

（100m当り）

呼び径・寸法(mm)	普通作業員(人)	天端明示の有無
φ　75×4000	0.11	無
φ　100×4000	0.12	無
φ　150×5000	0.11	無
φ　200×5000	0.12	無
φ　250×5000	0.12	無
φ　300×6000	0.11	無
φ　350×6000	0.12	無
φ　400×6000	0.17	有
φ　450×6000	0.17	有
φ　500×6000	0.18	有
φ　600×6000	0.19	有
φ　700×6000	0.29	有
φ　800×6000	0.31	有
φ　900×6000	0.32	有
φ1000×6000	0.33	有
φ1100×6000	0.35	有
φ1200×6000	0.36	有
φ1350×6000	0.38	有
φ1500×6000	0.49	有
φ1600×4000	0.64	有
φ1600×5000	0.59	有
φ1650×4000	0.66	有
φ1650×5000	0.60	有
φ1800×4000	0.68	有
φ1800×5000	0.62	有
φ2000×4000	0.83	有
φ2000×5000	0.76	有

備考 1. 歩掛は、テープの胴巻き作業等、テープの貼り付け手間である。
2. 胴巻きテープの間隔等については以下を標準とする。
・管長4m以下　3箇所/本
・管長5～6m以下　4箇所/本
・胴巻きテープは1回半巻きを標準とする。

2－3－15　管明示シート歩掛表

第 13 表

（表　略）

改定（平成 27 年度）

2－3－15　管明示テープ歩掛表

第 15-1 表　φ350 以下

（100m当り）

呼び径・寸法(mm)	普通作業員(人)	天端明示の有無
φ　50×4000	0.09	無
φ　75×4000	0.11	無
φ　100×4000	0.12	無
φ　150×5000	0.11	無
φ　200×5000	0.12	無
φ　250×5000	0.12	無
φ　300×6000	0.11	無
φ　350×6000	0.12	無

備考 1. 歩掛は、テープの胴巻き作業~~等、テープ~~の貼り付け手間である。
2. 胴巻きテープの間隔等については以下を標準とする。
・管長4m以下　3箇所/本
・管長5～6m以下　4箇所/本
・胴巻きテープは1回半巻きを標準とする。

第 15-2 表　φ400～φ2000

（100m当り）

呼び径・寸法(mm)	普通作業員(人)	天端明示の有無
φ　400×6000	0.17	有
φ　450×6000	0.17	有
φ　500×6000	0.18	有
φ　600×6000	0.19	有
φ　700×6000	0.29	有
φ　800×6000	0.31	有
φ　900×6000	0.32	有
φ1000×6000	0.33	有
φ1100×6000	0.35	有
φ1200×6000	0.36	有
φ1350×6000	0.38	有
φ1500×6000	0.49	有
φ1600×4000	0.64	有
φ1600×5000	0.59	有
φ1650×4000	0.66	有
φ1650×5000	0.60	有
φ1800×4000	0.68	有
φ1800×5000	0.62	有
φ2000×4000	0.83	有
φ2000×5000	0.76	有

備考 1. 歩掛は、テープの胴巻き作業及び天端明示作業等~~、テープ~~の貼り付け手間である。
2. 胴巻きテープの間隔等については以下を標準とする。
・管長4m以下　3箇所/本
・管長5～6m以下　4箇所/本
・胴巻きテープは1回半巻きを標準とする。
3. 天端明示作業は100m当り0.04人とする。
表中の普通作業員（人）には、天端明示作業人工を含む。

2－3－16　管明示シート歩掛表

第 16 表

（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P57	**2－4－1－1　小口径管切断歩掛表** 第 1－2 表 （表　略） 備考１．雑材料には、燃料、カッターの刃損耗費を含む。	**2－4－1－1　小口径管切断歩掛表** 第 1－2 表 （表　略） 備考１．諸雑費には、燃料、カッターの刃損耗費を含む。
	2－4－1－2　小口径管ねじ切り歩掛表 第 1－3 表 （表　略） 備考１．ねじ切りは、オースター使用によるもので、機械損料を含む。	**2－4－1－2　小口径管ねじ切り歩掛表** 第 1－3 表 （表　略） 備考１．本表は、オースター使用によるねじ切りの歩掛である。 ２．諸雑費には、機械損料を含む。
P58	**2－4－1－3　小口径管ねじ込み接合歩掛表** 第 1－4 表 （表　略） 備考１．機械損料を含む。	**2－4－1－3　小口径管ねじ込み接合歩掛表** 第 1－4 表 （表　略） 備考１．諸雑費には、機械損料を含む。
P61	**2－4－4　電気溶接歩掛表** (1)呼び厚さ A 種 第 4 表　（一部抜粋）	**2－4－4　電気溶接歩掛表** (1)呼び厚さ A 種 第 4 表　（一部抜粋）

現行（平成 26 年度）

呼び径(mm)	鋼管規格	板厚(mm)	労務費 溶接工(人)	労務費 特殊作業員(人)	労務費 世話役(人)	諸雑費（材料費及び器具損料） 交流溶接の場合	諸雑費（材料費及び器具損料） 直流溶接の場合
80	STW370	4.5	0.20	0.20	0.20	労務費の2.0%	労務費の5.0%
100	〃	4.9	0.22	0.22	0.22		
125	〃	5.1	0.25	0.25	0.25		
150	〃	5.5	0.26	0.26	0.26		
200	〃	6.4	0.33	0.66	0.33		
250	〃	6.4	0.38	0.76	0.38		
300	〃	6.4	0.41	0.82	0.41		
350	STW400	6.0	0.47	0.94	0.47		
400	〃	6.0	0.49	0.98	0.49		
450	〃	6.0	0.50	1.00	0.50		
500	〃	6.0	0.55	1.10	0.55		
600	〃	6.0	0.63	1.26	0.63		
700	〃	7.0	0.92	1.84	0.92		
800	〃	8.0	1.01	2.02	〃	労務費の4.5%	労務費の9.5%
900	〃	8.0	1.13	2.06	〃		
1000	〃	9.0	1.39	2.29	0.93		
1100	〃	10.0	1.69	2.54	1.03		
1200	〃	11.0	2.03	3.05	1.04		
1350	〃	12.0	2.51	3.77	〃		
1500	〃	14.0	3.31	4.41	1.21		
1600	〃	15.0	3.85	5.13	1.28		
1650	〃	15.0	3.97	5.29	1.32		

備考１．（略）
２．材料費及び器具損料とは、溶接棒、酸素、アセチレン、直流溶接機の場合の軽油及び油脂類、交流溶接機の場合の電力料金、当該機械器具（デイーゼルエンジン付アーク溶接機、交流型アーク溶接機）損料、消耗品及び工具類 1 式のことである。
３及び４（略）

改定（平成 27 年度）

呼び径(mm)	鋼管規格	板厚(mm)	労務費 溶接工(人)	労務費 特殊作業員(人)	労務費 世話役(人)	諸雑費（材料費及び器具損料） 交流溶接の場合	諸雑費（材料費及び器具損料） 直流溶接の場合
80	STW370	4.5	0.20	0.20	0.20	労務費の2.0%	労務費の5.0%
100	〃	4.9	0.22	0.22	0.22		
125	〃	5.1	0.25	0.25	0.25		
150	〃	5.5	0.26	0.26	0.26		
200	〃	6.4	0.33	0.66	0.33		
250	〃	6.4	0.38	0.76	0.38		
300	〃	6.4	0.41	0.82	0.41		
350	STW400	6.0	0.47	0.94	0.47		
400	〃	6.0	0.49	0.98	0.49		
450	〃	6.0	0.50	1.00	0.50		
500	〃	6.0	0.55	1.10	0.55		
600	〃	6.0	0.63	1.26	0.63		
700	〃	7.0	0.92	1.84	0.92		
800	〃	8.0	1.01	2.02	0.92	労務費の4.5%	労務費の9.5%
900	〃	8.0	1.13	2.06	0.92		
1000	〃	9.0	1.39	2.29	0.93		
1100	〃	10.0	1.69	2.54	1.03		
1200	〃	11.0	2.03	3.05	1.04		
1350	〃	12.0	2.51	3.77	1.04		
1500	〃	14.0	3.31	4.41	1.21		
1600	〃	15.0	3.85	5.13	1.28		
1650	〃	15.0	3.97	5.29	1.32		

備考１．（略）
２．諸雑費（材料費及び器具損料）には、溶接棒、酸素、アセチレン、直流溶接機の場合の軽油及び油脂類、交流溶接機の場合の電力料金、当該機械器具（ディーゼルエンジン付アーク溶接機、交流型アーク溶接機）損料、消耗品及び工具類１式を含む。
３及び４（略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P62	(2)呼び厚さ B 種 第 5 表 （表　略） 備考１及び２（略） ３．材料費及び器具損料とは、溶接棒、酸素、アセチレン、直流溶接機の場合の軽油及び油脂類、交流溶接機の場合の電力料金、当該機械器具（デイーゼルエンジン付アーク溶接機、交流型アーク溶接機）損料、消耗品及び工具類 1 式のことである。 ４及び５（略）	(2)呼び厚さ B 種 第 5 表 （表　略） 備考１及び２（略） ３．諸雑費（材料費及び器具損料）には、溶接棒、酸素、アセチレン、直流溶接機の場合の軽油及び油脂類、交流溶接機の場合の電力料金、当該機械器具（ディーゼルエンジン付アーク溶接機、交流型アーク溶接機）損料、消耗品及び工具類１式を含む。 ４及び５（略）
P63	**2－4－5　電気溶接歩掛表（裏当溶接）** 第 6 表 （表　略） 備考１．（略） ２．材料費及び器具損料とは、溶接棒、酸素、アセチレン、直流溶接の場合の経由及び油脂類、交流溶接の場合の電力料金、当該機械器具（ディーゼルエンジン付アーク溶接機、交流アーク溶接機）損料、消耗品及び工具類 1 式のことである。 ３～５（略）	**2－4－5　電気溶接歩掛表（裏当溶接）** 第 6 表 （表　略） 備考１．（略） ２．諸雑費（材料費及び器具損料）には、溶接棒、酸素、アセチレン、直流溶接機の場合の軽油及び油脂類、交流溶接機の場合の電力料金、当該機械器具（ディーゼルエンジン付アーク溶接機、交流アーク溶接機）損料、消耗品及び工具類１式を含む。 ３～５（略）
P64	第 7 表 （表　略） 備考１．本表は、STW400A シリーズを標準板厚として算出した補正表である。 ２（略）	第 7 表 （表　略） 備考１．本表は、STW400A シリーズを標準板厚として算定した補正表である。 ２（略）
P65	**2－4－6　ステンレス鋼管電気溶接歩掛表** 第 8 表 （表　略） 備考１．本歩掛表は外面 V 開先として算出したものである。 ２及び３（略） ４．材料費及び器具損料とは、テイグ溶接溶加材、ステンレスアーク溶接棒、アルゴンガス、直流溶接機の場合の軽油及び油脂類、交流溶接機の場合の電力料金、当該機器具（テイグ溶接機、アーク溶接機、発動発電機）損料、消耗品及び工具類１式のことである。 ５．消耗品及び工具類１式とは、治具加工用の酸素、アセチレン、ステンレス用砥石（開先加工用・仕上げ用）、酸化防止用の酸化剤、バックシールド用器具・ワイヤブラシ、絶縁テープ、遮光ガラス、革手袋、ウエスその他雑品及び工具等を含む。 ６～８（略）	**2－4－6　ステンレス鋼管電気溶接歩掛表** 第 8 表 （表　略） 備考１．本歩掛表は外面 V 開先として算定したものである。 ２及び３（略） ４．諸雑費（材料費及び器具損料）には、ティグ溶接溶加材、ステンレスアーク溶接棒、アルゴンガス、直流溶接機の場合の軽油及び油脂類、交流溶接機の場合の電力料金、当該機械器具（ティグ溶接機、アーク溶接機、発動発電機）損料、消耗品及び工具類１式を含む。 ５．消耗品及び工具類１式には、治具加工用の酸素、アセチレン、ステンレス用砥石（開先加工用・仕上げ用）、酸化防止用の酸化剤、バックシールド用器具、ワイヤブラシ、絶縁テープ、遮光ガラス、革手袋、ウエスその他雑品及び工具等を含む。 ６～８（略）
P66	**2－4－7　内外面塗装歩掛表** （表　略） 第 9 表 備考１．本歩掛表は現場塗装幅を 240㎜ として算出したものである。その他の塗装幅は別途算出すること。なお、現場塗装幅 240㎜ 以下の場合の労務費は、本歩掛表の値を適用できる。 （数式　略） ２．内外面塗装費については、ウエス、マスク、ワイヤブラシ、手袋、塗装刷毛、その他雑品工具類を含む。 ３～５（略）	**2－4－7　内外面塗装歩掛表** （表　略） 第 9 表 備考１．本歩掛表は現場塗装幅を 240㎜ として算定したものである。その他の塗装幅は別途算出すること。なお、現場塗装幅 240㎜ 以下の場合の労務費は、本歩掛表の値を適用できる。 （数式　略） ２．諸雑費（消耗品及び工具損料）には、ウエス、マスク、ワイヤブラシ、手袋、塗装刷毛、その他雑品及び工具類を含む。 ３～５（略）
P67	第 10 表 （表　略） （注）本歩掛表は現場塗装幅を 240㎜ として算出したものである。その他の塗装幅の場合は別途算出すること。なお、現場塗装幅 240㎜ 以上 340㎜ 以下の場合の労務費は、本歩掛表の値を適用できる。 （数式　略）	第 10 表 （表　略） 備考１．本歩掛表は現場塗装幅を 240㎜ として算定したものである。その他の塗装幅の場合は別途算出すること。なお、現場塗装幅 240㎜ 以上 340㎜ 以下の場合の労務費は、本歩掛表の値を適用できる。 （数式　略） ２．諸雑費（消耗品及び工具損料）には、ウエス、マスク、ワイヤブラシ、手袋、塗装刷毛、その他雑品及び工具類を含む。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P68	**2－4－8　外面塗装歩掛表（ジョイントコート）** 1)熱収縮タイプ 第 10 表 （表　略） 備考１及び２（略） ３．消耗品及び工具損料はワイヤブラシ、グラインダー、ハンマ、プロパンバーナー、皮手袋、ウエス、その他工具類。	**2－4－8　外面塗装歩掛表（ジョイントコート）** 1)熱収縮タイプ 第 11 表 （表　略） 備考１及び２（略） ３．諸雑費（消耗品及び工具損料）には、ワイヤブラシ、グラインダー、ハンマ、プロパンバーナー、革手袋、ウエス、その他雑品及び工具類を含む。
P69	2)ゴム系シートタイプ 第 11 表　（一部抜粋） 呼び径（mm）／外面塗装費／労務費：塗装工(人)／材料費：ゴムシート材(個)／諸雑費（工具損料） 80：0.06／1.00／材料費の2% 100：0.06／1.00 125：0.06／1.00 150：0.07／1.00 備考１．(略) ２．消耗品及び工具損料　ワイヤブラシ、グラインダー、ウエス、その他雑品及び工具。	2)ゴム系シートタイプ 第 12 表　（一部抜粋） 呼び径（mm）／外面塗装費／労務費：塗装工(人)／材料費：ゴムシート材(個)／諸雑費（消耗品及び工具損料） 80：0.06／1.00／材料費の2% 100：0.06／1.00 125：0.06／1.00 150：0.07／1.00 備考１．(略) ２．諸雑費（消耗品及び工具損料）には、ワイヤブラシ、グラインダー、ウエス、その他雑品及び工具類を含む。
P70	**2－4－9　X 線検査歩掛表** (1)　代価表 (表番号無し) （表　略） (2)　1 日当り標準撮影枚数 (表番号無し) （表　略） (3)　X 線撮影標準頻度（現場状況を勘案して増減することができる） (表番号無し) （表　略） **2－4－10　超音波検査歩掛表** (2)　代価表 (表番号無し) （表　略） (3)　1 日当り標準検査箇所数 (表番号無し) （表　略） (4)　超音波検査箇所数 超音波検査箇所数は（溶接口数×検査率×1 口当り検査箇所数）とする。 (表番号無し) （表　略）	**2－4－9　X 線検査歩掛表** (1)　代価表 第 13－1 表 （表　略） (2)　1 日当り標準撮影枚数 第 13－2 表 （表　略） (3)　X 線撮影標準頻度（現場状況を勘案して増減することができる） 第 13－3 表 （表　略） **2－4－10　超音波検査歩掛表** (2)　代価表 第 14－1 表 （表　略） (3)　1 日当り標準検査箇所数 第 14－2 表 （表　略） (4)　超音波検査箇所数 超音波検査箇所数は（溶接口数×検査率×1 口当り検査箇所数）とする。 第 14－3 表 （表　略）
P71	**2－4－11　防凍工歩掛表** 第 12 表 （表　略）	**2－4－11　防凍工歩掛表** 第 15 表 （表　略）

別　紙

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P72

2－5－1　硬質塩化ビニル管布設歩掛表

第１表

（表　略）

備考１～３（略）

４．離脱防止金具を使用とする場合は RR 継手工の 30%割増とする。

５（略）

P73

2－5－3　管明示テープ歩掛表

第３表

（表　略）

備考 1．歩掛は、テープの胴巻き作業等、テープの貼り付け手間である。

P74

2－6－1　ポリエチレン管布設歩掛表

（表番号無し）

（表　略）

2－6－2　ポリエチレン管（融着接合）布設歩掛表

1)歩掛

（表番号無し）

（表　略）

2)代価表

（表番号無し）ポリエチレン管（融着接合）継手工

（1箇所当り）

名　　称	形 状 寸 法	単位	数量	金額	摘　　要
配管工		人			
普通作業員		人			
諸雑費（機械器具損料・消耗品）		%	8.5		労務費の8.5%
計					

P75

2－6－3　ポリエチレン管（メカニカル継手）布設歩掛表

（表番号無し）

（表　略）

2－6－4　管明示テープ歩掛表

（表番号無し）

（100m当り）

呼び径(mm)	普通作業員(人)	天端明示の有無
φ 50	0.09	無
φ 75	0.10	無
φ100	0.10	無
φ150	0.11	無
φ200	0.12	無

備考 1．歩掛は、テープの胴巻き作業等、テープの貼り付け手間である。

2．胴巻きテープの間隔は、管長が5mにつき、1本当り4箇所とする。

改定（平成 27 年度）

2－5－1　硬質塩化ビニル管布設歩掛表

第１表

（表　略）

備考１～３（略）

４．離脱防止金具を使用~~と~~する場合は RR 継手工の 30%割増とする。

５（略）

2－5－3　管明示テープ歩掛表

第３表

（表　略）

備考 1．歩掛は、テープの胴巻き作業~~等、テープ~~の貼り付け手間である。

2－6－1　ポリエチレン管布設歩掛表

第１表

（表　略）

2－6－2　ポリエチレン管（融着接合）布設歩掛表

1)歩掛

第２－１表

（表　略）

2)代価表

第２－２表　ポリエチレン管（融着接合）継手工

（1箇所当り）

名　　称	形 状 寸 法	単位	数量	金額	摘　　要
配管工		人			
普通作業員		人			
諸雑費（機械器具損料・消耗品）		式	1		労務費の8.5%
計					

2－6－3　ポリエチレン管（メカニカル継手）布設歩掛表

第３表

（表　略）

2－6－4　管明示テープ歩掛表

第４表

（100m当り）

呼び径(mm)	普通作業員(人)	天端明示の有無
φ 50	0.09	無
φ 75	0.10	無
φ100	0.10	無
φ150	0.11	無
φ200	0.12	無

備考 1．歩掛は、テープの胴巻き作業の貼り付け手間である。

2．胴巻きテープの間隔は、管長が5mにつき、1本当り4箇所とする。

別　紙

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

P76

現行（平成 26 年度）

2−7−1　吊込み据付（機械力）歩掛表

第 1−2 表　鉄筋コンクリート管布設歩掛表

種　目	単位	呼び径(mm)									
		200	250	300	350	400	450	500	600	700	800
世　話　役	人	0.31	0.32	0.33	0.34	0.35	0.36	0.37	0.39	0.41	0.43
特 殊 作 業 員	人	0.62	0.64	0.66	0.68	0.70	0.72	0.74	0.78	0.82	0.86
普 通 作 業 員	人	0.62	0.64	0.66	0.68	0.70	0.72	0.74	1.17	1.23	1.29
トラッククレーン賃料	日	0.31	0.32	0.33	0.34	0.35	0.36	0.37	0.39	0.41	0.43
諸　雑　費	%	1									

種　目	単位	呼び径(mm)										
		900	1000	1100	1200	1350	1500	1650	1800	2000	2200	2400
世　話　役	人	0.45	0.48	0.50	0.53	0.57	0.62	0.67	0.72	0.80	0.89	0.99
特 殊 作 業 員	人	0.90	0.96	1.00	1.06	1.14	1.24	1.34	1.44	1.60	1.78	1.98
普 通 作 業 員	人	1.35	1.44	1.50	1.59	1.71	1.86	2.01	2.16	2.40	2.67	2.97
トラッククレーン賃料	日	0.45	0.48	0.50	0.53	0.57	0.62	0.67	0.72	0.80	0.89	0.99
諸　雑　費	%	1										

第 1−3 表　鉄筋コンクリート管布設歩掛表

種　目	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	概　要
世　話　役		人				第1-2表
特 殊 作 業 員		人				第1-2表
普 通 作 業 員		人				第1-2表
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型○t吊	日				第1-1表、第1-2表
諸　雑　費		式	1			第1-2表
計						10m当り
1　m　当　り						計/10m

（備考　略）

改定（平成 27 年度）

2−7−1　吊込み据付（機械力）歩掛表

第 1−2 表　鉄筋コンクリート管布設歩掛表

（10m当り）

呼び径(mm)	労務費			トラッククレーン賃料(日)	諸雑費(式)
	世話役(人)	特殊作業員(人)	普通作業員(人)		
200	0.31	0.62	0.62	0.31	労務費の1%
250	0.32	0.64	0.64	0.32	
300	0.33	0.66	0.66	0.33	
350	0.34	0.68	0.68	0.34	
400	0.35	0.70	0.70	0.35	
450	0.36	0.72	0.72	0.36	
500	0.37	0.74	0.74	0.37	
600	0.39	0.78	1.17	0.39	
700	0.41	0.82	1.23	0.41	
800	0.43	0.86	1.29	0.43	
900	0.45	0.90	1.35	0.45	
1000	0.48	0.96	1.44	0.48	
1100	0.50	1.00	1.50	0.50	
1200	0.53	1.06	1.59	0.53	
1350	0.57	1.14	1.71	0.57	
1500	0.62	1.24	1.86	0.62	
1650	0.67	1.34	2.01	0.67	
1800	0.72	1.44	2.16	0.72	
2000	0.80	1.60	2.40	0.80	
2200	0.89	1.78	2.67	0.89	
2400	0.99	1.98	2.97	0.99	

第 1−3 表　鉄筋コンクリート管布設歩掛表

（1m当り）

種　目	形 状 寸 法	単位	数量	単価(円)	金額(円)	概　要
世　話　役		人				第1-2表
特 殊 作 業 員		人				第1-2表
普 通 作 業 員		人				第1-2表
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型○t吊	日				第1-1表、第1-2表
諸　雑　費		式	1			第1-2表
計						10m当り
1　m　当　り						計/10m

（備考　略）

P77

現行（平成 26 年度）

2−7−2　カラー継手歩掛表

第 3 表

（表　略）

2−7−3　ソケット継手歩掛表

第 4 表

（表　略）

改定（平成 27 年度）

2−7−2　カラー継手歩掛表

第 2 表

（表　略）

2−7−3　ソケット継手歩掛表

第 3 表

（表　略）

P78

現行（平成 26 年度）

2−8−1　鋳鉄管切断歩掛の適用区分

（表番号無し）

（表　略）

改定（平成 27 年度）

2−8−1　鋳鉄管切断歩掛の適用区分

第 1 表

（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

P80

2－8－3　鋳鉄管切断歩掛の適用区分

第 3－1 表　切断・溝切り同時（NS 形・SⅡ形・GX 形/パイプ切削切断機使用）

（1口当り）

呼び径 (mm)	NS形・SⅡ形			GX形			諸雑費
	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	
75	0.15	1.00	0.21	0.15	1.00	0.21	労務費の5%
100	0.16	1.02	0.22	0.16	1.02	0.22	
150	0.18	1.06	0.25	0.18	1.06	0.25	
200	0.20	1.10	0.27	0.20	1.10	0.27	
250	0.22	1.14	0.30	0.22	1.14	0.30	
300	0.24	1.18	0.32	0.24	1.18	0.32	
350	0.26	1.22	0.35				
400	0.28	1.25	0.37				
450	0.31	1.29	0.40				

備考 1．本表には、切断と溝切りを同時に実施する場合に適用する。
2．歩掛は、20m程度の現場内小運搬を含む。
3．諸雑費には、燃料、カッターの刃損耗費および塗装の補修費を含む。
4．NS形、GX形については面取り加工を含む。

第 3－2 表
（表　略）
備考１～３(略)

P81

第 3－3 表　切断・溝切り 2 工程（NS 形・GX 形／専用工具使用）

（1口当り）

呼び径 (mm)	NS形				GX形				諸雑費
	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	溝切り・切断刃損耗率	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	溝切り・切断刃損耗率	
75	0.16	0.33	0.19	0.014	0.16	0.33	0.19	0.014	労務費の1%
100	0.17	0.34	0.19	0.017	0.17	0.34	0.19	0.017	
150	0.18	0.36	0.21	0.025	0.18	0.36	0.21	0.025	
200	0.20	0.38	0.22	0.032	0.20	0.38	0.22	0.032	
250	0.21	0.40	0.24	0.040	0.21	0.40	0.24	0.040	
300	0.25	0.46	0.26	0.048	0.25	0.46	0.26	0.048	
350	0.27	0.49	0.28	0.055					
400	0.28	0.52	0.31	0.089					
450	0.31	0.54	0.33	0.100					

備考 1．本表は、タッピンねじ式専用工具(溝切り機及び切断機等)を使用して溝切り管切断を行う場合に適用。
2．歩掛は、20m程度の現場内小運搬を含む。
3．溝切り・切断刃の損耗費は、(溝切り刃価格×1/2＋切断刃価格)に表の刃損耗率を乗じて算出する。
4．諸雑費には、燃料、工具損耗費及び塗装の補修費を含む。
5．溝切り加工のみ行う場合は、本歩掛の70%とする。切断のみ行う場合は、第2-1表または第2-2表を適用する。

P82

2－8－4　鋼管切断歩掛表

第 4 表
（表　略）
備考１～３(略)
4．消耗品は、酸素、アセチレン及びサンダーストン（φ200mm）である e

5（略）

改定（平成 27 年度）

2－8－3　鋳鉄管切断歩掛の適用区分

第 3－1 表　切断・溝切り同時（NS 形・SⅡ形・GX 形/パイプ切削切断機使用）

（1口当り）

呼び径 (mm)	NS形・SⅡ形			GX形			諸雑費
	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	
75	0.15	1.00	0.21	0.15	1.00	0.21	労務費の5%
100	0.16	1.02	0.22	0.16	1.02	0.22	
150	0.18	1.06	0.25	0.18	1.06	0.25	
200	0.20	1.10	0.27	0.20	1.10	0.27	
250	0.22	1.14	0.30	0.22	1.14	0.30	
300	0.24	1.18	0.32	0.24	1.18	0.32	
350	0.26	1.22	0.35	—	—	—	
400	0.28	1.25	0.37	0.28	1.25	0.37	
450	0.31	1.29	0.40	—	—	—	

備考 1．本表には、切断と溝切りを同時に実施する場合に適用する。
2．歩掛は、20m程度の現場内小運搬を含む。
3．諸雑費には、燃料、カッターの刃損耗費および塗装の補修費を含む。
4．NS形、GX形については面取り加工を含む。

第 3－2 表
（表　略）
備考１～３(略)
4．NS形は呼び径500～1000mmにのみ適用する。

第 3－3 表　切断・溝切り 2 工程（NS 形・GX 形／専用工具使用）

（1口当り）

呼び径 (mm)	NS形				GX形				諸雑費
	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	溝切り・切断刃損耗率	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	機械損料 (日)	溝切り・切断刃損耗率	
75	0.16	0.33	0.19	0.014	0.16	0.33	0.19	0.014	労務費の1%
100	0.17	0.34	0.19	0.017	0.17	0.34	0.19	0.017	
150	0.18	0.36	0.21	0.025	0.18	0.36	0.21	0.025	
200	0.20	0.38	0.22	0.032	0.20	0.38	0.22	0.032	
250	0.21	0.40	0.24	0.040	0.21	0.40	0.24	0.040	
300	0.25	0.46	0.26	0.048	0.25	0.46	0.26	0.048	
350	0.27	0.49	0.28	0.055	—	—	—	—	
400	0.28	0.52	0.31	0.089	0.28	0.52	0.31	0.089	
450	0.31	0.54	0.33	0.100	—	—	—	—	

備考 1．本表は、タッピンねじ式専用工具(溝切り機及び切断機等)を使用して溝切り管切断を行う場合に適用。
2．歩掛は、20m程度の現場内小運搬を含む。
3．溝切り・切断刃の損耗費は、(溝切り刃価格×1/2＋切断刃価格)に表の刃損耗率を乗じて算出する。
4．諸雑費には、燃料、工具損耗費及び塗装の補修費を含む。
5．溝切り加工のみ行う場合は、本歩掛の70%とする。切断のみ行う場合は、第2-1表または第2-2表を適用する。

2－8－4　鋼管切断歩掛表

第 4 表
（表　略）
備考１～３(略)
4．諸雑費（消耗品及び工具損料）には、酸素、アセチレン、サンダーストン（φ200mm）、その他雑品及び工具損料を含む。
5（略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P83	2－8－5　ステンレス鋼管切断歩掛表 第 5 表 （1口当り）	2－8－5　ステンレス鋼管切断歩掛表 第 5 表 （1口当り）

現行（平成 26 年度）

呼び径	管厚(mm)	ステンレス 溶接工(人)	諸雑費
80A	3.0	0.12	労務費の15%
	4.0	0.15	
	5.5	0.22	
100A	3.0	0.13	〃
	4.0	0.16	
	6.0	0.24	
125A	3.4	0.16	〃
	5.0	0.22	
	6.6	0.30	
150A	3.4	0.17	〃
	5.0	0.23	
	7.1	0.33	
200A	4.0	0.19	〃
	6.5	0.30	
	8.2	0.38	
250A	4.0	0.21	〃
	6.5	0.35	
	9.3	0.49	
300A	4.5	0.31	〃
	6.5	0.44	
	10.3	0.70	
350A	5.0	0.49	〃
	6.0	0.58	
400A	5.0	0.58	〃
	6.0	0.70	
450A	5.0	0.68	〃
	6.0	0.82	
500A	5.5	0.86	〃
	6.0	0.93	
600A	6.0	1.05	〃
	6.5	1.14	
700A	6.0	1.22	〃
	7.0	1.43	
	8.0	1.63	

備考 1. 本表は、罫書、切断及び開先加工までとする。
2. 本表は、溶接工事に附帯する切断工事とする。
3. 罫書及び切断のみの歩掛は、本表の70%とし、開先加工のみの歩掛は本表の30%とする。
4. 諸雑費はエンジン付きプラズマ切断機及び諸雑費とする。
5. 諸雑費には、グラインダー、ステンレス用サンダーストン、チップ、電極、燃料等を含む。
6. ステンレス溶接工の単価は、実勢単価とする。

改定（平成 27 年度）

呼び径	管厚(mm)	ステンレス 溶接工(人)	諸雑費
80A	3.0	0.12	労務費の15%
	4.0	0.15	
	5.5	0.22	
100A	3.0	0.13	
	4.0	0.16	
	6.0	0.24	
125A	3.4	0.16	
	5.0	0.22	
	6.6	0.30	
150A	3.4	0.17	
	5.0	0.23	
	7.1	0.33	
200A	4.0	0.19	
	6.5	0.30	
	8.2	0.38	
250A	4.0	0.21	
	6.5	0.35	
	9.3	0.49	
300A	4.5	0.31	
	6.5	0.44	
	10.3	0.70	
350A	5.0	0.49	
	6.0	0.58	
400A	5.0	0.58	
	6.0	0.70	
450A	5.0	0.68	
	6.0	0.82	
500A	5.5	0.86	
	6.0	0.93	
600A	6.0	1.05	
	6.5	1.14	
700A	6.0	1.22	
	7.0	1.43	
	8.0	1.63	

備考 1. 本表は、罫書き、切断及び開先加工までとする。
2. 本表は、溶接工事に附帯する切断工事とする。
3. 罫書き及び切断のみの歩掛は、本表の70%とし、開先加工のみの歩掛は本表の30%とする。
4. 諸雑費はエンジン付きプラズマ切断機、消耗品及び工具損料とする。
5. 消耗品及び工具損料には、グラインダー、ステンレス用サンダーストン、チップ、電極及び燃料等を含む。
6. ステンレス溶接工の単価は、実勢単価とする。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P89

現行（平成 26 年度）

2－9－5　仕切弁・空気弁ボックス設置歩掛表

第 10 表　（一部抜粋）

（1個当り）

種類			内寸（mm）	高さ（mm）	1個当り質量（kg）	普通作業員（人）
円形	1号	調整リング	250	50	30kg未満	0.01
			250	100		0.01
		上部壁	250	150		0.01
		中部壁	250	100		0.01
			250	200		0.01
			250	300RB25(C)		0.01
		下部壁	250	300		0.01
			250	150		0.01
			250	300RB25(A)		0.01
		底版	250	40		0.01
	2号	調整リング	350	50		0.02
			350	100		0.02
		上部壁	350	150		0.02
		中部壁	350	100		0.02
			350	200		0.02
			350	300		0.02
		下部壁	350	300RB35(C)		0.02
			350	150		0.02
			350	300RB35(A)		0.02
		底版	350	40		0.02
		調整リング	500	50		0.02
		上部壁	500	200	30kg以上60kg未満	0.03

改定（平成 27 年度）

2－9－5　仕切弁・空気弁ボックス設置歩掛表

第 10 表　（一部抜粋）

（1個当り）

種類			内寸（mm）	高さ（mm）	1個当り質量（kg）	普通作業員（人）
円形	1号	調整リング	250	50	30kg未満	0.01
			250	100		0.01
		上部壁	250	150		0.01
		中部壁	250	100		0.01
			250	200		0.01
			250	300		0.01
		下部壁	250	300 (RB(C),RB(CA))		0.01
			250	150		0.01
			~~250~~	~~300RB25(A)~~		~~0.01~~
		底版	250	40		0.01
	2号	調整リング	350	50		0.02
			350	100		0.02
		上部壁	350	150		0.02
		中部壁	350	100		0.02
			350	200		0.02
			350	300		0.02
		下部壁	350	300 (RB(C),RB(CA))		0.02
			350	150		0.02
			~~350~~	~~300RB35(A)~~		~~0.02~~
		底版	350	40		0.02
		調整リング	500	50		0.02
		上部壁	500	200	30kg以上60kg未満	0.03

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号 P93

現行（平成 26 年度）

2－10－3　鋳鉄管継手取外し歩掛表

第 2 表

管種		補正対象歩掛		補正係数
鋳鉄管	K　形	「メカニカル継手歩掛表」		0.60
	フランジ	「フランジ継手歩掛表」		
	T　形	「T 形継手歩掛表」		
	S Ⅱ 形	「メカニカル継手歩掛表」		1.00
	S　形			
	N S 形 直管	75～450	「NS 形継手接合歩掛表」	2.50
		500～1000	〃	0.70
	N S 形 異形管	75～250	〃	2.50
		300～450	「メカニカル継手歩掛表」	2.50
		500～1000	「NS 形継手接合歩掛表」	0.70
	G X 形 直管	75～300	「GX 形継手接合歩掛表」	2.30
	G X 形 異形管	75～300	「GX 形継手接合歩掛表」	2.50
	G X 形 P－Link	75～300	「GX 形継手接合歩掛表（直管）」	1.80
	G X 形 G－Link	75～300	「GX 形継手接合歩掛表（異形管）」	1.60

備考 1. 補正対象とする歩掛は、離脱防止・異形管・P-Link・G-Link等の割増を考慮しない継手歩掛表を指す。
2. SⅡ形、S形、NS形およびGX形の場合、ロックリング取外しまで含む。
3. NS形直管500～1000mmにおいてライナ取外しを含む場合のみ、補正係数を10%割増すること。
4. GX形直管においてはライナ取外しの有無係わらず適用する。
5. 本表以外の継手の場合は別途考慮すること。

2－11－1　適用範囲

本基準は鋼製の耐震性貯水槽の設置に掛る積算に適用する。
貯水容量は第 3 表を標準とする。

2－11－2　作業内容と積算

作業内容と積算の方法は第 1 表のとおり。
第 1 表　鋼製貯水槽の現場工事の工種と積算方法
（表　略）

2－11－3　本体設置歩掛表（貯水槽吊込据付）

第 2－1 表　60 ㎥(2600A×14t)
（表　略）
（備考なし）

改定（平成 27 年度）

2－10－3　鋳鉄管継手取外し歩掛表

第 2 表

管種		補正対象歩掛		補正係数
鋳鉄管	K　形	「メカニカル継手歩掛表」		0.60
	フランジ	「フランジ継手歩掛表」		
	T　形	「T 形継手歩掛表」		
	S Ⅱ 形	「メカニカル継手歩掛表」		1.00
	S　形			
	N S 形 直管	75～450	「NS 形継手接合歩掛表」	2.50
		500～1000	〃	0.70
	N S 形 異形管	75～250	〃	2.50
		300～450	「メカニカル継手歩掛表」	2.50
		500～1000	「NS 形継手接合歩掛表」	0.70
	G X 形 直管	75～300	「GX 形継手接合歩掛表（直管）」	2.30
	G X 形 異形管	75～300	「GX 形継手接合歩掛表（異形管）」	2.50
	G X 形 P－Link	75～300	「GX 形継手接合歩掛表（直管）」	1.80
	G X 形 G－Link	75～300	「GX 形継手接合歩掛表（異形管）」	1.60

備考 1. 補正対象とする歩掛は、離脱防止・異形管・P-Link・G-Link等の割増を考慮しない継手歩掛表を指す。
2. SⅡ形、S形、NS形およびGX形の場合、ロックリング取外しまで含む。
3. NS形直管500～1000mmにおいてライナ取外しを含む場合のみ、補正係数を10%割増すること。
4. GX形直管においてはライナ取外しの有無に係わらず適用する。
5. S形にS50形の取り外しは含まない。
6. 本表以外の継手の場合は別途考慮すること。

2－11－1　適用範囲

本基準は鋼製の耐震性貯水槽の設置に掛る積算に適用する。
貯水容量は第 1 表を標準とする。
第 1 表　貯水槽の容量と形状寸法

貯水容量(㎥)	貯水槽径(mm)	貯水槽長さ(m)
60	2600	12.50
100	3000	15.00

備考　貯水槽の長さは標準値とする。

2－11－2　作業内容と積算

作業内容と積算の方法は第 2 表のとおり。
第 2 表　鋼製貯水槽の現場工事の工種と積算方法
（表　略）

2－11－3　本体設置歩掛表（貯水槽吊込据付）

第 3－1 表　60 ㎥(2600A×14t)
（表　略）
備考 1. 本歩掛は標準厚の鋼製貯水槽に適用する。
2. クレーン作業はトラッククレーンの使用を標準とする。
3. クレーンの作業半径は10mを標準とする。
4. クレーン能力は作業条件により変更できる。
5. 本歩掛には10m程度の現場内小運搬を含む。
6. 本歩掛には芯出し、仮付けを含む。
7. 諸雑費には溶接機損料、消耗品費、工具類損料等の費用を含む。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P96	第 2－2 表　100 m³(3000A×17t) （表　略） 第 3 表　貯水槽の容量と形状寸法	第 3－2 表　100 m³(3000A×17t) （表　略） （表　削除（2-11-1 へ移動））
P97	**2－11－5　貯水槽溶接歩掛表（本体）** 第 5－1 表　貯水槽溶接工(2600A×14t)材質 SS400・内面 V 開先 （表　略） 第 5－3 表　貯水槽溶接工(2600A×14t)材質ステンレスクラッド鋼・内面 V 開先 （表　略）	**2－11－5　貯水槽溶接歩掛表（本体）** 第 5－1 表　貯水槽溶接工(2600A×14t)材質 SS400・内面 V 開先 （表　略） 備考 1. 本歩掛は標準厚の鋼製貯水槽に適用する。 2. エンジンウエルダー使用の場合に適用。 3. 諸雑費には溶接棒、酸素、アセチレン、燃料、溶接機損料、工具類損料等の費用を含む。 第 5－3 表　貯水槽溶接工(2600A×14t)材質ステンレスクラッド鋼・内面 V 開先 （表　略） 備考 1. 本歩掛は標準厚の鋼製貯水槽に適用する。 2. エンジンウエルダー使用の場合に適用。 3. 諸雑費には溶接棒、酸素、アセチレン、燃料、溶接機損料、工具類損料等の費用を含む。 4. ステンレス溶接工の単価は実勢単価とする。
P99	**2－12－1　適用範囲** 第 1 表　貯水槽の容量	**2－12－1　適用範囲** 第 1 表　貯水槽の容量

現行（平成 26 年度）

貯水槽容量(m³)	呼び径(mm)	長さ(m)
50	1500	28.9
	2000	17.0
60	1500	34.9
	2000	20.0
	2600	12.3
100	2000	33.0
	2600	19.3

備考　長さは標準値とする。

2－12－2　作業内容と積算

第 2 表　ダクタイル鋳鉄製貯水槽の現場工事の工種と積算方法

工　種	作　業　内　容	備　考
本体設置工	貯水槽本体の現地荷下ろし、本体吊込、据付	歩掛(2-3-1)、※現場状況により第3表の使用も可
管接合工	貯水槽本体の管接合	歩掛(2-3-3)
ポリスリーブ被覆工	貯水槽本体のポリエチレンスリーブの被覆	歩掛(2-3-12)
モルタル充填工	貯水槽本体のモルタル充填	歩掛(2-3-3)モルタル充填工を適用
フランジ接合工	貯水槽本体のフランジ接合	歩掛(2-3-5)
附帯設備工(分散型)	(給水室内)給水室内管据付、消防用導水管・給水管取付、槽内流入管取付、ねじ継手接合、フランジ接合、空気弁設置、補修弁設置	歩掛(2-12-4)
附帯設備工(集中型)	(給水室内)給水室内管据付、消防用導水管・給水管取付、ねじ継手接合、フランジ接合、空気弁設置、補修弁設置	歩掛(2-12-5)
	(空気弁室内)空気弁室内管据付、フランジ接合、空気弁設置、補修弁設置	歩掛(2-12-5)
	(貯水槽内)硬質塩化ビニル管布設、硬質塩化ビニル管継手、フランジ接合支持金具取付、固定金具取付、流入管振止	歩掛(2-12-5)φ2600mm、100m³槽を標準とし、その他の貯水槽については第8表により補正
緊急遮断弁設置工	緊急遮断弁の吊込、据付	歩掛(2-9-4)
緊急遮断弁室内及び流入流出管配管工	緊急遮断弁室内及び流入流出管等の管据付、接合	第2章　開削工歩掛

改定（平成 27 年度）

貯水槽容量(m³)	呼び径(mm)	長さ(m)
50	1500	28.85
	2000	17.04
60	1500	34.85
	2000	20.04
	2600	12.28
100	2000	33.04
	2600	19.28

備考　長さは標準値とする。

2－12－2　作業内容と積算

第 2 表　ダクタイル鋳鉄製貯水槽の現場工事の工種と積算方法

工　種	作　業　内　容	備　考
本体設置工	貯水槽本体の現地荷下ろし、本体吊込、据付	歩掛(2-3-1) ※現場状況により歩掛(2-12-3)の使用も可
管接合工	貯水槽本体の管接合	歩掛(2-3-3)
ポリスリーブ被覆工	貯水槽本体のポリエチレンスリーブの被覆	歩掛(2-3-12)
モルタル充填工	貯水槽本体のモルタル充填	歩掛(2-3-3)モルタル充填工を適用
フランジ接合工	貯水槽本体のフランジ接合	歩掛(2-3-5)
附帯設備工(分散型)	(給水室内)給水室内管据付、消防用導水管・給水管取付、槽内流入管取付、ねじ継手接合、フランジ接合、空気弁設置、補修弁設置	歩掛(2-12-4)
附帯設備工(集中型)	(給水室内)給水室内管据付、消防用導水管・給水管取付、ねじ継手接合、フランジ接合、空気弁設置、補修弁設置	歩掛(2-12-5)
	(空気弁室内)空気弁室内管据付、フランジ接合、空気弁設置、補修弁設置	歩掛(2-12-5)
	(貯水槽内)硬質塩化ビニル管布設、硬質塩化ビニル管継手、フランジ接合支持金具取付、固定金具取付、流入管振止	歩掛(2-12-5)φ2600mm、100m³槽を標準とし、その他の貯水槽については第8表により補正
緊急遮断弁設置工	緊急遮断弁の吊込、据付	歩掛(2-9-4)
緊急遮断弁室内及び流入流出管配管工	緊急遮断弁室内及び流入流出管等の管据付、接合	第2章　開削工歩掛

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P100

現行（平成 26 年度）

2－12－4　附帯設備歩掛表(分散型)

第 4 表　給水室内配管工(分散型)

(1式当り)

呼び径(mm)	配管工	普通作業員	諸雑費
100	4.74人	7.82人	労務費の1%
150	4.82	7.92	〃
200	4.94	8.04	〃
250	5.12	8.22	〃

2－12－5　附帯設備歩掛表(集中型)

付帯設備工は集中貯水槽に設置する給水室及び空気弁室内の管・弁類等設置、貯水槽内の配管を行うものである。

第 5 表　給水室内配管工(集中型)

(1箇所当り)

配管工	普通作業員	諸雑費
2.61	4.32人	労務費の1%

(備考　略)

第 6 表　空気弁室内配管工(集中型)

(1箇所当り)

呼び径(mm)	配管工	普通作業員	諸雑費
100	1.16人	2.30人	労務費の1%
150	1.22	2.36	〃
200	1.28	2.42	〃
250	1.40	2.54	〃

(備考　略)

第 7 表　貯水槽内配管工(集中型)

(1式当り)

呼び径(mm)	配管工	普通作業員	諸雑費
100	2.13人	1.10人	労務費の1%
150	2.79	1.35	〃
200	3.42	1.97	〃
250	4.04	2.53	〃

(備考　略)

第 8 表　補正係数

φ2600mm　60m^3	0.85	φ2000mm 50m^3	0.89
φ2000mm　100m^3	1.27	φ1500mm 60m^3	1.34
φ2000mm　60m^3	0.97	φ1500mm 50m^3	1.20

改定（平成 27 年度）

2－12－4　附帯設備歩掛表(分散型)

第 4 表　給水室内配管工(分散型)

(1式当り)

呼び径(mm)	配管工(人)	普通作業員(人)	諸雑費
100	4.74	7.82	労務費の1%
150	4.82	7.92	
200	4.94	8.04	
250	5.12	8.22	

2－12－5　附帯設備歩掛表(集中型)

付帯設備工は集中貯水槽に設置する給水室及び空気弁室内の管・弁類等設置、貯水槽内の配管を行うものである。

第 5 表　給水室内配管工(集中型)

(1箇所当り)

配管工(人)	普通作業員(人)	諸雑費
2.61	4.32	労務費の1%

(備考　略)

第 6 表　空気弁室内配管工(集中型)

(1箇所当り)

呼び径(mm)	配管工(人)	普通作業員(人)	諸雑費
100	1.16	2.30	労務費の1%
150	1.22	2.36	
200	1.28	2.42	
250	1.40	2.54	

(備考　略)

第 7 表　貯水槽内配管工(集中型)

(1式当り)

呼び径(mm)	配管工(人)	普通作業員(人)	諸雑費
100	2.13	1.10	労務費の1%
150	2.79	1.35	
200	3.42	1.97	
250	4.04	2.53	

(備考　略)

第 8 表　補正係数

貯水槽容量(m^3)	呼び径(mm)	補正
50	1500	1.20
	2000	0.89
60	1500	1.34
	2000	0.97
	2600	0.85
100	2000	1.27

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P103	（３）トンネル(A 方式)の標準方式 第６－１表　トンネル標準寸法［参考］ （表　略） ２．標準セグメント寸法 　標準セグメントの寸法は第６－2、３表を参考とする。	（３）トンネル(A 方式)の標準方式 第１－１表　トンネル標準寸法［参考］ （表　略） ２．標準セグメント寸法 　標準セグメントの寸法は第１－２表及び第１－３表を参考とする。
P104	第６－２表　コンクリートセグメント寸法表［参考］ 単位:mm	第１－２表　コンクリートセグメント寸法表［参考］ 単位:mm

現行（平成 26 年度）

標準番号	セグメント外径	厚さ	セグメント内径
C3	2000	125	1750
C4 ～ C5	2150	125	1900
C6 ～ C7	2350	125	2100
C8 ～ C9	2550	125	2300
C10 ～ C12	2750	125	2500
C13 ～ C15	2950	125	2700
C16 ～ C17	3150	125	2900
C18		150	2850
C19	3350	125	3100
C20 ～ C22		150	3050
C23	3550	125	3300
C24 ～ C26		150	3250
C27	3800	125	3550
C28 ～ C30		150	3500

第６－３表　鋼製セグメント寸法表［参考］

単位:mm

標準番号	セグメント外径	厚さ	セグメント内径
S5 ～ S8	2000	75	1850
S9 ～ S12		100	1800
S13 ～ S14	2150	100	1950
S15 ～ S17		125	1900
S18 ～ S19	2350	100	2150
S20 ～ S22		125	2100
S23 ～ S24	2550	100	2350
S25 ～ S27		125	2300
S28 ～ S29	2750	100	2550
S30 ～ S32		125	2500
S33 ～ S34	2950	100	2750
S35 ～ S37		125	2700
S38 ～ S40	3150	125	2900
S41 ～ S43		150	2850
S44 ～ S46	3350	125	3100
S47 ～ S49		150	3050
S50	3550	125	3300
S51 ～ S52		150	3250
S53		175	3200
S54	3800	125	3550
S55 ～ S56		150	3500
S57		175	3450

改定（平成 27 年度）

標準番号	セグメント外径	厚さ	セグメント内径
~~C3~~	~~2000~~	~~125~~	~~1750~~
C4 ～ C5	2150	125	1900
C6 ～ C7	2350	125	2100
C8 ～ C9	2550	125	2300
C10 ～ C12	2750	125	2500
C13 ～ C15	2950	125	2700
C16 ～ C17	3150	125	2900
C18		150	2850
C19	3350	125	3100
C20 ～ C22		150	3050
C23	3550	125	3300
C24 ～ C26		150	3250
~~C27~~	~~3800~~	~~125~~	~~3550~~
~~C28 ～ C30~~		~~150~~	~~3500~~

第１－３表　鋼製セグメント寸法表［参考］

単位:mm

標準番号	セグメント外径	厚さ	セグメント内径
S5 ～ S8	2000	75	1850
S9 ～ S12		100	1800
S13 ～ S14	2150	100	1950
S15 ～ S17		125	1900
S18 ～ S19	2350	100	2150
S20 ～ S22		125	2100
S23 ～ S24	2550	100	2350
S25 ～ S27		125	2300
S28 ～ S29	2750	100	2550
S30 ～ S32		125	2500
S33 ～ S34	2950	100	2750
S35 ～ S37		125	2700
S38 ～ S40	3150	125	2900
S41 ～ S43		150	2850
S44 ～ S46	3350	125	3100
S47 ～ S49		150	3050
S50	3550	125	3300
S51 ～ S52		150	3250
S53		175	3200
~~S54~~	~~3800~~	~~125~~	~~3550~~
~~S55 ～ S56~~		~~150~~	~~3500~~
~~S57~~		~~175~~	~~3450~~

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P105

4－2－1　二次覆工(配管)

本歩掛は、トンネル(A 方式)における、トンネル内整備並びに配管、トンネル内配管、立杭内配管、コンクリート充填工に適用する。

P106

第 4 表　標準機械設備一覧表

セグメント外径(mm) ＼ 機械の種類	2000～2750		2950～3800	
	規　格	数 量	規　格	数 量
機　関　車	2t	1台	4t	1台
整　流　器	6.0kW 48V充電用	1台	12.0kW 96V充電用	1台
鋼 製 土 運 車	1.0m^3	2台	1.0m^3	2台
坑 内 洗 浄 機	吐出量30ℓ/分 3.7kW	1台	吐出量30ℓ/分 3.7kw	1台
汚水回収ポンプ	口径100mm 22.0kW真空式	1台	口径100mm 22.0kW真空式	1台
水　槽	10m^3	1台	10m^3	1台
門 型 ク レ ー ン	3t吊　2.2kW×2	1台	3t吊　2.2kW×2	1台
門型クレーン用電動ホイスト	5.4kW	1台	5.4kW	1台

第 5 表　1 日当り機械標準稼働時間

セグメント外径(mm) ＼ 機械の種類	2000～3800
機　関　車	2
整　流　器	3
坑 内 洗 浄 機	6
汚 水 回 収 ポ ン プ	6
門 型 ク レ ー ン	1
門型クレーン用電動ホイスト	1

第 6 表　標準機械 1 時間当り燃料消費量

セグメント外径（mm） ＼ 機械名	1時間当り消費率 (kWh/kW)	2000～2750 機関出力 (kW)	2000～2750 電力消費量 (kWh/台)	2950～3800 機関出力 (kW)	2950～3800 電力消費量 (kWh/台)
整　流　器	0.496	6.0	3.0	12.0	5.9
坑 内 洗 浄 機	0.410	3.7	1.5	3.7	1.5
汚 水 回 収 ポ ン プ	0.600	22.0	13.2	22.0	13.2
門 型 ク レ ー ン	0.305	4.4	1.3	4.4	1.3
門型クレーン用電動ホイスト	0.305	5.4	1.6	5.4	1.6

改定（平成 27 年度）

4－2－1　二次覆工(配管)

本歩掛は、トンネル(A 方式)における、トンネル内整備並びに配管準備、トンネル内配管、立坑内配管、コンクリート充填工に適用する。

第 4 表　標準機械設備一覧表

セグメント外径(mm) ＼ 機械の種類	2000～2750		2950～3550	
	規　格	数 量	規　格	数 量
機　関　車	2t	1台	4t	1台
整　流　器	6.0kW 48V充電用	1台	12.0kW 96V充電用	1台
鋼 製 土 運 車	1.0m^3	2台	1.0m^3	2台
坑 内 洗 浄 機	吐出量30ℓ/分 3.7kW	1台	吐出量30ℓ/分 3.7kw	1台
汚水回収ポンプ	口径100mm 22.0kW真空式	1台	口径100mm 22.0kW真空式	1台
水　槽	10m^3	1台	10m^3	1台
門 型 ク レ ー ン	3t吊　2.2kW×2	1台	3t吊　2.2kW×2	1台
門型クレーン用電動ホイスト	5.4kW	1台	5.4kW	1台

第 5 表　1 日当り機械標準稼働時間

セグメント外径(mm) ＼ 機械の種類	2000～3550
機　関　車	2
整　流　器	3
坑 内 洗 浄 機	6
汚 水 回 収 ポ ン プ	6
門 型 ク レ ー ン	1
門型クレーン用電動ホイスト	1

第 6 表　標準機械 1 時間当り燃料消費量

セグメント外径（mm） ＼ 機械名	1時間当り消費率 (kWh/kW)	2000～2750 機関出力 (kW)	2000～2750 電力消費量 (kWh/台)	2950～3550 機関出力 (kW)	2950～3550 電力消費量 (kWh/台)
整　流　器	0.496	6.0	3.0	12.0	5.9
坑 内 洗 浄 機	0.410	3.7	1.5	3.7	1.5
汚 水 回 収 ポ ン プ	0.600	22.0	13.2	22.0	13.2
門 型 ク レ ー ン	0.305	4.4	1.3	4.4	1.3
門型クレーン用電動ホイスト	0.305	5.4	1.6	5.4	1.6

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

P107

第 7 表　機械器具損料及び電力料算定表

内容 / 記号 / 算出方法 / 単位 / 規格 / 機械名		必要台数	運転日数	供用日数	運転時間	基礎価格	損料額単価			補正係数	機械器具損料額				電力量		
					一日当り		時間当り	運転日当り	供用日当り	交替制による	運転 時間計算	運転 日計算	供用	小計	電力消費量 時間当り	総電力量	電力料
		a	b	c	d	e	f	g	h	α	i	j	k	l	m	n	p
			計算	計算							a×b×d×f	a×b×g	a×c×h	i＋j＋k		a×b×d×m	n×電力料(円/0kWh)
			日	日	時間	千円	円	円	円	円	円	円	円	円	kW	kWh	円
機関車	t	1						—		—		—			—	—	—
整流機		1						—		—		—					
鋼製土運車	1.0m³	2			—		—			—	—				—	—	—
坑内洗浄機	3.7kW	1					—			—	—						
汚水回収ポンプ	22kW	1					—			—	—						
水槽	10m³	1	—		—		—	—		—	—	—			—	—	—
門型クレーン	3 t吊 5.4kW	1					—	—		—	—	—					
門型クレーン用電動ホイスト		1					—			—	—						

P109

第 14 表　機械器具損料及び電力料算定表

機械の種類	規格	数量	摘要
機関車		1台	1200～1800　2t 2000～2600　4t
整流機		〃	1200～1800　6kW　48V充電用 2000～2600　12kW　96V　〃
管運搬台車		〃	(台車本体＋油圧機器)
ジャッキ	10 t	2台	(工法1)

P110

第 15 表　1 日当り機械稼働時間基準

(時間/台)

本管呼び径(mm) / 機械の種類	工法 1		工法2		摘要
	1200～1800	2000～2600	1200～1800	2000～2600	
機関車	4	5	5	6	
整流機	4	5	5	6	

改定（平成 27 年度）

P107

第 7 表　機械器具損料及び電力料算定表

内容 / 記号 / 算出方法 / 単位 / 規格 / 機械名		必要台数	運転日数	供用日数	運転時間	基礎価格	損料額単価			補正係数	機械器具損料額				電力量		
					一日当り		時間当り	運転日当り	供用日当り	交替制による	運転 時間計算	運転 日計算	供用	小計	電力消費量 時間当り	総電力量	電力料
		a	b	c	d	e	f	g	h	α	i	j	k	l	m	n	p
			計算	計算							a×b×d×f	a×b×g	a×c×h	i＋j＋k		a×b×d×m	n×電力料(円/0kWh)
			日	日	時間	千円	円	円	円	円	円	円	円	円	kW	kWh	円
機関車	t	1						—		—		—			—	—	—
整流器		1						—		—		—					
鋼製土運車	1.0m³	2			—		—			—	—				—	—	—
坑内洗浄機	3.7kW	1					—			—	—						
汚水回収ポンプ	22kW	1					—			—	—						
水槽	10m³	1	—		—		—	—		—	—	—			—	—	—
門型クレーン	3 t吊 5.4kW	1					—	—		—	—	—					
門型クレーン用電動ホイスト		1					—			—	—						

P109

第 14 表　機械器具損料及び電力料算定表

機械の種類	規格	数量	摘要
機関車		1台	1200～1800　2t 2000～2600　4t
整流器		〃	1200～1800　6kW　48V充電用 2000～2600　12kW　96V　〃
管運搬台車		〃	(台車本体＋油圧機器)
ジャッキ	10 t	2台	(工法1)

P110

第 15 表　1 日当り機械稼働時間基準

(時間/台)

本管呼び径(mm) / 機械の種類	工法 1		工法2		摘要
	1200～1800	2000～2600	1200～1800	2000～2600	
機関車	4	5	5	6	
整流器	4	5	5	6	

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版
頁番号

現行（平成 26 年度）

第 16 表　標準機械 1 時間当り電力消費量

機　械　名	時間当り消費率	本管呼び径 1200～1800		本管呼び径 2000～2600	
	電力 (kWh/kW)	機関出力 (kW)	電力消費量 (kWh/台)	機関電力 (kW)	電力消費量 (kWh/台)
整　流　機	0.495	6.0	3.0	12.0	5.9

第 17 表　機械器具損料及び電力料算定表（工法 1）

内容 / 記号 / 算出方法 / 単位 / 規格 / 機械名		必要台数	運転日数	供用日数	一運転時間当り	基礎価格	損料額単価 時間当り	損料額単価 運転日当り	損料額単価 供用日当り	補正係数 交替制による	機械器具損料額 運転 時計算	機械器具損料額 運転 日計算	機械器具損料額 供用	機械器具損料額 小計	電力量 電力消費量 時間当り	電力量 総電力量	電力量 電力料
		a	b	c	d	e	f	g	h	α	i	j	k	l	m	n	p
			計算	計算							a×b×d×f	a×b×g	a×c×h	i＋j＋k		a×b×d×m	n×電力料 (円/kWh)
機　械　名			日	日	時間	千円	円	円	円	円	円	円	円	円	kW	kWh	円
機　関　車		1						—		—		—			—	—	—
整　流　機		1						—		—		—					
管　運　搬　台　車		1					—	—		—	—	—			—	—	—
ジ　ャ　ッ　キ	10 t	2					—	—		—	—	—			—	—	—
合　計																	

備考　コンクリート充填方式の場合、機関車、整流機の併用日当り損料は、コンクリート充填工に計上する。

改定（平成 27 年度）

第 16 表　標準機械 1 時間当り電力消費量

機　械　名	時間当り消費率	本管呼び径 1200～1800		本管呼び径 2000～2600	
	電力 (kWh/kW)	機関出力 (kW)	電力消費量 (kWh/台)	機関電力 (kW)	電力消費量 (kWh/台)
整　流　器	0.495	6.0	3.0	12.0	5.9

第 17 表　機械器具損料及び電力料算定表（工法 1）

内容 / 記号 / 算出方法 / 単位 / 規格 / 機械名		必要台数	運転日数	供用日数	一運転時間当り	基礎価格	損料額単価 時間当り	損料額単価 運転日当り	損料額単価 供用日当り	補正係数 交替制による	機械器具損料額 運転 時計算	機械器具損料額 運転 日計算	機械器具損料額 供用	機械器具損料額 小計	電力量 電力消費量 時間当り	電力量 総電力量	電力量 電力料
		a	b	c	d	e	f	g	h	α	i	j	k	l	m	n	p
			計算	計算							a×b×d×f	a×b×g	a×c×h	i＋j＋k		a×b×d×m	n×電力料 (円/kWh)
機　械　名			日	日	時間	千円	円	円	円	円	円	円	円	円	kW	kWh	円
機　関　車		1						—		—		—			—	—	—
整　流　器		1						—		—		—					
管　運　搬　台　車		1					—	—		—	—	—			—	—	—
ジ　ャ　ッ　キ	10 t	2					—	—		—	—	—			—	—	—
合　計																	

備考　コンクリート充填方式の場合、機関車、整流器の併用日当り損料は、コンクリート充填工に計上する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P112

現行（平成 26 年度）

第 22 表　コンクリート充填工歩掛表

（12m当り）

セグメント外径 (mm)	本管呼び径 (mm)	日当り作業時間 分/日	日当り作業時間 日	世話役（土木一般）	特殊作業員	普通作業員
2000	1200	445	0.9	0.9	3.6	2.7
2350	1350	437	0.9	0.9	3.6	2.7
2350	1500	465	1.0	1.0	4.0	3.0
2550	1600	493	1.0	1.0	4.0	3.0
2550	1650	500	1.0	1.0	4.0	3.0
2750	1800	521	1.1	1.1	4.4	3.3
2950	2000	507	1.1	1.1	4.4	3.3
3150	2100	524	1.1	1.1	4.4	3.3
3150	2200	540	1.1	1.1	4.4	3.3
3350	2400	630	1.3	1.3	5.2	3.9
3550	2600	638	1.3	1.3	5.2	3.9

2．材料

(1)　コンクリート充填量

二次覆工のコンクリート充填量は以下の式により算出する。

ア．鋼製セグメントの場合

コンクリート充填量 ＝ ｛(セグメント外径) 2-（トンネル内配管外径）2｝×π/4-（セグメント体積）

ただし、セグメント体積 ＝ $\frac{\text{セグメント質量}}{\text{鋼材比重}}$　鋼材比重＝7.85

イ．コンクリートセグメントの場合

コンクリート充填量 ＝ ｛(セグメント外径) 2-（トンネル内配管外径）2｝×π/4-（セグメント体積）

ただし、セグメント体積 ＝ $\frac{\text{セグメント質量}}{\text{鋼材比重}}$　鋼材比重＝2.60

(2) 型枠（土のう）［参考］

第 23 表　（土のう）数量法

外径名称 ＼ 本管呼び径 (mm)		1200	1350	1500	1600	1650	1800	2000	2200	2400	2600
土のう（袋）(38×60)	基本数量	38	42	44	46	48	50	59	61	66	68
	総数量	380	420	440	460	480	500	590	610	660	680
	1 m当数量	0.38	0.42	0.44	0.46	0.48	0.50	0.59	0.61	0.66	0.68
砂 (m^3)	総数量	3.8	4.2	4.4	4.6	4.8	5.0	5.9	6.1	6.6	6.8
	1 m当り	0.0038	0.0042	0.0044	0.0046	0.0048	0.0050	0.0059	0.0061	0.0066	0.0068

改定（平成 27 年度）

第 22 表　コンクリート充填工歩掛表

（12m当り）

セグメント外径 (mm)	本管呼び径 (mm)	日当り作業時間 分/日	日当り作業時間 日	世話役（土木一般）	特殊作業員	普通作業員
2000 (2150)	1200	445	0.9	0.9	3.6	2.7
2350	1350	437	0.9	0.9	3.6	2.7
2350 (2550)	1500	465	1.0	1.0	4.0	3.0
2550	1600	493	1.0	1.0	4.0	3.0
2550	1650	500	1.0	1.0	4.0	3.0
2750	1800	521	1.1	1.1	4.4	3.3
2950	2000	507	1.1	1.1	4.4	3.3
3150	2100	524	1.1	1.1	4.4	3.3
3150	2200	540	1.1	1.1	4.4	3.3
3350	2400	630	1.3	1.3	5.2	3.9
3550	2600	638	1.3	1.3	5.2	3.9

備考　セグメント外径の（　　）の寸法は、コンクリートセグメントに適用する。
　　それ以外は、鋼製セグメントとコンクリートセグメントの両方に適用する。

2．材料

(1)　コンクリート充填量

二次覆工のコンクリート充填量は以下の式により算出する。

コンクリート充填量 ＝ ｛(セグメント外径)^2-（トンネル内配管外径）^{2}｝×π/4×延長-（セグメント体積）

ただし、セグメント体積 ＝ $\frac{\text{セグメント質量}}{\text{比重}}$

ア．鋼製セグメントの場合

比重 ＝ 鋼材比重 ＝ 7.85

イ．コンクリートセグメントの場合

比重 ＝ コンクリート比重 ＝ 2.60

(2) 型枠（土のう）［参考］

第 23 表　（土のう）数量法

~~外径~~名称 ＼ 本管呼び径 (mm)		1200	1350	1500	1600	1650	1800	2000	2200	2400	2600
土のう（袋）(38×60)	基本数量	38	42	44	46	48	50	59	61	66	68
	総数量	380	420	440	460	480	500	590	610	660	680
	1 m当数量	0.38	0.42	0.44	0.46	0.48	0.50	0.59	0.61	0.66	0.68
砂 (m^3)	総数量	3.8	4.2	4.4	4.6	4.8	5.0	5.9	6.1	6.6	6.8
	1 m当り	0.0038	0.0042	0.0044	0.0046	0.0048	0.0050	0.0059	0.0061	0.0066	0.0068

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P113		

現行（平成 26 年度）

第 25 表　コンクリート充填工歩掛表

機械の種類	規　　格	数　量	摘　　要
コンプレッサ	75kW	1台	
コンクリートプレーサ		1台	
機関車	2t　　4t	1台	
整流機	4t×15kW	1台	
材料台車		1台	
コンクリート打設管	150	15m	鋼　管
コンクリート打設管	150	5m	フレキシブルホース

第 26 表　機械器具容量一覧

セグメント外径(mm)	機械器具容量	
	バッテリーカー	コンクリートプレーサ
2000	2 t	1.5m^3
2350～2750	2 t	2.0m^3
2950～3800	4 t	3.0m^3

第 27 表　1 日当り機械稼働時間基準

(時間/台)

本管呼び径(mm) 機械の種類	1200 ～2200	2400 ～2600	2400 ～2600	摘　　要
コンプレッサ	6.0	7.0	※5.0	
コンクリートプレーサ	6.0	7.0	※5.0	
機関車	6.0	7.0	※5.0	
整流機	6.0	7.0	※5.0	
コンクリート打設管	6.0	7.0	※5.0	

備考　※はRCセグメントを使用した場合である。

改定（平成 27 年度）

第 25 表　コンクリート充填工歩掛表

機械の種類	規　　格	数　量	摘　　要
コンプレッサ	75kW	1台	
コンクリートプレーサ		1台	
機関車	2t　　4t	1台	
整流器	4t×15kW	1台	
材料台車		1台	
コンクリート打設管	150	15m	鋼　管
コンクリート打設管	150	5m	フレキシブルホース

第 26 表　機械器具容量一覧

セグメント外径(mm)	機械器具容量	
	機関車	コンクリートプレーサ
2000	2 t	1.5m^3
2350～2750	2 t	2.0m^3
2950～3550	4 t	3.0m^3

第 27 表　1 日当り機械稼働時間基準

(時間/台)

本管呼び径(mm) 機械の種類	1200 ～2200	2400 ～2600	2400 ～2600	摘　　要
コンプレッサ	6.0	7.0	※5.0	
コンクリートプレーサ	6.0	7.0	※5.0	
機関車	6.0	7.0	※5.0	
整流器	6.0	7.0	※5.0	
コンクリート打設管	6.0	7.0	※5.0	

備考　※はRCセグメントを使用した場合である。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

P114

第 29 表　機械器具損料及び電力料算定表

内容 / 記号 / 算出方法 / 単位 / 規格 / 機械名		必要台数	運転日数	供用日数	一日運転時間	基礎価格	損料額単価 時間当り	損料額単価 運転日当り	損料額単価 供用日当り	補正係数 交替制による	機械器具損料額 運転 時計算	機械器具損料額 運転 日計算	機械器具損料額 供用	機械器具損料額 小計	電力量 時間当り電力消費量	電力量 総電力量	電力量 電力料
		a	b	c	d	e	f	g	h	α	i	j	k	l	m	n	p
			計算	計算							a×b×	a×b×g	a×c	i＋j＋k		a×b×d×m	n×電力料（円/kWh）
			日	日	時間	千円	円	円	円	円	円	円	円	円	kW	kWh	円
コンプレッサ	75kW	1	—	—				—		—		—					
コンクリートプレーサ	○m³	1	—	—				—		—		—					
機関車	2t又は4t	1	—	—				—		—		—					
整流機	4t×15kW	1	—	—				—		—		—					
材料台車		1	—	—			—			—	—				—	—	—
コンクリート打設管	鋼管φ150	12m	—	—				—		—		—			—	—	—
コンクリート打設管	フレキシブルホース	5m	—	—				—		—		—			—	—	—
合計																	

P115

第 1 表　通水試験歩掛表（φ800 以下に適用）

（1日当り）

名　称	配管工	普通作業員	普通運転手	器具損料及諸雑費
	人	人	人	
既設管と連絡せず給水車で注水する場合	2	3	1	労務費の30%
既設管と連絡して給水車が不要の場合	3	3	—	労務費の20%

(1) 1 日当り試験距離

呼び径	φ150以下	φ200～φ300	φ400～φ600	φ700～φ800
既設管と連絡せず給水車で注水する場合	1,000m～1,500m	500m～1,000m	300m～500m	300m以下
既設管と連絡して給水車が不要の場合	500m～2,000m			

備考　試験距離はバルブ類の数、管路の起伏等を考慮して距離を決めること。

改定（平成 27 年度）

P114

第 29 表　機械器具損料及び電力料算定表

内容 / 記号 / 算出方法 / 単位 / 規格 / 機械名		必要台数	運転日数	供用日数	一日運転時間	基礎価格	損料額単価 時間当り	損料額単価 運転日当り	損料額単価 供用日当り	補正係数 交替制による	機械器具損料額 運転 時計算	機械器具損料額 運転 日計算	機械器具損料額 供用	機械器具損料額 小計	電力量 時間当り電力消費量	電力量 総電力量	電力量 電力料
		a	b	c	d	e	f	g	h	α	i	j	k	l	m	n	p
			計算	計算							a×b×	a×b×g	a×c	i＋j＋k		a×b×d×m	n×電力料（円/kWh）
			日	日	時間	千円	円	円	円	円	円	円	円	円	kW	kWh	円
コンプレッサ	75kW	1	—	—				—		—		—					
コンクリートプレーサ	○m³	1	—	—				—		—		—					
機関車	2t又は4t	1	—	—				—		—		—					
整流器	4t×15kW	1	—	—				—		—		—					
材料台車		1	—	—			—			—	—				—	—	—
コンクリート打設管	鋼管φ150	12m	—	—				—		—		—			—	—	—
コンクリート打設管	フレキシブルホース	5m	—	—				—		—		—			—	—	—
合計																	

P115

第 1 表　通水試験歩掛表（φ800 以下に適用）

（1日当り）

名　称	配管工	普通作業員	普通運転手	器具損料及び諸雑費
	人	人	人	
既設管と連絡せず給水車で注水する場合	2	3	1	労務費の30%
既設管と連絡して給水車が不要の場合	3	3	—	労務費の20%

(1) 1 日当り試験距離

（1日当り）

呼び径	φ150以下	φ200～φ350	φ400～φ600	φ700～φ800
既設管と連絡せず給水車で注水する場合	1,000m～1,500m	500m～1,000m	300m～500m	300m以下
既設管と連絡して給水車が不要の場合	500m～2,000m			

備考　試験距離はバルブ類の数、管路の起伏等を考慮して距離を決めること。

平成27年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26年度版頁番号

現行（平成26年度）

P116

5－2－1－2　施工歩掛

第2表　工事費の構成

種　目	単　位	数　量	単　価	金　額	摘　要
(1) 掘さく費	式	1			
(2) 材料費	式	1			
(3) 消耗材料費	式	1			
(4) 電気検層費	式	1			
(5) ケーシング挿入費	式	1			
(6) 砂利充填・遮水費	式	1			
(7) 仕上費	式	1			
(8) 揚水試験費	式	1			
(9) 残泥土処理費	m^3				
(10) 機械組立・解体費	式	1			
(11) 機械器具損料	式	1			
(12) 報告書作成費	式	1			
直接工事費計					
(13) 共通仮設費					
純工事費					
(14) 現場管理費	式	1			
工事原価					
(15) 一般管理費	式	1			
工事費計					

P117

第4表　掘さく労務歩掛

職種＼機種	小型機	中型機	大型機
技師(C)	0.1人	0.1人	0.1人
さく井主任	1人	1人	1人
さく井技師	—	—	1人
さく井工	1人	1人	—
さく井助手	1人	1人	1人

備考 1. さく井主任はさく井工の1.4倍の労務費とする。
2. さく井技師はさく井工の1.2倍の労務費とする。
3. さく井工は普通作業員を適用する。
4. さく井工助手は軽作業員を適用する。

第5表　掘さく日数と労務歩掛

（1日　8時間勤務）

項　目	深さ／単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく日数	日	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71
技師(C)	人	3	4	5	6	3	4	5	6	3	4	5	7	3	5	6	8
さく井主任	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71
さく井技士	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37	50	64	28	41	55	71
さく井工	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	—	—	—	—	—	—	—
さく井助手	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71

改定（平成27年度）

5－2－1－2　施工歩掛

第2表　工事費の構成

種　目	単　位	数　量	単　価	金　額	摘　要
(1) 掘さく費	式	1			
(2) 材料費	式	1			
(3) 消耗材料費	式	1			
(4) 電気検層費	式	1			
(5) ケーシング挿入費	式	1			
(6) 砂利充填・遮水費	式	1			
(7) 仕上費	式	1			
(8) 揚水試験費	式	1			
(9) 残泥土処理費	m^3				
(10) 機械組立・解体費	式	1			
(11) 機械器具損料	式	1			
(12) 報告書作成費	式	1			
直接工事費計					
(13) 共通仮設費	式	1			
純工事費					
(14) 現場管理費	式	1			
工事原価					
(15) 一般管理費	式	1			
工事費計					

第4表　掘さく労務歩掛

職種＼機種	小型機	中型機	大型機
技師(C)	0.1人	0.1人	0.1人
さく井主任	1人	1人	1人
さく井技士	—	—	1人
さく井工	1人	1人	—
さく井助手	1人	1人	1人

備考 1. さく井主任はさく井工の1.4倍の労務費とする。
2. さく井技士はさく井工の1.2倍の労務費とする。
3. さく井工は普通作業員を適用する。
4. さく井工助手は軽作業員を適用する。

第5表　掘さく日数と労務歩掛

（1日　8時間勤務）

項　目	深さ／単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく日数	日	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71
技師(C)	人	3	4	5	6	3	4	5	6	3	4	5	7	3	5	6	8
さく井主任	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71
さく井技士	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37	50	64	28	41	55	71
さく井工	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	—	—	—	—	—	—	—
さく井助手	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

第6表　材料数量表

(1井当り)

材料名	深さ／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシングパイプ	本	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36
丸穴巻線型スクリーン	本	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10
充填砂利（硅砂）	m^3	3.0	4.5	6.0	7.5	3.6	5.3	7.1	8.9	4.8	7.2	9.5	11.9	5.8	8.7	11.6	14.5
ボットム装置	個	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

P118

(3)消耗材料費

第7－1表　掘さく消耗材料表

(1井当り)

消耗材料	深さ／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく粘土	m^3	5.2	7.8	10.4	13.0	7.2	10.8	14.4	18.0	11.9	17.9	23.8	29.8	14.7	22.1	29.4	36.8
ベンナイト	t	0.4	0.5	0.7	0.9	0.5	0.7	1.0	1.2	0.8	1.2	1.6	2.0	1.0	1.5	2.0	2.5
酸素ガス	m^3	17.6	25.6	34.4	43.2	19.8	29.2	38.7	49.9	27.8	39.6	53.5	68.5	33.9	49.6	66.6	85.9
アセチレンガス	kg	10.1	14.7	19.8	24.8	11.3	16.7	22.1	28.4	15.9	22.6	30.5	30.0	19.3	28.3	38.0	49.0
掘さくビット用溶接棒	〃	3.3	4.8	6.1	8.1	3.7	5.4	7.2	9.3	5.2	7.4	10.0	12.8	6.4	9.4	12.7	16.3
特殊溶接棒	〃	2.6	3.8	5.2	6.5	3.0	4.4	5.9	7.5	4.2	5.9	8.0	10.2	5.0	7.4	9.9	12.8
ワイヤーロープ(1)	m	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150
ワイヤーロープ(2)	〃	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150
コンダクターパイプ	m	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.5	6.8	11.0	13.8
その他掘さく雑品	1式	上記計の10%を計上のこと															

第7－2表　ケーシング・遮水消耗材料費

(1井当り)

消耗材料	深さ／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシング用溶接棒	kg	3.0	4.5	6.0	7.5	5.0	7.5	10.0	12.5	10.0	15.0	20.0	25.0	15.0	22.5	30.0	37.5
遮水用セメント	袋	110				130				174				212			
遮水用塩ビトレミー管	本	8(VP30)								16(VP40)							
その他雑品	式	上記計の10%を計上のこと。															

第7－3表　動力燃料消耗材料費

消耗材料	深さ／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく時燃料	ℓ	871	1267	2623	3294	911	1346	2745	3538	1686	3008	4065	5203	2276	3333	4472	5772
ケーシング時燃料	〃	79	79	122	183	79	79	122	183	122	163	244	325	163	163	244	325
砂利充填・遮水時燃料	〃	79	79	122	122	79	79	122	122	122	163	163	163	163	163	244	244
仕上げ時燃料	〃	119	119	244	305	119	119	244	305	183	244	325	407	244	244	325	407
揚水試験時燃料	〃	356	356	549	549	356	356	549	549	549	732	732	732	732	732	732	732
燃料消耗量計	〃	1504	1900	3660	4453	1544	1979	3782	4697	2662	4310	5529	6830	3578	4635	6017	7480

改定（平成 27 年度）

第6表　材料数量表

(1井当り)

材料名	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシングパイプ	本	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36
丸穴巻線型スクリーン	本	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10
充填砂利（硅砂）	m^3	3.0	4.5	6.0	7.5	3.6	5.3	7.1	8.9	4.8	7.2	9.5	11.9	5.8	8.7	11.6	14.5
ボットム装置	個	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(3)消耗材料費

第7－1表　掘さく消耗材料表

(1井当り)

消耗材料	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく粘土	m^3	5.2	7.8	10.4	13.0	7.2	10.8	14.4	18.0	11.9	17.9	23.8	29.8	14.7	22.1	29.4	36.8
ベントナイト	t	0.4	0.5	0.7	0.9	0.5	0.7	1.0	1.2	0.8	1.2	1.6	2.0	1.0	1.5	2.0	2.5
酸素ガス	m^3	17.6	25.6	34.4	43.2	19.8	29.2	38.7	49.9	27.8	39.6	53.5	68.5	33.9	49.6	66.6	85.9
アセチレンガス	kg	10.1	14.7	19.8	24.8	11.3	16.7	22.1	28.4	15.9	22.6	30.5	30.0	19.3	28.3	38.0	49.0
掘さくビット用溶接棒	〃	3.3	4.8	6.1	8.1	3.7	5.4	7.2	9.3	5.2	7.4	10.0	12.8	6.4	9.4	12.7	16.3
特殊溶接棒	〃	2.6	3.8	5.2	6.5	3.0	4.4	5.9	7.5	4.2	5.9	8.0	10.2	5.0	7.4	9.9	12.8
ワイヤーロープ(1)	m	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150
ワイヤーロープ(2)	〃	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150	75	100	125	150
コンダクターパイプ	m	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.5	6.8	11.0	13.8
その他掘さく雑品	1式	上記計の10%を計上のこと															

第7－2表　ケーシング・遮水消耗材料費

(1井当り)

消耗材料	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシング用溶接棒	kg	3.0	4.5	6.0	7.5	5.0	7.5	10.0	12.5	10.0	15.0	20.0	25.0	15.0	22.5	30.0	37.5
遮水用セメント	袋	110				130				174				212			
遮水用塩ビトレミー管	本	8(VP30)								16(VP40)							
その他雑品	式	上記計の10%を計上のこと。															

第7－3表　動力燃料消耗材料費

消耗材料	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく時燃料	ℓ	871	1267	2623	3294	911	1346	2745	3538	1686	3008	4065	5203	2276	3333	4472	5772
ケーシング時燃料	〃	79	79	122	183	79	79	122	183	122	163	244	325	163	163	244	325
砂利充填・遮水時燃料	〃	79	79	122	122	79	79	122	122	122	163	163	163	163	163	244	244
仕上げ時燃料	〃	119	119	244	305	119	119	244	305	183	244	325	407	244	244	325	407
揚水試験時燃料	〃	356	356	549	549	356	356	549	549	549	732	732	732	732	732	732	732
燃料消耗量計	〃	1504	1900	3660	4453	1544	1979	3782	4697	2662	4310	5529	6830	3578	4635	6017	7480

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P119

現行（平成 26 年度）

(5)ケーシング挿入費

第9表　ケーシング挿入労務

項　目	深さ／単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
準備・挿入	日	2	2	2	3	2	2	2	3	2	2	3	4	2	2	3	4
技師(C)	人	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	3	3
さく井主任	〃	2	2	2	3	2	2	2	3	2	2	3	4	2	2	3	4
さく井技士	〃	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	3	4	4	5
さく井工	〃	2	2	3	4	2	2	3	4	3	3	5	6	2	3	5	6
さく井助手	〃	2	4	4	5	2	4	4	5	3	5	5	6	4	5	6	7
溶接工	〃	2	2	3	4	2	2	3	4	2	3	3	4	3	3	3	5

(6)砂利充填・遮水費

第10表　砂利充填・遮水労務

項　目	深さ／単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作業日数	日	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
技師(C)	人	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さく井主任	〃	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さく井技士	〃	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3
さく井工	〃	1	1	2	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
さく井助手	〃	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3

(7)仕上費

第11表　仕上げ労務

項　目	深さ／単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作業日数	日	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5
技師(C)	人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
さく井主任	〃	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5
さく井技士	〃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さく井工	〃	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5
さく井助手	〃	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5

P121

(11)機械器具損料

第15表　機械器具損料

(1井当り)

機械器具	深さ／単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
さく井機械	日	45	55	70	83	46	58	72	87	51	64	79	95	55	68	84	103
掘さく用ビット・ペーラー	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71
電動機及び抵抗器	〃	45	55	70	83	46	58	72	87	51	64	79	95	55	68	84	103
発電機	〃	39	49	62	75	40	52	64	79	43	55	70	86	46	59	75	94
泥水ミキサー	〃	23	33	44	55	24	35	46	59	27	38	51	65	29	42	56	72

改定（平成 27 年度）

(5)ケーシング挿入費

第9表　ケーシング挿入労務

項　目	深さ／単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
準備・挿入	日	2	2	2	3	2	2	2	3	2	2	3	4	2	2	3	4
技師(C)	人	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	3	3
さく井主任	〃	2	2	2	3	2	2	2	3	2	2	3	4	2	2	3	4
さく井技士	〃	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	3	4	4	5
さく井工	〃	2	2	3	4	2	2	3	4	3	3	5	6	2	3	5	6
さく井助手	〃	2	4	4	5	2	4	4	5	3	5	5	6	4	5	6	7
溶接工	〃	2	2	3	4	2	2	3	4	2	3	3	4	3	3	3	5

(6)砂利充填・遮水費

第10表　砂利充填・遮水労務

項　目	深さ／単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作業日数	日	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
技師(C)	人	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さく井主任	〃	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さく井技士	〃	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3
さく井工	〃	1	1	2	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
さく井助手	〃	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3

(7)仕上費

第11表　仕上げ労務

項　目	深さ／単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作業日数	日	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5
技師(C)	人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
さく井主任	〃	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5
さく井技士	〃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さく井工	〃	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5
さく井助手	〃	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5	3	3	4	5

(11)機械器具損料

第15表　機械器具損料

(1井当り)

機械器具	深さ／単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
さく井機械	日	45	55	70	83	46	58	72	87	51	64	79	95	55	68	84	103
掘さく用ビット・ペーラー	〃	22	32	43	54	23	34	45	58	26	37	50	64	28	41	55	71
電動機及び抵抗器	〃	45	55	70	83	46	58	72	87	51	64	79	95	55	68	84	103
発電機	〃	39	49	62	75	40	52	64	79	43	55	70	86	46	59	75	94
泥水ミキサー	〃	23	33	44	55	24	35	46	59	27	38	51	65	29	42	56	72

別　紙

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

P122

現行（平成 26 年度）

5－2－2－2　施工歩掛

第19表　工事費の構成

種　目	単　位	数　量	摘　要
(1) 掘　さ　く　費	式	1	
(2) 材　料　費	式	1	
(3) 消 耗 材 料 費	式	1	
(4) 電 気 検 層 費	式	1	
(5) ケーシング挿入費	式	1	
(6) 砂利充填・遮水費	式	1	
(7) 仕　上　費	式	1	
(8) 揚 水 試 験 費	式	1	
(9) 残 泥 土 処 理 費	m^3		
(10) 機械組立・解体費	式	1	
(11) 機 械 器 具 損 料	式	1	
(12) 報 告 書 作 成 費	式	1	
直 接 工 事 費 計			
(13) 共 通 仮 設 費			
純　工　事　費			
(14) 現 場 管 理 費	式	1	
工　事　原　価			
(15) 一 般 管 理 費	式	1	
工　事　費　計			

改定（平成 27 年度）

5－2－2－2　施工歩掛

第19表　工事費の構成

種　目	単　位	数　量	摘　要
(1) 掘　さ　く　費	式	1	
(2) 材　料　費	式	1	
(3) 消 耗 材 料 費	式	1	
(4) 電 気 検 層 費	式	1	
(5) ケーシング挿入費	式	1	
(6) 砂利充填・遮水費	式	1	
(7) 仕　上　費	式	1	
(8) 揚 水 試 験 費	式	1	
(9) 残 泥 土 処 理 費	m^3		
(10) 機械組立・解体費	式	1	
(11) 機 械 器 具 損 料	式	1	
(12) 報 告 書 作 成 費	式	1	
直 接 工 事 費 計			
(13) 共 通 仮 設 費	式	1	
純　工　事　費			
(14) 現 場 管 理 費	式	1	
工　事　原　価			
(15) 一 般 管 理 費	式	1	
工　事　費　計			

P123

現行（平成 26 年度）

第20－2表　掘さく労務歩掛

（1日当り）

職種／機種	スピンドルA	スピンドルB	スピンドルC
技師(C)	0.1人	0.1人	0.1人
さく井主任	1人	1人	1人
さく井技士	—	1人	1人
さく井士	1人	—	—
さく井助手	2人	2人	2人

第20－3表　掘さく日数と労務歩掛

項　目	深さ／単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘 さ く 日 数	日	11	15	19	24	12	17	22	27	13	19	25	31	15	21	28	34
技　師　(C)	人	2	2	2	3	2	2	3	3	2	2	3	4	2	3	3	4
さ く 井 主 任	〃	11	15	19	24	12	17	22	27	13	19	25	31	15	21	28	34
さ く 井 技 士	〃	0	0	0	24	0	0	0	27	13	19	25	31	15	21	28	34
さ く 井 工	〃	11	15	19	0	12	17	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さ く 井 助 手	〃	22	30	38	48	24	34	44	54	26	38	50	62	30	42	56	68

改定（平成 27 年度）

第20－2表　掘さく労務歩掛

（1日当り）

職種／機種	スピンドルA	スピンドルB	スピンドルC
技師(C)	0.1人	0.1人	0.1人
さく井主任	1人	1人	1人
さく井技士	—	1人	1人
さく井工	1人	—	—
さく井助手	2人	2人	2人

第20－3表　掘さく日数と労務歩掛

項　目	深さ／単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘 さ く 日 数	日	11	15	19	24	12	17	22	27	13	19	25	31	15	21	28	34
技　師　(C)	人	2	2	2	3	2	2	3	3	2	2	3	4	2	3	3	4
さ く 井 主 任	〃	11	15	19	24	12	17	22	27	13	19	25	31	15	21	28	34
さ く 井 技 士	〃	0	0	0	24	0	0	0	27	13	19	25	31	15	21	28	34
さ く 井 工	〃	11	15	19	0	12	17	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さ く 井 助 手	〃	22	30	38	48	24	34	44	54	26	38	50	62	30	42	56	68

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

(2)材料費

第21表　材料数量表

(1井当り)

材料名	深さ／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシングパイプ	本	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36
丸穴巻線型スクリーン	本	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10
充填砂利(硅砂)	m^3	3.3	5.0	6.6	8.3	4.4	6.6	8.8	11.0	4.5	6.8	9.0	11.3	6.3	9.4	12.5	15.6
ボットム装置	個	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(3)消耗材料費

第22－1表　掘さく消耗材料費

(1井当り)

消耗材料	深さ／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
トリコンビット	個	2.4	3.5	4.6	5.8	2.2	3.2	4.5	5.2	1.9	2.8	3.6	4.5	1.8	2.6	3.4	4.2
スタビライザー	個	0.13	0.19	0.25	0.31	0.15	0.22	0.29	0.36	0.2	0.29	0.38	0.47	0.22	0.33	0.43	0.54
ドリルパイプ類	m	8.5	12.7	17.0	21.2	8.5	12.7	17.0	21.2	8.5	12.7	17.0	21.2	8.5	12.7	17.0	21.2
ベントナイト	t	3.3	4.9	6.0	8.2	4.0	6.0	8.0	10.0	4.8	7.2	9.5	11.9	4.8	7.2	9.6	12.0
調泥剤	1式	ベントナイト費の20%を計上のこと															
機械・ポンプ	1式	ビット類とスタビライザーの合計費の7%を計上のこと															
コンダクターパイプ	m	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5
消耗品	1式	上記計の5%を計上のこと															

P124

第22－2表　ケーシング・遮水消耗材料表

消耗材料	深度／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシング用溶接棒	kg	3.0	4.5	6.0	7.5	5.0	7.5	10.0	12.5	10.0	15.0	20.0	25.0	15.0	22.5	30.0	37.5
遮水用セメント	袋	121				161				165				229			
遮水用塩ビトレミー管	本	8(VP30)								16(VP40)							
その他雑品	式	上記計の10%を計上のこと															

第22－3表　動力燃料消耗表

消耗材料	深度／単位	ケーシング径 150A				ケーシング径 200A				ケーシング径 300A				ケーシング径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく時燃料	ℓ	738	1007	1275	2316	805	1141	1476	2606	1255	1834	2413	5828	1448	2027	2702	6392
ケーシング時燃料	〃	134	134	134	290	134	134	134	386	193	290	290	752	193	290	290	940
砂利充填・遮水時燃料	〃	134	134	134	193	134	134	134	193	193	193	193	376	193	193	193	564
仕上げ時燃料	〃	201	201	201	290	201	201	201	290	290	290	290	564	290	290	290	564
揚水試験時燃料	〃	604	604	604	869	604	604	604	869	869	869	869	1692	869	869	869	1692
燃料消耗量計	〃	1811	2080	2348	3958	1878	2214	2549	4344	2800	3476	4055	9212	2993	3669	4344	10152

改定（平成 27 年度）

(2)材料費

第21表　材料数量表

(1井当り)

材料名	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシングパイプ	本	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36	15	22	29	36
丸穴巻線型スクリーン	本	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10	4	6	8	10
充填砂利(硅砂)	m^3	3.3	5.0	6.6	8.3	4.4	6.6	8.8	11.0	4.5	6.8	9.0	11.3	6.3	9.4	12.5	15.6
ボットム装置	個	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(3)消耗材料費

第22－1表　掘さく消耗材料費

(1井当り)

消耗材料	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
トリコンビット	個	2.4	3.5	4.6	5.8	2.2	3.2	4.5	5.2	1.9	2.8	3.6	4.5	1.8	2.6	3.4	4.2
スタビライザー	個	0.13	0.19	0.25	0.31	0.15	0.22	0.29	0.36	0.2	0.29	0.38	0.47	0.22	0.33	0.43	0.54
ドリルパイプ類	m	8.5	12.7	17.0	21.2	8.5	12.7	17.0	21.2	8.5	12.7	17.0	21.2	8.5	12.7	17.0	21.2
ベントナイト	t	3.3	4.9	6.0	8.2	4.0	6.0	8.0	10.0	4.8	7.2	9.5	11.9	4.8	7.2	9.6	12.0
調泥剤	1式	ベントナイト費の20%を計上のこと															
機械・ポンプ	1式	ビット類とスタビライザーの合計費の7%を計上のこと															
コンダクターパイプ	m	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5	4.0	6.0	8.0	12.5
消耗品	1式	上記計の5%を計上のこと															

第22－2表　ケーシング・遮水消耗材料表

消耗材料	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ケーシング用溶接棒	kg	3.0	4.5	6.0	7.5	5.0	7.5	10.0	12.5	10.0	15.0	20.0	25.0	15.0	22.5	30.0	37.5
遮水用セメント	袋	121				161				165				229			
遮水用塩ビトレミー管	本	8(VP30)								16(VP40)							
その他雑品	式	上記計の10%を計上のこと															

第22－3表　動力燃料消耗表

消耗材料	深さ／単位	ケーシング呼び径 150A				ケーシング呼び径 200A				ケーシング呼び径 300A				ケーシング呼び径 350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
掘さく時燃料	ℓ	738	1007	1275	2316	805	1141	1476	2606	1255	1834	2413	5828	1448	2027	2702	6392
ケーシング時燃料	〃	134	134	134	290	134	134	134	386	193	290	290	752	193	290	290	940
砂利充填・遮水時燃料	〃	134	134	134	193	134	134	134	193	193	193	193	376	193	193	193	564
仕上げ時燃料	〃	201	201	201	290	201	201	201	290	290	290	290	564	290	290	290	564
揚水試験時燃料	〃	604	604	604	869	604	604	604	869	869	869	869	1692	869	869	869	1692
燃料消耗量計	〃	1811	2080	2348	3958	1878	2214	2549	4344	2800	3476	4055	9212	2993	3669	4344	10152

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

(5)ケーシング挿入費

第24表　ケーシング挿入労務

項　目	深さ / 単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
準　備　・　挿　入	日	2	2	2	3	2	2	2	4	2	3	3	4	2	3	3	5
技　師　(C)	人	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3	2	3	3	4
さ　く　井　主　任	〃	2	2	2	3	2	2	2	4	2	3	3	4	2	3	3	5
さ　く　井　技　士	〃	2	2	2	3	2	2	2	3	2	4	4	4	3	4	4	6
さ　く　井　工	〃	2	3	3	4	2	3	3	4	3	5	5	5	3	5	5	7
さ　く　井　助　手	〃	2	3	3	5	3	3	3	5	3	4	4	7	4	5	5	7
溶　接　工	〃	2	3	3	4	2	3	3	4	2	3	3	4	3	3	3	5

(6)砂利充填・遮水費

第25表　砂利充填・遮水労務

項　目	深度 / 単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作　業　日　数	日	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
技　師　(C)	人	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　主　任	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　技　士	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　工	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　助　手	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3

P125

(7)仕上費

第26表　仕上げ労務

項　目	深度 / 単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作　業　日　数	日	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
技　師　(C)	人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
さ　く　井　主　任	〃	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
さ　く　井　技　士	〃	0	0	0	3	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3
さ　く　井　工	〃	3	3	3	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さ　く　井　助　手	〃	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

P126

(11)機械器具損料

第30表　機械器具損料表

(1井当り)

機　械　器　具	深度 / 単位	ケーシング径　150A				ケーシング径　200A				ケーシング径　300A				ケーシング径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ロータリーさく井機	日	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69
泥　水　ポ　ン　プ	〃	17	22	26	32	18	24	29	36	19	27	33	40	22	29	36	45
掘　削　櫓	〃	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69
電　気　溶　接　機	〃	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69
工事用サンドポンプ類、他	〃	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69

改定（平成 27 年度）

(5)ケーシング挿入費

第24表　ケーシング挿入労務

項　目	深さ / 単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
準　備　・　挿　入	日	2	2	2	3	2	2	2	4	2	3	3	4	2	3	3	5
技　師　(C)	人	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3	2	3	3	4
さ　く　井　主　任	〃	2	2	2	3	2	2	2	4	2	3	3	4	2	3	3	5
さ　く　井　技　士	〃	2	2	2	3	2	2	2	3	2	4	4	4	3	4	4	6
さ　く　井　工	〃	2	3	3	4	2	3	3	4	3	5	5	5	3	5	5	7
さ　く　井　助　手	〃	2	3	3	5	3	3	3	5	3	4	4	7	4	5	5	7
溶　接　工	〃	2	3	3	4	2	3	3	4	2	3	3	4	3	3	3	5

(6)砂利充填・遮水費

第25表　砂利充填・遮水労務

項　目	深さ / 単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作　業　日　数	日	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
技　師　(C)	人	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　主　任	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　技　士	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　工	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3
さ　く　井　助　手	〃	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	3

(7)仕上費

第26表　仕上げ労務

項　目	深さ / 単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
作　業　日　数	日	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
技　師　(C)	人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
さ　く　井　主　任	〃	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
さ　く　井　技　士	〃	0	0	0	3	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3
さ　く　井　工	〃	3	3	3	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さ　く　井　助　手	〃	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

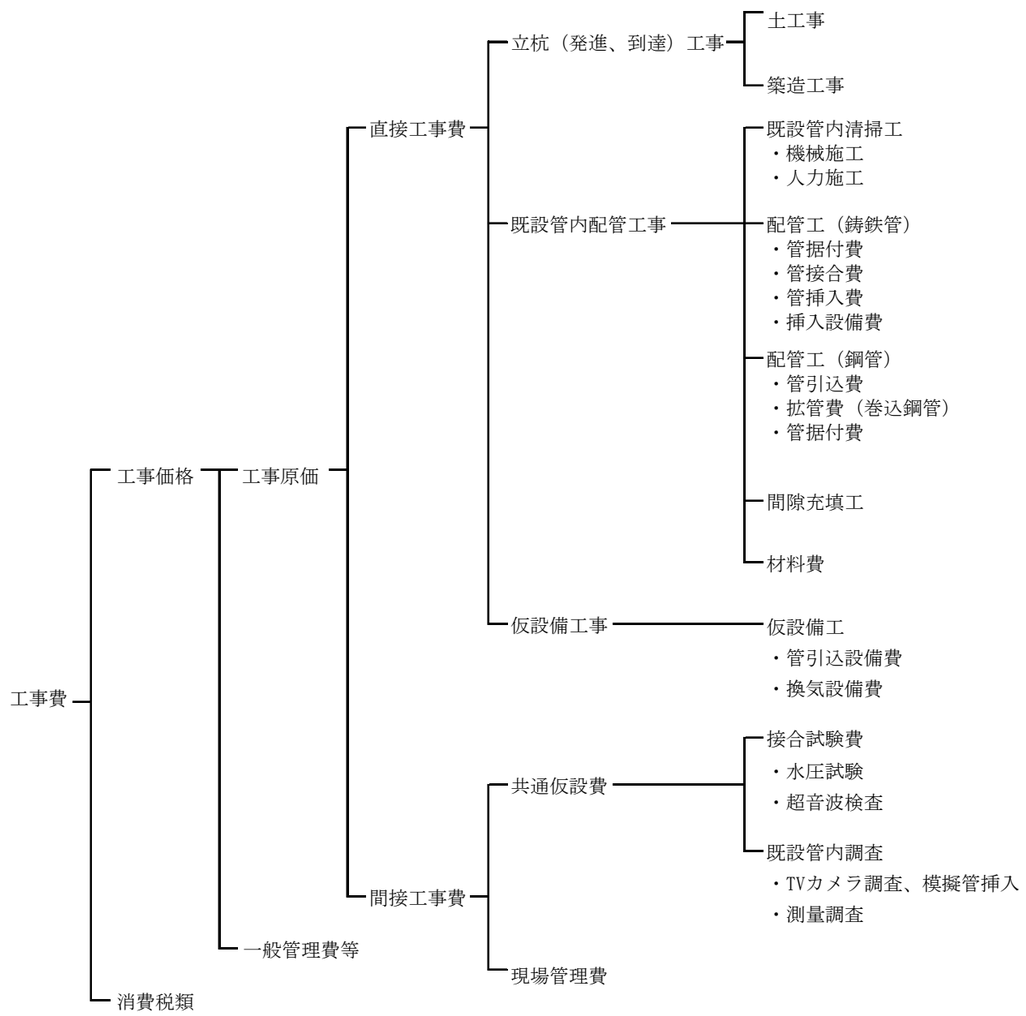
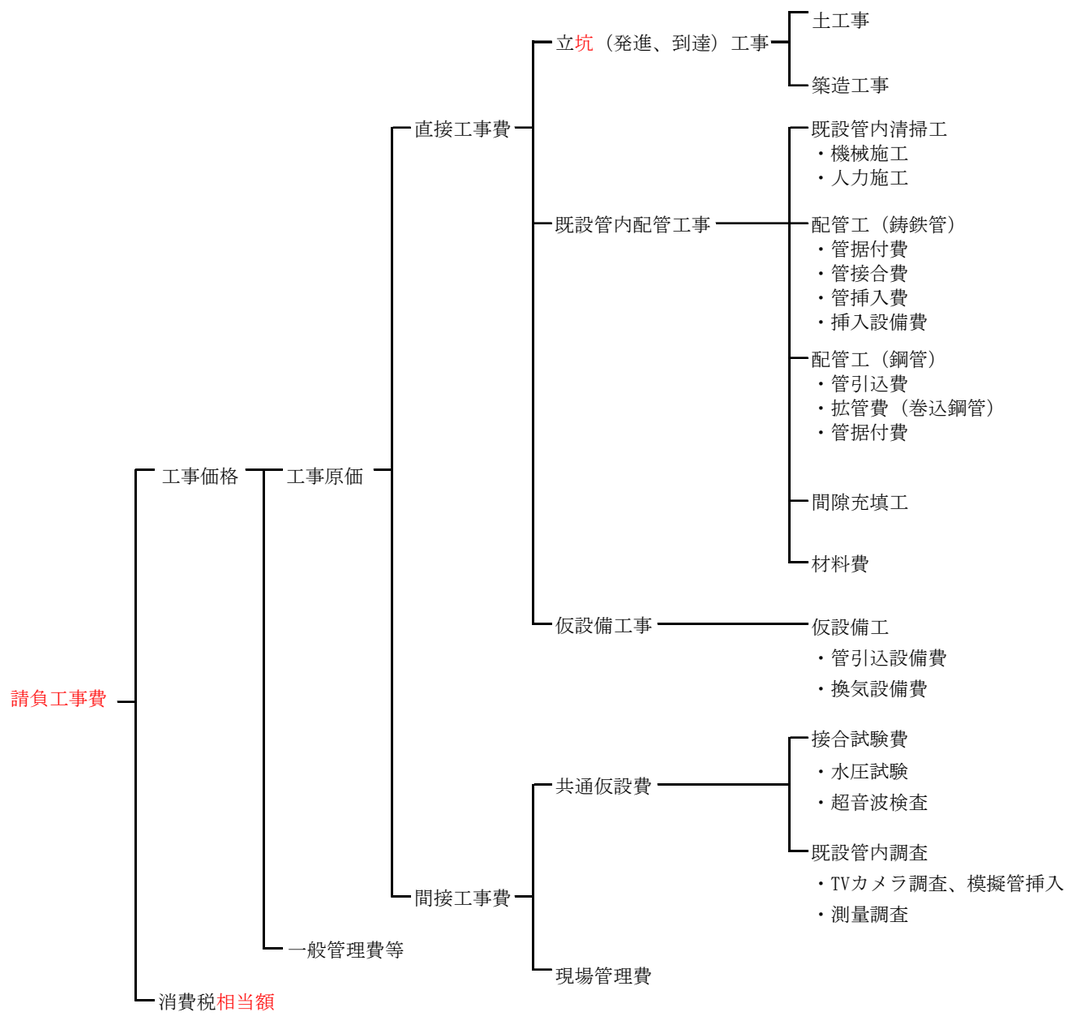
(11)機械器具損料

第30表　機械器具損料表

(1井当り)

機　械　器　具	深さ / 単位	ケーシング呼び径　150A				ケーシング呼び径　200A				ケーシング呼び径　300A				ケーシング呼び径　350A			
		100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m	100m	150m	200m	250m
ロータリーさく井機	日	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69
泥　水　ポ　ン　プ	〃	17	22	26	32	18	24	29	36	19	27	33	40	22	29	36	45
掘　削　櫓	〃	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69
電　気　溶　接　機	〃	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69
工事用サンドポンプ類、他	〃	39	44	48	54	40	46	51	58	41	49	55	64	44	51	58	69

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P127	5－3－2　積算 １．構成  	5－3－2　積算 １．構成 

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P129

(4)諸雑費

第 4 表

（表　略）

（注）錆層の運搬及び処分に係る費用については別途計上する。

第 5 表

（1日当り）

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	世　話　役		人	1.0		第1表
②	普 通 作 業 員		〃	5.0		〃
③	特 殊 作 業 員		〃	2.0		〃
④	電動ウインチ損料	単胴普通型1.5t	日	1.0		第2表
⑤	〃	〃　1.0t	日	1.0		〃
⑥	発動発電機運転	排出ガス対策型20kVA	日	1.0		〃
⑦	発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動 10kVA	日	1.0		〃
⑧	トラック運転［クレーン装置付］	4t積 2.9t吊	時間	5.3		〃
⑨	諸　雑　費		式	1	Σ(①～③)×10%	第4表
	小　計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第3表
⑩	清 掃 治 具 費		m			第2表
⑪	小 器 材 費		m			〃
	計					1m当り

P130

第 8 表

（表　略）

（注）上表を基本施工量として、管種に応じて次表の補正係数を乗ずるものとする。

第 10 表

（表　略）

（注）錆層の運搬及び処分に係る費用については別途計上する。

P131

3. 歩掛表

(1) 既設管内清掃工（人力施工）

第 11 表

（1日当り）

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人	1.0		第6表
②	普 通 作 業 員		〃			〃
③	特 殊 作 業 員		〃	1.0		〃
④	高圧洗浄機運転	30.1ℓ/min 4.9MPa	日	1.0		第7表
⑤	発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動5kVA	日	1.0		〃
⑥	散 水 車 運 転	3,800ℓ	日	1.0		〃
	トラック運転［クレーン装置付］	4t積　2.9t吊	時間	5.3		〃
	諸　雑　費		式	1	Σ(①～③)×13%	第10表
	計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第8表、第9表

改定（平成 27 年度）

(4)諸雑費

第 4 表

（表　略）

備考　錆層の運搬及び処分に係る費用については別途計上する。

第 5 表

（1m当り）

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	世　話　役		人	1.0		第1表
②	普 通 作 業 員		〃	5.0		〃
③	特 殊 作 業 員		〃	2.0		〃
④	モータウインチ損料	単胴普通型1.5t	日	1.0		第2表
⑤	モータウインチ損料	〃　1.0t	日	1.0		〃
⑥	発動発電機運転	排出ガス対策型20kVA	日	1.0		〃
⑦	発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動 10kVA	日	1.0		〃
⑧	トラック運転［クレーン装置付］	4t積 2.9t吊	時間	5.3		〃
⑨	諸　雑　費		式	1	Σ(①～③)×10%	第4表
	小　計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第3表
⑩	清 掃 治 具 費		m			第2表
⑪	小 器 材 費		m			〃
	計					1m当り

第 8 表

（表　略）

備考　上表を基本施工量として、管種に応じて次表の補正係数を乗ずるものとする。

第 10 表

（表　略）

備考　錆層の運搬及び処分に係る費用については別途計上する。

3. 歩掛表

(1) 既設管内清掃工（人力施工）

第 11 表

（1m当り）

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人	1.0		第6表
②	普 通 作 業 員		〃			〃
③	特 殊 作 業 員		〃	1.0		〃
④	高圧洗浄機運転	30.1ℓ/min 4.9MPa	日	1.0		第7表
⑤	発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動5kVA	日	1.0		〃
⑥	散水車（給水車）運転	3,800ℓ	日	1.0		〃
⑦	トラック運転［クレーン装置付］	4t積　2.9t吊	時間	5.3		〃
⑧	諸　雑　費		式	1	Σ(①～③)×13%	第10表
	計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第8表、第9表

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P133

現行（平成 26 年度）

第 13 表
（表　略）
（注）トラッククレーン（油圧伸縮ジブ型）は、賃料とする。

イ.機械器具
第 16 表

（400m全損）

新設呼び径(mm)	先導金具(個)	ジャッキ台(kg)	挿入台(kg)	押し角(kg)
400以下	4	50	417	200
500	4	50	417	220
600	6	50	417	240
700	6	50	417	240
800	8	70	417	280
900	8	70	703	410
1000	10	70	703	500
1100	10	100	703	550
1200	12	100	703	580
1350	12	100	1,107	1,010

第 17 表

（400m全損）

新設呼び径(mm)	ストラット(組×kg)	油圧ジャッキ能力(t)×2台	分流器	油圧ポンプ(kVA)	油圧ホース能力(t)×5本	作動油(L/m・台)
400以下	672	50	1	3.7	50	0.25
500	672	50	1	3.7	50	0.25
600	672	50	1	3.7	50	0.25
700	672	50	1	3.7	50	0.25
800	672	80	1	7.5	100	0.30
900	672	80	1	7.5	100	0.30
1000	960	80	1	7.5	100	0.30
1100	960	100	1	7.5	100	0.30
1200	960	100	1	7.5	100	0.30
1350	960	100	1	7.5	100	0.30

第 18 表

（1箇所当り）

新設呼び径(mm)	世話役(人)	とび工(人)	普通作業員(人)	トラッククレーン運転時間		床版材
				規格	(日)	
300～600	1.0	2.0	3.0	4.9t吊	2.0	労務費の10%
700～900	1.0	2.0	4.0	〃	2.0	〃　の15%
1000～1350	1.5	3.0	5.0	〃	3.0	〃　の15%

（注）1. トラッククレーン･油圧伸縮ジブ型は、日数分の賃料を計上する。
2. 床版材費用として、設置工労務費の10～15%を計上する。

4. 歩掛表
(1)管据付費
第 19 表
（表　略）

改定（平成 27 年度）

第 13 表
（表　略）
備考　トラッククレーン（油圧伸縮ジブ型）は、賃料とする。

イ.機械器具
第 16 表

名称	項目＼新設呼び径(mm)	400以下	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1350
先導金具	損料率	m当り　1/工事延長									
	使用数(個)	4	4	6	6	8	8	10	10	12	12
ｼﾞｬｯｷ台	質量(kg)	50	50	50	50	70	70	70	100	100	100
	損料率	m当り　1/400									
挿入台	質量(kg)	417	417	417	417	417	703	703	703	703	1107
	損料率	m当り　1/400									
押角	質量(kg)	200	220	240	240	280	410	500	550	580	1010
	損料率	m当り　1/400									
ｽﾄﾗｯﾄ	質量(kg)	672	672	672	672	672	672	960	960	960	960
	損料率	m当り　1/400									
油圧ｼﾞｬｯｷ	種別(T)	50	50	50	50	80	80	80	100	100	100
	損料率	m当り　供用1日当り損料率※1/日進量									
	使用数(台)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
分流器	損料率	m当り　供用1日当り損料率※1/日進量									
	使用数(台)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
油圧ﾎﾟﾝﾌﾟ	種別(kVA)	3.7	3.7	3.7	3.7	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
	損料率	m当り　供用1日当り損料率※1/日進量									
油圧ﾎｰｽ	種別(T)	50	50	50	50	100	100	100	100	100	100
	損料率	m当り　損料率※2									
	使用数(本)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
作動油	消費量(L/m・台)	0.25	0.25	0.25	0.25	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3

（※1，※2）下水道協会の下水道用設計積算要領　管路施設(推進工法)編に準拠すること。

（表　削除（第 16 表と統合））

第 17 表

（1箇所当り）

新設呼び径(mm)	世話役(人)	とび工(人)	普通作業員(人)	トラッククレーン運転時間		諸雑費
				規格	(日)	
300～600	1.0	2.0	3.0	4.9t吊	2.0	労務費の10%
700～900	1.0	2.0	4.0	〃	2.0	労務費の15%
1000～1350	1.5	3.0	5.0	〃	3.0	

備考　1. トラッククレーン･油圧伸縮ジブ型は、日数分の賃料を計上する。
2. 諸雑費には、床版材費用として、設置工労務費の10～15%を計上する。

4. 歩掛表
(1)管据付費
第 18 表
（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P134

(2)管接合費
第 20-1 表　(PⅡ形)
（表　略）

第 20-2 表　(PN 形)
（表　略）

(3)管挿入費
第 21 表

(1m当り)

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第15表
②	配　管　工		〃			〃
③	普 通 作 業 員		〃			〃
④	電　工		〃			〃
⑤	機 械 器 具 損 料		m	1.0		第16表～第17表
	計					

(4)挿入設備費
第 22 表

(1箇所当り)

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第18表
②	と　び　工		〃			〃
③	普 通 作 業 員		〃			〃
④	床　版　材		式	1	Σ(①～③)×%	〃　設置
⑤	トラッククレーン賃料	油圧式4.9t吊	日			〃
	計					

（注）撤去工は、設置工労務費に補正係数0.6を乗じる。

P135

第 23 表
（表　略）
（注）１．トラッククレーンの標準時間は「建設機械損料算定表」による。
　　２．先導金具の損料率は、0.9×1/500=0.0018 とする。
　　３．ワイヤーの損料率は、0.0006 とする。

(2)編成人員
第 24 表
（表　略）

(3)標準作業量
第 25 表
（表　略）
（注）１．本表は、直管を引き込む場合の標準作業量である。
　　２．普通鋼管及び巻込鋼管共通とする。

第 25－2 表
（表　略）
（注）１．本表は、短管（3m 以下）、異形管を引き込む場合の標準作業量である。
　　２．普通鋼管及び巻込鋼管共通とする。

改定（平成 27 年度）

(2) 管接合費
第 19-1 表　(PⅡ形)
（表　略）

第 19-2 表　(PN 形)
（表　略）

(3)管挿入費
第 20 表

(1m当り)

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第15表
②	配　管　工		〃			〃
③	普 通 作 業 員		〃			〃
④	電　工		〃			〃
⑤	機 械 器 具 損 料		m	1.0		第16表
	計					

(4)挿入設備費
第 21 表

(1箇所当り)

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第17表
②	と　び　工		〃			〃
③	普 通 作 業 員		〃			〃
④	諸　雑　費		式	1	Σ(①～③)×%	〃　設置
⑤	トラッククレーン賃料	油圧式4.9t吊	日			〃
	計					

備考 撤去工は、設置工労務費に補正係数0.6を乗じる。

第 22 表
（表　略）
備考　１．トラッククレーンの標準時間は「建設機械損料算定表」による。
　　２．先導金具の損料率は、0.9×1/500=0.0018 とする。
　　３．ワイヤーの損料率は、0.0006 とする。

(2)編成人員
第 23 表
（表　略）

(3)標準作業量
第 24－1 表
（表　略）
備考　１．本表は、直管を引き込む場合の標準作業量である。
　　２．普通鋼管及び巻込鋼管共通とする。

第 24－2 表
（表　略）
備考　１．本表は、短管（3m 以下）、異形管を引き込む場合の標準作業量である。
　　２．普通鋼管及び巻込鋼管共通とする。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P136

第 26 表
（表　略）
（注）中間の距離は直近値を適用する。

(5)歩掛表
第 27 表　管引込費

（1日当り）

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第24表
②	特　殊　作　業　員		〃			〃
③	配　管　工		〃			〃
④	トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型16t吊	日	1.0		第23表
⑤	ウ　イ　ン　チ	22kW　3t	〃	1.0		〃
⑥	先　導　金　具		個	4.0		〃
⑦	ワ　イ　ヤ　ー	10mm	m	0.0288		24×2本 48×0.0006
⑧	電　力　料		kW	40.3		
⑨	諸　雑　費		式	1	⑧×4%	電力料の4%
	計					1日当り
			m	当り	計/作業量	第25、25-2表

（注）1. 作業量については、配管施工延長により補正する。
2. 直管及び単管、異形管に区分して積上げる。

(1)使用機械
第 28 表
（表　略）
（注）油圧ジャッキは 3 台使用する。

(2)編成人員
第 29 表
（表　略）

P137

(3)標準作業量
第 30 表
（表　略）
（注）本表は、直管を拡管する場合の標準作業量であり、異形管、短管等については別途とする。

第 31 表　拡管費（巻込鋼管）

（1日当り）

番号	名　称	形　状	単　位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第29表
②	特 殊 作 業 員		〃			〃
③	溶　接　工		〃			〃
④	油 圧 ジ ャ ッ キ	手動式20t	日	3.0		ポンプ・ホース15欄
⑤	計　測　器　具	レベル3級	〃	1.0		
	計					1日当り
			m	当り	計/標準作業量	第30表

(1)使用機械、消耗品類
第 32 表
（表　略）
（注）1. 溶接機は、仮付け、裏当て金等の仮溶接に使用し、1 台とする。
基本電力料は、13kVA×0.7×2 時間＝18.2kW/日
2. チェーンブロック、レバーブロックは各 1 台とする。

改定（平成 27 年度）

第 25 表
（表　略）
備考　中間の距離は直近値を適用する。

(5)歩掛表
第 26 表　管引込費

（1m当り）

番号	名　称	形　状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第23表
②	特　殊　作　業　員		〃			〃
③	配　管　工		〃			〃
④	トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型16t吊	日	1.0		第22表
⑤	ウ　イ　ン　チ	22kW　3t	〃	1.0		〃
⑥	先　導　金　具		個	4.0		〃
⑦	諸　雑　費		式	1	(⑤+⑥)×10%	機械器具損料の10%
	計					1日当り
			m	当り	計/作業量	第24-1、24-2表

備考 1. 作業量については、配管施工延長により補正する。
2. 直管及び単管、異形管に区分して積上げる。
3. 諸雑費には、電力料及びワイヤー費用を含むものとする。

(1)使用機械
第 27 表
（表　略）
備考　油圧ジャッキは 3 台使用する。

(2)編成人員
第 28 表
（表　略）

(3)標準作業量
第 29 表
（表　略）
備考　本表は、直管を拡管する場合の標準作業量であり、異形管、短管等については別途とする。

第 30 表　拡管費（巻込鋼管）

（1m当り）

番号	名　称	形　状	単　位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人			第28表
②	特 殊 作 業 員		〃			〃
③	溶　接　工		〃			〃
④	油 圧 ジ ャ ッ キ	手動式20t	日	3.0		ポンプ・ホース15欄
⑤	計　測　器　具	レベル3級	〃	1.0		
	計					1日当り
			m	当り	計/標準作業量	第29表

(1)使用機械、消耗品類
第 31 表
（表　略）
備考　1. 溶接機は、仮付け、裏当て金等の仮溶接に使用し、1 台とする。
基本電力料は、13kVA×0.7×2 時間＝18.2kW/日
2. チェーンブロック、レバーブロックは各 1 台とする。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

(2)編成人員

第 33 表

（表　略）

第 34 表

（表　略）

（注）1. 本表は、直管を据付る場合の標準作業量である。

2. 普通鋼管、巻込鋼管共通とする。

P138

第 34－2 表

（表　略）

（注）1. 本表は、短管（3m 以下）、異形管を据付る場合の標準作業量である。

2. 普通鋼管、巻込鋼管共通とする。

第 35 表　管据付費

（1日当り）

番号	名　称	形　状	単　位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人	0.5		第33表
②	溶　接　工		〃	2.0		〃
③	特殊作業員		〃	4.0		〃
④	チェーンブロック	3t	日	1.0		第32表
⑤	レバーブロック	3t	〃	1.0		〃
⑥	溶接機損料	300A	〃	1.0		〃
⑦	溶　接　棒		kg	5.0		〃
⑧	電　力　料		kW	18.2		〃
⑨	ゴムスペーサー		個	4.0		〃
	計					1日当り
			m	当り	計/標準作業量	第34、34-2表

P139

第 36 表

（表　略）

（注）捨てコンクリートを打設する場合は加算すること。

第 37 表

（表　略）

（注）空気清浄装置は必要に応じて計上する。

第 38 表

（1設備当り）

番号	名　称	形　状	単　位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人	1		
②	普通作業員		〃	4		
③	溶　接　工		〃	1		
④	電　　工		〃	1		
⑤	雑　　工		式	1	Σ(①～④)×10%	労務費の10%
	計					

第 39 表

（表　略）

改定（平成 27 年度）

(2)編成人員

第 32 表

（表　略）

第 33－1 表

（表　略）

備考　1. 本表は、直管を据付る場合の標準作業量である。

2. 普通鋼管、巻込鋼管共通とする。

第 33－2 表

（表　略）

備考　1. 本表は、短管（3m 以下）、異形管を据付る場合の標準作業量である。

2. 普通鋼管、巻込鋼管共通とする。

第 34 表　管据付費

（1m当り）

番号	名　称	形　状	単　位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人	0.5		第32表
②	溶　接　工		〃	2.0		〃
③	特殊作業員		〃	4.0		〃
④	チェーンブロック	3t	日	1.0		第31表
⑤	レバーブロック	3t	〃	1.0		〃
⑥	溶接機損料	300A	〃	1.0		〃
⑦	溶　接　棒		kg	5.0		〃
⑧	電　力　料		kW	18.2		〃
⑨	ゴムスペーサー		個	4.0		〃
	計					1日当り
			m	当り	計/標準作業量	第33-1、33-2表

第 35 表

（表　略）

備考　捨てコンクリートを打設する場合は加算すること。

第 36 表

（表　略）

備考　空気清浄装置は必要に応じて計上する。

第 37 表

（1設備当り）

番号	名　称	形　状	単　位	数　量	金　額	摘　要
①	世　話　役		人	1		
②	普通作業員		〃	4		
③	溶　接　工		〃	1		
④	電　　工		〃	1		
⑤	諸　雑　費		式	1	Σ(①～④)×10%	労務費の10%
	計					

第 38 表

（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P140	7．接合試験費 1．ダクタイル鋳鉄管 （1）水圧試験工 水圧試験は、原則として呼び径 900mm 以上について行い、積算は「2－3－11　水圧試験」による。 2．鋼管 （1）超音波探傷検査 ア．超音波探傷検査 積算は、「2－4－10　超音波探傷検査歩掛表」による。 **5－3－5　既設管内調査歩掛表** 1．適用範囲 　本基準は、既設呼び径φ400～700mm におけるテレビカメラ調査及び模擬管通過調査並びに既設呼び径φ800～2000mm における測量調査工を実施する場合に適用する。 2．調査内容 （2）調査手法 　調査は、呼び径によって次の調査手法を標準とする。 **5－3－5－1　テレビカメラ調査・模擬管調査** 2．施工歩掛 第 43 表　テレビカメラ調査 （表　略） 第 44 表　模擬管調査 （表　略）	7．接合試験費 1．ダクタイル鋳鉄管 （1）水圧試験工 水圧試験は、原則として呼び径 900mm 以上について行い、積算は「第一編　請負工事標準歩掛　第２章　開削工歩掛　第３節　鋳鉄管布設工　2-3-12　水圧試験歩掛表」による。 2．鋼管 （1）超音波探傷検査 ア．超音波探傷検査 積算は、「第一編　請負工事標準歩掛　第２章　開削工歩掛　第４節　鋼管布設工　2-4-10　超音波~~探傷~~検査歩掛表」による。 **5－3－5　既設管内調査歩掛表** 1．適用範囲 　本基準は、既設内径φ400～700mm におけるテレビカメラ調査及び模擬管通過調査並びに既設内径φ800～2000mm における測量調査工を実施する場合に適用する。 2．調査内容 （2）調査手法 　調査は、内径によって次の調査手法を標準とする。 **5－3－5－1　テレビカメラ調査・模擬管調査** 2．施工歩掛 第 39 表　テレビカメラ調査 （表　略） 第 40 表　模擬管調査 （表　略）
P141	第 45 表　模擬管組立・解体 （表　略） 第 46 表　テレビカメラ調査 （表　略） 第 47 表　模擬管調査 （表　略） （注）小器材は、既設管内清掃工（機械施工）で計上したものを使用する。 第 48 表 （表　略） 第 49 表 （表　略） （注）1. テレビカメラ調査に係る諸雑費は、テレビカメラ車の燃料等の費用であり、昼間作業の場合は 3%夜間作業の場合は 2%とする。 　　模擬管接合・解体に係る諸雑費は、接合工具の損料等である。	第 41 表　模擬管組立・解体 （表　略） 第 42 表　テレビカメラ調査 （表　略） 第 43 表　模擬管調査 （表　略） 備考　小器材は、既設管内清掃工（機械施工）で計上したものを使用する。 第 44 表 （表　略） 第 45 表 （表　略） 備考　1. テレビカメラ調査に係る諸雑費は、テレビカメラ車の燃料等の費用であり、昼間作業の場合は 3%、夜間作業の場合は 2%とする。 　　2. 模擬管接合・解体に係る諸雑費は、接合工具の損料等である。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P142

現行（平成 26 年度）

3. 歩掛表

(1)テレビカメラ調査工

第 50 表

(1日当り)

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	測量技師補		人	1.0		第43表
②	特殊作業員		〃	1.0		〃
③	普通作業員		〃	2.0		〃
④	テレビカメラ車損料	2t　63kw	時間	6.0		第46表
⑤	諸雑費		式	1	Σ(①～③)×3(2)%	第49表
	計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第48表

(2)模擬管調査工

第 50－2 表

(1日当り)

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	世話役		人	1.0		第44表
②	配管工		〃	1.0		〃
③	普通作業員		〃	3.0		〃
④	特殊作業員		〃	2.0		〃
⑤	電動ウインチ損料	単胴普通型　1.5t	日	1.0		第47表
⑥	〃	〃　1.0t	日	1.0		〃
⑦	発動発電機運転	排出ガス対策型20kVA	日	1.0		〃
⑧	〃	ディーゼルエンジン駆動 10kVA	日	1.0		〃
⑨	トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	日	1.0		〃
	計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第48表

(3)模擬管組立・解体工

第 50－3 表

(1スパン当り)

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	世話役		人			第45表
②	配管工		〃			〃
③	普通作業員		〃			〃
④	諸雑費		式	1	Σ(①～③)×10%	第49表
	計					

（注）別途、模擬挿入用管を工場製作原価扱いで計上すること。
なお、模擬管は1案件につき1式製作することを標準とする。

改定（平成 27 年度）

3. 歩掛表

(1)テレビカメラ調査工

第 46－1 表

(1m当り)

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	測量技師補		人	1.0		第39表
②	特殊作業員		〃	1.0		〃
③	普通作業員		〃	2.0		〃
④	テレビカメラ車損料	2t　63kw	時間	6.0		第42表
⑤	諸雑費		式	1	Σ(①～③)×3(2)%	第45表
	計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第44表

(2)模擬管調査工

第 46－2 表

(1m当り)

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	世話役		人	1.0		第40表
②	配管工		〃	1.0		〃
③	普通作業員		〃	3.0		〃
④	特殊作業員		〃	2.0		〃
⑤	モータウインチ損料	単胴普通型　1.5t	日	1.0		第43表
⑥	〃	〃　1.0t	日	1.0		〃
⑦	発動発電機運転	排出ガス対策型20kVA	日	1.0		〃
⑧	〃	ディーゼルエンジン駆動 10kVA	日	1.0		〃
⑨	トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	日	1.0		〃
	計					1日当り
			m	当り	計/施工量	第44表

(3)模擬管組立・解体工

第 46－3 表

(1スパン当り)

番号	名称	形状	単位	数量	金額	摘要
①	世話役		人			第41表
②	配管工		〃			〃
③	普通作業員		〃			〃
④	諸雑費		式	1	Σ(①～③)×10%	第45表
	計					

備考　別途、模擬挿入用管を工場製作原価扱いで計上すること。
なお、模擬管は1案件につき1式製作することを標準とする。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P143	第 51 表 （1日当り） 呼び径（mm）／測量作業：測量技師 1、測量助手 2、普通作業員 ―／作業補助：普通作業員 2 800～1600：1 2 ― 2 1800～2600：1 2 1 2 （注）1．既設呼び径1800mm以上の作業における普通作業員は、測点マーキング及び内径測定における足場組立解体等の作業に必要なため計上する。 2．作業補助の普通作業員は、作業孔(立坑、空気弁部)における照明、換気設備の管理、排水作業、覆工板の開閉等を行うため、作業孔(両側各1名)計上する。 (2)標準作業量 第 52 表 （1口当り） 継手箇所数(100m当り)／作業量(T)(m)：20以下 21～30 31以上 呼び径 800～1100mm：90 70 50 呼び径 1200～2600mm：110 90 70 （注）1．継手箇所数の算出は、原則として次のとおりとする。 (1) 既設管の継手箇所数が竣工図等から算出できる場合 $n=\frac{\text{工事施行区間の継手数}}{\text{工事施行距離}}\times 100$　　n：100m当りの継手数 (2) 既設管の継手箇所数が竣工図等から算出できない場合 $n=\frac{100}{\text{既設管長}}$　　n：100m当りの継手数 （注）既設管長については、「JISおよびJWWA規格」における標準寸法等を参照。 2．伏越部は、伏越部1箇所(斜部両側)当り1日とする(斜部の計測は梯子などが必要となり作業効率が落ちるため)。	第 47 表 （1日当り） 内径（mm）／測量作業：測量技師 1、測量助手 2、普通作業員 ―／作業補助：普通作業員 2 800～1600：1 2 ― 2 1800～2600：1 2 1 2 備考 1．既設内径1800mm以上の作業における普通作業員は、測点マーキング及び内径測定における足場組立解体等の作業に必要なため計上する。 2．作業補助の普通作業員は、作業孔(立坑、空気弁部)における照明、換気設備の管理、排水作業、覆工板の開閉等を行うため、作業孔(両側各1名)計上する。 (2)標準作業量 第 48 表 （1日当り） 継手箇所数(100m当り)／作業量(T)(m)：20以下 21～30 31以上 内径 800～1100mm：90 70 50 内径 1200～2600mm：110 90 70 備考 1．継手箇所数の算出は、原則として次のとおりとする。 (1) 既設管の継手箇所数が竣工図等から算出できる場合 $n=\frac{\text{工事施工区間の継手数}}{\text{工事施工距離}}\times 100$　　n：100m当りの継手数 (2) 既設管の継手箇所数が竣工図等から算出できない場合 $n=\frac{100}{\text{既設管長}}$　　n：100m当りの継手数 （注）既設管長については、「JISおよびJWWA規格」における標準寸法等を参照。 2．伏越部は、伏越部1箇所(斜部両側)当り1日とする(斜部の計測は梯子などが必要となり作業効率が落ちるため)。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P144		

現行（平成 26 年度）

第 53 表
（表　略）

第 54 表

(%)

諸雑費率	7
雑機材率	15

（注）1．諸雑費は、作業補助を除く労務費の合計額に上表の率を乗ずる。
　　2．雑機材は、機械器具費の合計額に上表の率を乗ずる。

3．歩掛表
第 55 表

(1日当り)

番号	名　称	形 状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	測　量　技　師		人	1.0		第51表
②	測　量　助　手		〃	2.0		〃
③	普　通　作　業　員		〃	1.0		〃　1800mm以上
④	諸　雑　費		式	1		第54表Σ(①～③)×7%
⑤	普　通　作　業　員		人	2.0		第51表 作業補助
⑥	トータルステーション		日	1.0		第53表
⑦	クレーン付トラック運転		時間	5.3		第53表
⑧	発動発電機賃料		日	1.0		第53表
⑨	雑　機　材　費		式	1		第54表Σ(⑥～⑧)×15%
	計					
			m	当り	⑩/標準作業量	第52表

改定（平成 27 年度）

第 49 表
（表　略）

第 50 表

(%)

諸雑費率	7
雑機材費率	15

備考　1．諸雑費は、作業補助を除く労務費の合計額に上表の率を乗ずる。
　　2．雑機材費は、機械器具費の合計額に上表の率を乗ずる。

3．歩掛表
第 51 表

(1m当り)

番号	名　称	形 状	単 位	数　量	金　額	摘　要
①	測　量　技　師		人	1.0		第47表
②	測　量　助　手		〃	2.0		〃
③	普　通　作　業　員		〃	1.0		〃　1800mm以上
④	諸　雑　費		式	1		第50表Σ(①～③)×7%
⑤	普　通　作　業　員		人	2.0		第47表 作業補助
⑥	トータルステーション		日	1.0		第49表
⑦	クレーン付トラック運転		時間	5.3		第49表
⑧	発動発電機賃料		日	1.0		第49表
⑨	雑　機　材　費		式	1		第50表Σ(⑥～⑧)×15%
	計					
			m	当り	計/標準作業量	第48表

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号 P155

現行（平成 26 年度）

(5)機械運転表
第 31 表

機 械 名	規　　格	運転日当り運転時間	指定事項
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型 搭乗式 コンバインド型 3～4t		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→ 15 機械損料数量　→　1.60
タ　　ン　　パ	60～80kg		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　4.5 機械損料数量　→　1.61

備考　運転日当り運転時間は、建設機械損料表による。

改定（平成 27 年度）

(5)機械運転表
第 31 表

機 械 名	規　　格	適用単価表	指定事項
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型 搭乗式 コンバインド型 3～4t	第32表	運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→ 15 機械賃料数量　→　1.52
タ　　ン　　パ	60～80kg	第18表	運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　4.5 機械賃料数量　→　1.61

備考　運転日当り運転時間は、建設機械損料表による。

第 32 表　振動ローラ運転 1 日当り単価表

（1日当り）

名　　称	規格	単位	数量	単価（円）	金額（円）	摘　　要
運転手（特殊）		人				
燃　料　費		ℓ				
機　械　賃　料		供用日				
諸　雑　費		式	1			
計						

P156

現行（平成 26 年度）

1－1－5　不陸整正歩掛表
(1)適用範囲
　（中略）
　施工機械は、図-3 及び第 32 表を標準とする。

第 32 表　機種の規格
（表　略）

(2)施工歩掛
1）労務歩掛
不陸整正工労務は第 33 表を標準とする。
第 33 表　路盤工の編成人員(普通作業員)
（表　略）

2）締固め機械運転時間
締固め機械の運転時間は第 34 表を標準とする。
第 34 表　機械の 100m2 当りの施工量(Q)
（表　略）

改定（平成 27 年度）

1－1－5　不陸整正歩掛表
(1)適用範囲
　（中略）
　施工機械は、図-3 及び第 33 表を標準とする。

第 33 表　機種の規格
（表　略）

(2)施工歩掛
1）労務歩掛
不陸整正工労務は第 34 表を標準とする。
第 34 表　路盤工の編成人員(普通作業員)
（表　略）

2）締固め機械運転時間
締固め機械の運転時間は第 35 表を標準とする。
第 35 表　機械の 100m2 当りの施工量(Q)
（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P157		

現行（平成 26 年度）

(3)補足材料の使用量
第 35 表　ロス率
（表　略）

(4)単価表
第 36 表

（1m^2・1層当り）

名　　称	規　　格	単　位	数　量	摘　　要
普通作業員		人		第33表
路盤材		m^3	100×厚さ(m)×(1＋ロス率)	第35表
タンパ運転	60～80kg	日		第34表
諸雑費		式	1	端数処理
計				100m^{2}当り
1 m^{2}当り				計/100m^2

第 37 表

（1m^2・1層当り）

名　　称	規　　格	単　位	数　量	摘　　要
普通作業員		人		第33表
路盤材		m^3	100×厚さ(m)×(1＋ロス率)	第35表
振動ローラ運転	排出ガス対策型 搭乗式 コンバインド型 3～4t	日		第34表
タンパ運転	60～80kg	日		第34表
諸雑費		式	1	端数処理
計				100m^{2}当り
1 m^{2}当り				計/100m^2

(5)機械運転表
第 38 表

機 械 名	規　　格	運転日当り運転時間	指定事項
振動ローラ	排出ガス対策型 搭乗式 コンバインド型 3～4t		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→ 15 機械損料数量　→　1.60
タンパ	60～80kg		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　4.5 機械損料数量　→　1.61

備考　運転日当り運転時間は、建設機械損料表による。

P158

第39表
（表　略）

改定（平成 27 年度）

(3)補足材料の使用量
第 36 表　ロス率
（表　略）

(4)単価表
第 37 表

（1m^2・1層当り）

名　　称	規　　格	単　位	数　量	摘　　要
普通作業員		人		第34表
補足材		m^3	100×厚さ(m)×(1＋ロス率)	第36表
タンパ運転	60～80kg	日		第35表
諸雑費		式	1	端数処理
計				100m^{2}当り
1 m^{2}当り				計/100m^2

第 38 表

（1m^2・1層当り）

名　　称	規　　格	単　位	数　量	摘　　要
普通作業員		人		第34表
補足材		m^3	100×厚さ(m)×(1＋ロス率)	第36表
振動ローラ運転	排出ガス対策型 搭乗式 コンバインド型 3～4t	日		第35表
タンパ運転	60～80kg	日		第35表
諸雑費		式	1	端数処理
計				100m^{2}当り
1 m^{2}当り				計/100m^2

(5)機械運転表
第 39 表

機 械 名	規　　格	適用単価表	指定事項
振動ローラ	排出ガス対策型 搭乗式 コンバインド型 3～4t	第32表	運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→ 15 機械賃料数量　→　1.52
タンパ	60～80kg	第18表	運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　4.5 機械賃料数量　→　1.61

備考　運転日当り運転時間は、建設機械損料表による。

第40表
（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P160	第40表	第41表

現行（平成 26 年度）

第40表

(100m³当り)

積込機械・規格	バックホウ　クローラ型　クレーン機能付　吊能力2.9t　排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)又は クローラ型　排出ガス対策型　(第1次基準値)山積0.45m³[平積0.35m³]										
運搬機種・規格	ダンプトラック　10t積										
DID区間 ： なし											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.5 以下
運搬日数(日)	1.2	1.4	1.5	1.6	1.8	1.9	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8
運搬距離 (km)	18.5 以下	34.5 以下	60.0 以下								
運搬日数(日)	4.7	6.3	9.4								
DID区間 ： あり											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.5 以下	8.5 以下	11.5 以下
運搬日数(日)	1.2	1.4	1.5	1.6	1.8	1.9	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8
運搬距離 (km)	16.5 以下	27.0 以下	60.0 以下								
運搬日数(日)	4.7	6.3	9.4								

(100m³当り)

積込機械・規格	バックホウ　クローラ型　クレーン機能付　吊能力2.9t　排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.8m³(平積0.6m³)又は クローラ型　排出ガス対策型　(第2次基準値)山積0.8m³[平積0.6m³]										
運搬機種・規格	ダンプトラック　10t積										
DID区間 ： なし											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	6.5 以下	8.0 以下
運搬日数(日)	0.90	1.1	1.3	1.4	1.6	1.7	1.8	1.9	2.1	2.4	2.7
運搬距離 (km)	10.5 以下	14.0 以下	20.5 以下	39.5 以下	60.0 以下						
運搬日数(日)	3.1	3.8	4.7	6.3	9.4						
DID区間 ： あり											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.5 以下
運搬日数(日)	0.90	1.1	1.2	1.3	1.5	1.6	1.7	1.9	2.1	2.4	2.7
運搬距離 (km)	9.5 以下	12.5 以下	17.5 以下	28.5 以下	60.0 以下						
運搬日数(日)	3.1	3.8	4.7	6.3	9.4						

改定（平成 27 年度）

第41表

(100m³当り)

積込機械・規格	バックホウ　クローラ型　クレーン機能付　吊能力2.9t　排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)又は クローラ型　排出ガス対策型　(第1次基準値)山積0.45m³[平積0.35m³]										
運搬機種・規格	ダンプトラック　10t積										
DID区間 ： なし											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.5 以下
運搬日数(日)	1.2	1.4	1.5	1.6	1.8	1.9	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8
運搬距離 (km)	18.5 以下	34.5 以下	60.0 以下								
運搬日数(日)	4.7	6.3	9.4								
DID区間 ： あり											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.5 以下	8.5 以下	11.5 以下
運搬日数(日)	1.2	1.4	1.5	1.6	1.8	1.9	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8
運搬距離 (km)	16.5 以下	27.0 以下	60.0 以下								
運搬日数(日)	4.7	6.3	9.4								

(100m³当り)

積込機械・規格	バックホウ　クローラ型　クレーン機能付　吊能力2.9t　排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.8m³(平積0.6m³)又は クローラ型　排出ガス対策型　(第2次基準値)山積0.8m³[平積0.6m³]										
運搬機種・規格	ダンプトラック　10t積										
DID区間 ： なし											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	6.5 以下	8.0 以下
運搬日数(日)	0.90	1.1	1.2	1.3	1.5	1.6	1.7	1.9	2.1	2.4	2.7
運搬距離 (km)	10.5 以下	14.0 以下	20.5 以下	39.5 以下	60.0 以下						
運搬日数(日)	3.1	3.8	4.7	6.3	9.4						
DID区間 ： あり											
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.5 以下
運搬日数(日)	0.90	1.1	1.3	1.4	1.6	1.7	1.8	1.9	2.1	2.4	2.7
運搬距離 (km)	9.5 以下	12.5 以下	17.5 以下	28.5 以下	60.0 以下						
運搬日数(日)	3.1	3.8	4.7	6.3	9.4						

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P161

(3)単価表
1)発生土処理
第 41 表
（表　略）

2)発生土運搬費
第 42 表
（表　略）

第 43 表
（表　略）

(4)機械運転表
第 44 表

機 械 名	規　　格	適用単価表	指定事項
ダンプトラック	10t積	第45表	運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　72 機械損料数量　→　1.22
	4t積		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　41 機械損料数量　→　1.22
	2t積		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　26 機械損料数量　→　1.22

備考　運転日当り運転時間は、建設機械損料表による。

第 45 表　ダンプトラック運転 1 日当り単価表
（表　略）

P162

第46表

処 理 対 象	As塊・Co塊（無筋）	Co塊（鉄筋）
補 正 係 数	＋0.30	＋0.37

第 47 表　機種の規格
（表　略）

2）労務歩掛
第 48 表　舗装工の編成人員
（表　略）

3）日当り施工量
第 49 表　日当り施工量
（表　略）

改定（平成 27 年度）

(3)単価表
1）発生土処理
第 42 表
（表　略）

2)発生土運搬費
第 43 表
（表　略）

第 44 表
（表　略）

(4)機械運転表
第 45 表

機 械 名	規　　格	適用単価表	指定事項
ダンプトラック	10t積	第46表	運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　72 機械損料数量　→　1.22
	4t積		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　41 機械損料数量　→　1.22
	2t積		運転労務数量　→　1.00 燃 料 消 費 量　→　26 機械損料数量　→　1.22

備考　運転日当り運転時間は、建設機械損料表による。

第 46 表　ダンプトラック運転 1 日当り単価表
（表　略）

第47表

処 理 対 象	As塊・Co塊（無筋）	Co塊（鉄筋）
補 正 係 数　(K)	＋0.30	＋0.37

備考 運搬日数(日) ＝ 発生土の運搬日数(日)×(1+K)　　K:補正係数

第 48 表　機種の規格
（表　略）

2）労務歩掛
第 49 表　舗装工の編成人員
（表　略）

3）日当り施工量
第 50 表　日当り施工量
（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P163	第 50 表　ロス率 （表　略） （注）1．ロス率は、材料ロスに対する材料補正である。 2．すりつけに使用する混合物は、ロス率に含まないので別途計上する。 第 51 表　アスファルト混合物締固め後密度 （表　略） （注）　密粒度アスファルト混合物及び細粒度アスファルト混合物にはそれぞれギャップアスファルト混合物を含む。 第 52 表　瀝青材の散布量 （表　略） （注）　上記の散布量には、材料ロス分を含む。 5）砂散布費 第 53 表　砂散布費率 （表　略） 第 54 表　諸雑費率 （表　略） （注）1．瀝青材料は、諸雑費率に含まないので別途計上する。 2．瀝青材料の散布を行わない場合は、（　）内の数値を使用する。	第 51 表　ロス率 （表　略） 備考 1．ロス率は、材料ロスに対する材料補正である。 2．すりつけに使用する混合物は、ロス率に含まないので別途計上する。 第 52 表　アスファルト混合物締固め後密度 （表　略） 備考　密粒度アスファルト混合物及び細粒度アスファルト混合物にはそれぞれギャップアスファルト混合物を含む。 第 53 表　瀝青材の散布量 （表　略） 備考　上記の散布量には、材料ロス分を含む。 5）砂散布費 第 54 表　砂散布費率 （表　略） 第 55 表　諸雑費率 （表　略） 備考 1．瀝青材料は、諸雑費率に含まないので別途計上する。 2．瀝青材料の散布を行わない場合は、（　）内の数値を使用する。
P164	第55表 （$1m^2$・1層当り） 名　称 ／ 規　格 ／ 単　位 ／ 数　量 ／ 摘　要 世話役 ／ ／ 人 ／ 第48表×100/D ／ 第48.49表 特殊作業員 ／ ／ 〃 ／ 〃 ×100/D ／ 〃 普通作業員 ／ ／ 〃 ／ 〃 ×100/D ／ 〃 アスファルト混合物 ／ ／ t ／ 100×厚さ(mm)/1,000×締固後密度（t/m^3）×(1＋ロス率) ／ 第50表 瀝青材料 ／ ／ ℓ ／ ／ 第52表（本舗装の場合等必要に応じて計上） 振動ローラ運転 ／ ハンドガイド式 0.5～0.6t ／ 日 ／ 第47表×100/D ／ 第47.49表 振動コンパクト運転 ／ 40～60kg ／ 〃 ／ 〃 ×100/D ／ 〃 砂散布費 ／ ／ 式 ／ 1 ／ 第53表（本舗装の場合等必要に応じて計上） 諸雑費 ／ ／ 〃 ／ 1 ／ 第54表 計 ／ ／ ／ ／ $100m^2$当り 1m^2当り ／ ／ ／ ／ 計/$100m^2$ （注）D：日当り施工量 第56表 機械名 ／ 規格 ／ 運転日当り運転時間 ／ 指定事項 振動ローラ ／ ハンドガイド式 0.5t～0.6t ／ ／ 運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 2 機械損料数量 → 1.23 振動コンパクト ／ 40～60kg ／ ／ 運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 3 機械損料数量 → 1.40	第56表 （$1m^2$・1層当り） 名　称 ／ 規　格 ／ 単　位 ／ 数　量 ／ 摘　要 世話役 ／ ／ 人 ／ 第49表×100/D ／ 第49表, 第50表 特殊作業員 ／ ／ 〃 ／ 〃 ×100/D ／ 〃 普通作業員 ／ ／ 〃 ／ 〃 ×100/D ／ 〃 アスファルト混合物 ／ ／ t ／ 100×厚さ(mm)/1,000×締固後密度（t/m^3）×(1＋ロス率) ／ 第51表 瀝青材料 ／ ／ ℓ ／ ／ 第53表（本舗装の場合等必要に応じて計上） 振動ローラ運転 ／ ハンドガイド式 0.5～0.6t ／ 日 ／ 第48表×100/D ／ 第48表, 第50表 振動コンパクタ運転 ／ 40～60kg ／ 〃 ／ 〃 ×100/D ／ 〃 砂散布費 ／ ／ 式 ／ 1 ／ 第54表（本舗装の場合等必要に応じて計上） 諸雑費 ／ ／ 〃 ／ 1 ／ 第55表 計 ／ ／ ／ ／ $100m^2$当り 1m^2当り ／ ／ ／ ／ 計/$100m^2$ 備考　D：日当り施工量 第57表 機械名 ／ 規格 ／ 運転日当り運転時間 ／ 指定事項 振動ローラ ／ ハンドガイド式 0.5t～0.6t ／ ／ 運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 2 機械損料数量 → 1.23 振動コンパクタ ／ 40～60kg ／ ／ 運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 3 機械損料数量 → 1.40

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P166		

現行（平成 26 年度）

1－3－1　適用

この積算資料は、小口径管推進工法により鉄筋コンクリート管等を推進埋設後、この管内に水道管を挿入する工事の積算に摘要する。

小口径管推進工事については、他の公共機関の歩掛を参考とする。

1－3－3　立坑の形状

立坑の標準寸法を次表に示す。

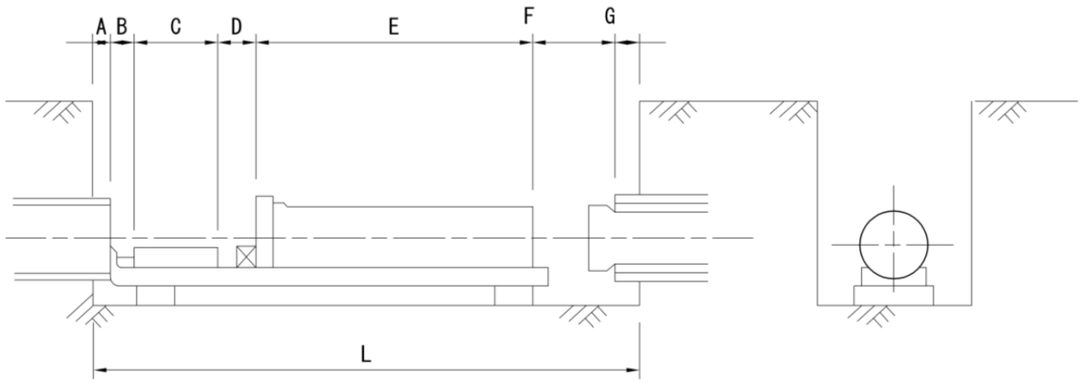
立坑標準寸法

（単位：m）

呼び径(mm)	発進立杭		到達立杭	
	長さ	幅	長さ	幅
250,300	7.0	2.4	2.4(2.6)	2.0
350～700	7.0	2.8	3.2(3.4)	

備考 1. ( )内は、到達坑口用止水器を設けた場合の寸法である。
2. 本表は推進に必要な最小寸法であり、施工の安全施設、マンホール築造等でこれを上回る場合は別途考慮する。

立坑の大きさ(単位:mm)



A　B　C　D　E　F　G

L ＝ 推進管 ＋ H形鋼 ＋ジャッキ長＋ H鋼管 ＋ 挿入管長 ＋ 接合調整 ＋ 推進既設管

＝ 500＋300＋930＋300＋4250＋220＋500＝7000

備考　4m以外の管を挿入する場合は、挿入管長(E)を勘案して決定すること。

改定（平成 27 年度）

1－3－1　適用

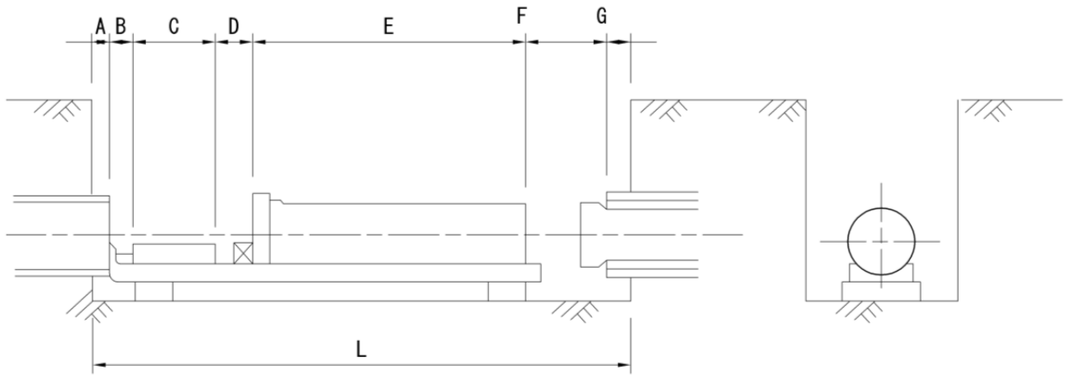
この積算資料は、~~小口径管~~推進工法により鉄筋コンクリート管等を推進埋設後、この管内に水道管を挿入する工事の積算に適用する。

~~小口径管~~推進工事については、他の公共機関の歩掛を参考とする。

1－3－3　立坑の形状

立坑の形状は、下図に示す項目を考慮し以下の式により決定する。なお、立坑形状は推進工法により異なるため、詳細な寸法等については他機関の基準等を参考に決定する。

立坑の大きさ(単位:mm)



A　B　C　D　E　F　G

L ＝ 推進管 ＋ H形鋼 ＋ジャッキ長＋ H鋼管 ＋ 挿入管長 ＋ 接合調整 ＋ 推進既設管

~~＝ 500＋300＋930＋300＋4250＋220＋500＝7000~~

~~備考　4m以外の管を挿入する場合は、挿入管長(E)を勘案して決定すること。~~

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版
頁番号

P167

現行（平成 26 年度）

1－3－4　管挿入歩掛表

1）推進管内鋳鉄管挿入所要時間

（表番号無し）

項目	管挿入工						備　　考
呼び径(mm)	管据付時間①	管継手時間②		管挿入時間③	管挿入工所要(計) ①＋②＋③		
	1本当り(4m) (時間)	普通継手(耐震) 1本当り　(4m) (時間)		1本当り(4m) (時間)	普通継手(耐震) 1本当り　(4m) (時間)		
φ 75	0.15	0.40	(0.52)	0.21	0.76	(0.88)	ストラット N=8個/4m ストラット取付時間 0.0167h/個(1分/個) ジャッキ操作時間 押し操作　9秒/回 引き操作　17秒/回 0.0072時間/個(26秒/回) 1本当り挿入時間(t) (t)＝8×(0.0167＋0.0072)×1/0.9＝0.21時間/本
φ100	0.15	0.40	(0.52)	0.21	0.76	(0.88)	
φ150	0.15	0.48	(0.62)	0.21	0.84	(0.98)	
φ200	0.15	0.56	(0.73)	0.21	0.92	(1.09)	
φ250	0.15	0.64	(0.83)	0.21	1.00	(1.19)	
φ300	0.15	0.72	(0.94)	0.21	1.08	(1.30)	
φ350	0.20	0.72	(0.94)	0.21	1.13	(1.35)	
φ400	0.20	0.80	(1.04)	0.21	1.21	(1.45)	
φ450	0.20	0.88	(1.14)	0.21	1.29	(1.55)	
φ500	0.20	0.96	(1.25)	0.21	1.37	(1.66)	
φ600	0.20	1.12	(1.46)	0.21	1.53	(1.87)	
φ700	0.20	1.28	(1.66)	0.21	1.69	(2.07)	

坑内における管据付・継手・挿入推進時間の算定
1m当りの管挿入所要時間＝(管据付時間①＋管接合時間②＋管挿入時間③)÷4m
1日当りの挿入延長＝8時間/日/1m当りの管挿入所要時間

2）鋳鉄管挿入工の職種別作業内容及び配置人員

（表番号無し）

工種	職種	作業内容	配置人員(人) φ75～φ700	摘要
管挿入工	運転手(特殊)	・管据付・ストラット入れ替えの為のクレーン操作 ・挿入のための油圧機器類の操作 ・電気機器の保守点検	1.00	
	とび工	・管、ストラットなどの吊り降ろしのためのワイヤーの玉掛作業	1.00	
	普通作業員	・運転手、とび工の手伝い ・管その他材料の小運搬 ・継手工の配管手伝い	1.00	

改定（平成 27 年度）

1－3－4　管挿入歩掛表

1）推進管内鋳鉄管挿入所要時間

第 1 表

項目	管挿入工						備　　考
呼び径(mm)	管据付時間①	管継手時間②		管挿入時間③	管挿入工所要(計) ①＋②＋③		
	1本当り(4m) (時間)	普通継手(耐震) 1本当り　(4m) (時間)		1本当り(4m) (時間)	普通継手(耐震) 1本当り　(4m) (時間)		
φ 75	0.15	0.40	(0.52)	0.21	0.76	(0.88)	ストラット N=8個/4m ストラット取付時間 0.0167h/個(1分/個) ジャッキ操作時間 押し操作　9秒/回 引き操作　17秒/回 0.0072時間/個(26秒/回) 1本当り挿入時間(t) (t)＝8×(0.0167＋0.0072)×1/0.9＝0.21時間/本
φ100	0.15	0.40	(0.52)	0.21	0.76	(0.88)	
φ150	0.15	0.48	(0.62)	0.21	0.84	(0.98)	
φ200	0.15	0.56	(0.73)	0.21	0.92	(1.09)	
φ250	0.15	0.64	(0.83)	0.21	1.00	(1.19)	
~~φ300~~	~~0.15~~	~~0.72~~	~~(0.94)~~	~~0.21~~	~~1.08~~	~~(1.30)~~	
~~φ350~~	~~0.20~~	~~0.72~~	~~(0.94)~~	~~0.21~~	~~1.13~~	~~(1.35)~~	
~~φ400~~	~~0.20~~	~~0.80~~	~~(1.04)~~	~~0.21~~	~~1.21~~	~~(1.45)~~	
~~φ450~~	~~0.20~~	~~0.88~~	~~(1.14)~~	~~0.21~~	~~1.29~~	~~(1.55)~~	
~~φ500~~	~~0.20~~	~~0.96~~	~~(1.25)~~	~~0.21~~	~~1.37~~	~~(1.66)~~	
~~φ600~~	~~0.20~~	~~1.12~~	~~(1.46)~~	~~0.21~~	~~1.53~~	~~(1.87)~~	
~~φ700~~	~~0.20~~	~~1.28~~	~~(1.66)~~	~~0.21~~	~~1.69~~	~~(2.07)~~	

備考　坑内における管据付・継手・挿入推進時間の算定
1m当りの管挿入所要時間＝(管据付時間①＋管~~接合~~継手時間②＋管挿入時間③)÷4m
1日当りの挿入延長＝8時間/日/1m当りの管挿入所要時間
呼び径φ300mm以上については、
「第一編　請負工事標準歩掛　　第5章　その他歩掛　　第3節　既設管内配管工　　5-3-4配管歩掛表」による。

2）鋳鉄管挿入工の職種別作業内容及び配置人員

第 2 表

工種	職種	作業内容	配置人員(人) φ75～φ~~700~~ 250	摘要
管挿入工	運転手(特殊)	・管据付・ストラット入れ替えの為のクレーン操作 ・挿入のための油圧機器類の操作 ・電気機器の保守点検	1.00	
	とび工	・管、ストラットなどの吊り降ろしのためのワイヤーの玉掛作業	1.00	
	普通作業員	・運転手、とび工の手伝い ・管その他材料の小運搬 ~~・継手工の配管手伝い~~	1.00	

備考　呼び径φ300mm以上については、
「第一編　請負工事標準歩掛　　第5章　その他歩掛　　第3節　既設管内配管工　　5-3-4配管歩掛表」による。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P168

現行（平成 26 年度）

推進工及び水道管挿入工の積算例

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
推進用鉄筋コンクリート管	呼径　mm	本		
推進工	呼径　mm	m		他の公共機関の歩掛参照
管布設工	呼径　mm	m		他の公共機関の歩掛参照
注入工	滑材	m		他の公共機関の歩掛参照
仮設備工	呼径　mm用	式	1	他の公共機関の歩掛参照
立坑工		箇所		他の公共機関の歩掛参照
水道管挿入工	呼径　mm用	m		A-1号水道管挿入工参照
水道管継手工	径　mm 型	箇所		A-3号継手工参照
中詰工	エアーモルタル	式	1	A-2号中詰工参照
水替工		式	1	必要に応じて計上
計				

備考　1.管挿入工は、挿入する管の延長を計上する。

A－1　水道管挿入工
（表番号無し）

（1m当り）

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
特殊運転手		人	1.0	
とび工		人	1.0	
普通作業員		人	1.0	
トラッククレーン賃料		日	1.0	
機械器具損料		式	1	
諸雑費		式	1	
計				1日当り
1m当り				計/1日当り挿入延長

備考 1. 挿入工に使用する機械器具の損料は、建設機械等損料算定表によるほか、見積り等によるものとする。
機械器具損料(先導そり、ジャッキ台、ストラット、押輪、ジャッキ、分流器、油圧ポンプ油圧ホース、作動油)
先導そりの1m当りは損料率は、0.0018を計上する。(制作費×0.9×1/500)
先導そりの取付数　φ600mm以下4個
φ700mm8個
2. 諸雑費は、電力料、反力板、検測器等の費用で労務費とトラッククレーン賃料の合計額の3%を計上する。

改定（平成 27 年度）

第３表　推進工及び水道管挿入工の積算例

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
推進用鉄筋コンクリート管	呼び径　mm	本		
推進工	呼び径　mm	m		他の公共機関の歩掛参照
管布設工	呼び径　mm	m		他の公共機関の歩掛参照
注入工	滑材	m		他の公共機関の歩掛参照
仮設備工	呼び径　mm用	式	1	他の公共機関の歩掛参照
立坑工		箇所		他の公共機関の歩掛参照
水道管挿入工	呼び径　mm用	m		A-1号水道管挿入工参照
水道管継手工	径　mm 型	箇所		A-3号継手工参照
充填工	エアーモルタル	式	1	A-2号充填工参照
水道管挿入設備工		式	1	A-4号挿入設備工参照
水替工		式	1	必要に応じて計上
計				

備考　~~1.~~管挿入工は、挿入する管の延長を計上する。

A－1　水道管挿入工
第４表
対象呼び径：φ75mm～250mm

（1m当り）

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
特殊運転手		人	1.0	
とび工		人	1.0	
普通作業員		人	1.0	
トラッククレーン賃料		日	1.0	
機械器具損料		式	1	
諸雑費		式	1	労務費とトラッククレーン賃料の３％
計				1日当り
1m当り				計/1日当り挿入延長

備考 1. 挿入工に使用する機械器具の損料は、建設機械等損料算定表によるほか、見積り等によるものとする。
機械器具損料(先導そり、ジャッキ台、ストラット、押輪、ジャッキ、分流器、油圧ポンプ、油圧ホース、作動油)
先導そりの1m当り~~は~~損料率は、工事ごとに全損とする。
先導そりの取付数　φ250mm以下4個
~~φ700mm8個~~
2. 諸雑費は、電力料、反力板、検測器等の費用で労務費とトラッククレーン賃料の合計額の3%を計上する。
3. 呼び径φ300mm以上については、
「第一編　請負工事標準歩掛　　第5章　その他歩掛　　第3節　既設管内配管工　　5-3-4配管歩掛表」による。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P169		

現行（平成 26 年度）

1－3－5　充填歩掛表

A－2　充填工

（表番号無し）

(1式)

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
充　填　工		m^3		A-2-4、A-2-5
仮 締 切 工		m^2(式)		必要量を計上
計				

備考 1. 充填工は、各種工法における、さや管と新設水道管及び廃止管等の空隙量を計上する。
2. 仮締切工は、コンクリート充填以外の充填法において、注入ブロックを設置するための仮締切（土のう等）について、必要量を計上する。

A－2－1　工事別充填適用区分

		エアモルタル	エアミルク	流動化充填材	コンクリート
シールド工事（二次覆工）		◎	○	△	△
推進及び小口径推進工事	推進延長50m以下	○	◎	△	△
	推進延長50m以上	△	○	◎	—
既設管内配管（PIP）工事	鋼管	○	◎	△	—
	ダクタイル鋳鉄管(50m以下)	△	◎	○	—
	ダクタイル鋳鉄管(50m以上)	△	○	◎	—
管閉塞		△	○	—	◎

A－2－2　発泡系充填材標準打設量

（表　略）

A－2－3　機械損料（機械の組み合わせ）

（表　略）

改定（平成 27 年度）

1－3－5　充填歩掛表

A－2　充填工

第 5 表

(1式)

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
充　填　工		m^3		第9表、第10表
仮 締 切 工		m^2(式)		必要量を計上
計				

備考 1. 充填工は、各種工法における、さや管と新設水道管及び廃止管等の空隙量を計上する。
2. 仮締切工は、コンクリート充填以外の充填法において、注入ブロックを設置するための仮締切（土のう等）について、必要量を計上する。

第 6 表　工事別充填適用区分

		エアモルタル	エアミルク	流動化充填材	コンクリート
シールド工事（二次覆工）		◎	○	△	△
推進及び小口径推進工事	推進延長50m以下	○	◎	△	△
	推進延長50m以上	△	○	◎	—
既設管内配管（PIP）工事	鋼管	○	◎	△	—
	ダクタイル鋳鉄管(50m以下)	△	◎	○	—
	ダクタイル鋳鉄管(50m以上)	△	○	◎	—
管閉塞		△	○	—	◎

第7表　発泡系充填材標準打設量

（表　略）

第8表　機械損料（機械の組み合わせ）

（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P170		

現行（平成 26 年度）

A－2－4　充填工

（1m³当り）

種　別	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
一　般　世　話　役		人	1.0	
特　殊　作　業　員		人	2.0	
普　通　作　業　員		人	2.0	
充　填　材　料　費	A-2-2	m^3		発注者の仕様による
グラウトポンプ損料	A-2-3	日	1	
グラウトミキサ損料	A-2-3	日	1	
諸　　雑　　費		式	1	
計				1日当り
1m³当り				計÷(A-2-2)

備考 1. 諸雑費は、空気圧縮機、水中ポンプ等の付属機器類の損料及び電力に関する費用であり、グラウトポンプ損料及び、グラウトミキサー損料の合計に16%の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 充填材料費については、発注者が指定する仕様に随い、必要量(日当りの標準打設量)を計上する。

A－2－5　コンクリート充填工

（1式）

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
コンクリート充填	無筋コンクリート	m^3		現場状況により、手練り、ポンプ、打設を選択し計上
型枠工（残置）		m^2		A-2-6
計				

A－2－6　型枠工（残置）

（1m²当り）

名　称	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
一　般　世　話　役		人	0.1	
特　殊　作　業　員		人	0.3	
普　通　作　業　員		人	0.2	
諸　　雑　　費		式	1	
型　枠　材　料　費	(発泡スチロール、合板)	m^2	10	
計				
1m²当り				計÷10

備考　1. 諸雑費は、接着剤等残置型枠設置に必要な諸雑費であり、労務費の合計に8%の率を乗じた金額を上限として計上する。

改定（平成 27 年度）

第9表　充填工

（1m³当り）

種　別	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
世　　話　　役		人	1.0	
特　殊　作　業　員		人	2.0	
普　通　作　業　員		人	2.0	
充　填　材　料　費	第7表	m^3		発注者の仕様による
グラウトポンプ損料	第8表	日	1	
グラウトミキサ損料	第8表	日	1	
諸　　雑　　費		式	1	機械損料の16%
計				1日当り
1m³当り				計÷(第7表)

備考 1. 諸雑費は、空気圧縮機、水中ポンプ等の付属機器類の損料及び電力に関する費用であり、グラウトポンプ損料及び、グラウトミキサー損料の合計に16%の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 充填材料費については、発注者が指定する仕様に従い、必要量(日当りの標準打設量)を計上する。

第10表　コンクリート充填工

（1式）

種　目	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
コンクリート充填	無筋コンクリート	m^3		現場状況により、手練り、ポンプ、打設を選択し計上
型枠工（残置）		m^2		第11表
計				

第11表　型枠工（残置）

（1m²当り）

名　称	形状寸法	単　位	数　量	摘　要
世　　話　　役		人	0.1	
特　殊　作　業　員		人	0.3	
普　通　作　業　員		人	0.2	
諸　　雑　　費		式	1	労務費の8%
型　枠　材　料　費	(発泡スチロール、合板)	m^2	10	
計				
1m²当り				計÷10m²

備考 ~~1.~~ 諸雑費は、接着剤等残置型枠設置に必要な諸雑費であり、労務費の合計に8%の率を乗じた金額を上限として計上する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P171	1－3－6　水道管継手歩掛表 A－3－1　継手工(NS 形を除く) （1箇所当り）	1－3－6　水道管継手歩掛表 A－3　継手工 積算は、挿入する水道管の継手形状に応じて、別途当該継手接合歩掛表を参照すること。 項目削除、表削除

現行（平成 26 年度）

呼び径 (mm)	配管工 （人）	普通作業員 （人）	諸雑費	モルタル充填工			備　考
				配管工 （人）	普通作業員 （人）	モルタル量 (m^3)	
75以下	0.05	—	労務費の1%	—	—	—	
100	0.05	—	〃	—	—	—	
150	0.06	—	〃	—	—	—	
200	0.07	—	〃	—	—	—	
250	0.08	—	〃	—	—	—	
300	0.09	—	〃	—	—	—	
350	0.09	—	〃	—	—	—	
400	0.10	—	〃	—	—	—	
450	0.11	—	〃	—	—	—	
500	0.12	—	〃	—	—	—	
600	0.14	—	〃	—	—	—	
700	0.16	—	〃	0.20	0.07	0.0074	

備考１．上表中、モルタル充填工はＵ形、UF 形及び US 形継手の場合のみ加算する。
２．モルタル配合は１：１を標準とする。
３．離脱防止継手（S 形、SⅡ形、UF 形、KF 形、US 形等）及びＵ形の場合は 30%を上限として割増することができる。
４．継手作業時の配管工の手伝いである普通作業員は、1－3－4 の 2)「鋳鉄管挿入工の職種別作業内容及び配置人員」の普通作業員が行うものとし、ここでは計上しない。

A－3－2　継手工(NS 形)
（1箇所当り）

呼び径 (mm)	配管工 （人）	普通作業員 （人）	諸雑費
75	0.05	—	労務費の1%
100	0.05	—	〃
150	0.05	—	〃
200	0.06	—	〃
250	0.07	—	〃

備考１．継手作業時の配管工の手伝いである普通作業員は、1－3－4 の 2)「鋳鉄管挿入工の職種別作業内容及び配置人員」の普通作業員が行うものとし、ここでは計上しない。

改定（平成 27 年度）

項目削除、表削除

1-3-7　水道管挿入設備歩掛表
A－4　挿入設備工
積算は、「第一編　請負工事標準歩掛　　第５章　その他歩掛　　第３節　既設管内配管工　　5-3-4 配管歩掛表」による。
なお、呼び径φ75～250mm については、さや管施工時の挿入設備にて行うものとし、挿入設備費を計上しない。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版
頁番号

P172

現行（平成 26 年度）

1－4－2　サドル分水栓建込み歩掛表

第 1 表

（1箇所当り）

配水管		13		20		25		30		40		50	
管種	呼び径(mm)	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員
鋳鉄管	75	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12
	100												
	150												
	200	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.13	0.13
	250												
	300	0.09	0.09	0.10	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12	0.13	0.13	0.14	0.14
	350												
	400												
ビニル管	40	0.05	0.05	0.06	0.06	0.07	0.07	—	—	—	—	—	—
	50												
	75	0.06	0.06	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10	0.11	0.11
	100												
	125	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10	0.11	0.11	0.12	0.12
	150												
	200												
ポリエチレン管	50	—	—	0.05	0.05	0.06	0.06	—	—	—	—	—	—
	75	—	—	0.06	0.06	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10
	100	—	—	0.06	0.06	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10
	150	—	—	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.10	0.11	0.11
	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 1. 本表は給水管接合工を含む。
2. ポリエチレン管とは、水道配水用ポリエチレン管である。

1－4－3　止水栓取付け歩掛表

第 2 表

（表　略）

改定（平成 27 年度）

1－4－2　サドル分水栓建込み歩掛表

第 1 表

（1箇所当り）

配水管		13			20			25			30			40			50		
管種	呼び径(mm)	配管工	普通作業員	諸雑費	配管工	普通作業員	諸雑費	配管工	普通作業員	諸雑費	配管工	普通作業員	諸雑費	配管工	普通作業員	諸雑費	配管工	普通作業員	諸雑費
鋳鉄管	50	0.06	0.06	労務費の12%	0.07	0.07	労務費の12%	0.08	0.08	労務費の12%	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	75	0.07	0.07		0.08	0.08		0.09	0.09		0.10	0.10	労務費の13%	0.11	0.11	労務費の13%	0.12	0.12	労務費の13%
	100																		
	150																		
	200	0.08	0.08		0.09	0.09		0.10	0.10		0.11	0.11		0.12	0.12		0.13	0.13	
	250																		
	300	0.09	0.09		0.10	0.10		0.11	0.11		0.12	0.12		0.13	0.13		0.14	0.14	
	350																		
	400																		
ビニル管	40	0.05	0.05	労務費の1%	0.06	0.06	労務費の1%	0.07	0.07	労務費の1%	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	50																		
	75	0.06	0.06		0.07	0.07		0.08	0.08		0.09	0.09	労務費の1%	0.10	0.10	労務費の1%	0.11	0.11	労務費の1%
	100																		
	125	0.07	0.07		0.08	0.08		0.09	0.09		0.10	0.10		0.11	0.11		0.12	0.12	
	150																		
	200																		
ポリエチレン管	50	—	—	—	0.05	0.05	労務費の1%	0.06	0.06	労務費の1%	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	75				0.06	0.06		0.07	0.07		0.08	0.08	労務費の1%	0.09	0.09	労務費の1%	0.10	0.10	労務費の1%
	100																		
	150				0.07	0.07		0.08	0.08		0.09	0.09		0.10	0.10		0.11	0.11	
	200				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 1. 本表は給水管接合工を含む。
2. ポリエチレン管とは、水道配水用ポリエチレン管である。
3. 鋳鉄管の諸雑費には、電動式穿孔機を使用する場合に適用し、燃料、機械器具損料及び損耗費等を含む。
4. ビニル管及びポリエチレン管の諸雑費には、工具損料及び損耗費等を含む。

1－4－3　コア取付工歩掛表

第 2 表

（1箇所当り）

呼び径(mm)	労務費		諸雑費
	配管工	普通作業員	
13	0.03	0.03	労務費の1%
20			
25			
30			
40			
50			

備考 1. 本表は配水管が鋳鉄管の場合で、サドル分水栓建込み後のコア挿入・取付歩掛である。
2. 諸雑費には、工具損料及び損耗費等を含む。

1－4－4　止水栓取付け歩掛表

第 3 表

（表　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P173

現行（平成 26 年度）

1－4－4　鋼管切断ネジ切り歩掛表

第 3 表

（1箇所当り）

呼び径 (mm)	労務費		諸雑費	適用
	配管工	普通作業員		
13	0.04	0.03	労務費の3%	ネジ切りは、オースター使用による。
20	0.04	0.03		
25	0.05	0.04		
32	0.05	0.05		
40	0.06	0.05		
50	0.07	0.06		

備考　本表は、鋼管切断、ネジ切り仕上げ及び機械損料を含む。

1－4－5　不凍水栓取付け歩掛表(VP 用)

第 4 表

（1箇所当り）

呼び径 (mm)	地下式		地上式		適用
	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員	
13	0.06	0.04	0.11	0.06	寒冷地における給水栓及び立上り管の凍結防止を目的とする。
20	0.08	0.04	0.13	0.07	
25	0.10	0.06	0.17	0.09	
30	0.12	0.06	0.17	0.09	
40	0.13	0.08	0.21	0.11	
50	0.16	0.08	0.21	0.11	

1－4－6　量水器取付け歩掛表

第 5 表

（1箇所当り）

呼び径 (mm)	労務費			適用
	特殊作業員	配管工	普通作業員	
13	(0.10)	0.13	0.07	
20		0.15	0.08	
25		0.19	0.11	
30		0.24	0.14	
40		0.28	0.17	
50		0.30	0.20	

備考 1. 本表は、メータ据付け、接続(ネジ)、量水器筐取付けを含む。
2. 本表は、フランジ接合は含まない。
3. 遠隔式、電磁流量計、ベンチュリー式タービンメータ、コンパウンド型及び副管付き等特殊メータについては( )の特殊作業員を計上する。
4. 遠隔式及び電磁流量計等の指示計、記録計、積算計等の据付調整作業は、別途計上する。
5. 筐のみの取付け歩掛は、配管工は0.02人、普通作業員は本表の普通作業員×50%とする。なお、小数第3位を四捨五入する。
6. 量水器のみの取付け歩掛は、本表の歩掛から上記5で算出した筐のみの取付け歩掛を差し引いたものとする。

改定（平成 27 年度）

1－4－5　鋼管切断ネジ切り歩掛表

第 4 表

（1箇所当り）

呼び径 (mm)	労務費		諸雑費	適用
	配管工	普通作業員		
13	0.04	0.03	労務費の3%	ネジ切りは、オースター使用による。
20	0.04	0.03		
25	0.05	0.04		
32	0.05	0.05		
40	0.06	0.05		
50	0.07	0.06		

備考　本表は、鋼管切断、ネジ切り仕上げ及び機械損料を含む。

1－4－6　不凍水栓取付け歩掛表(VP 用)

第 5 表

（1箇所当り）

呼び径 (mm)	地下式		地上式		適用
	配管工	普通作業員	配管工	普通作業員	
13	0.06	0.04	0.11	0.06	寒冷地における給水栓及び立上り管の凍結防止を目的とする。
20	0.08	0.04	0.13	0.07	
25	0.10	0.06	0.17	0.09	
30	0.12	0.06	0.17	0.09	
40	0.13	0.08	0.21	0.11	
50	0.16	0.08	0.21	0.11	

1－4－7　量水器取付け(ねじ込み接合)歩掛表

第 6 表

（1箇所当り）

呼び径 (mm)	労務費			適用
	特殊作業員	配管工	普通作業員	
13	(0.10)	0.13	0.07	
20		0.15	0.08	
25		0.19	0.11	
30		0.24	0.14	
40		0.28	0.17	
50		0.30	0.20	

備考 1. 本表は、メータ据付け、接続(ネジ)、量水器筐取付けを含む。
~~2. 本表は、フランジ接合は含まない。~~
2. 遠隔式、電磁流量計、ベンチュリー式タービンメータ、コンパウンド型及び副管付き等特殊メータについては( )の特殊作業員をあわせて計上する。
3. 遠隔式及び電磁流量計等の指示計、記録計、積算計等の据付調整作業は、別途計上する。
4. 筐のみの取付け歩掛は、配管工は0.02人、普通作業員は本表の普通作業員×50%とする。なお、小数第3位を四捨五入する。
5. 量水器のみの取付け歩掛は、本表の歩掛から上記4で算出した筐のみの取付け歩掛を差し引いたものとする。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

<table>
<tr><th>26 年度版
頁番号</th><th>現行（平成 26 年度）</th><th>改定（平成 27 年度）</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td>1－4－8　量水器取付け（フランジ接合）歩掛表
第 7 表
（1箇所当り）
<table>
<tr><th rowspan="2">呼び径
(mm)</th><th colspan="3">労　務　費</th><th rowspan="2">適　　用</th></tr>
<tr><th>特殊作業員</th><th>配管工</th><th>普通作業員</th></tr>
<tr><td>50</td><td rowspan="2">(0.10)</td><td>0.05</td><td>0.19</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>75</td><td>0.07</td><td>0.23</td></tr>
</table>
備考 1. 本表は、メータ据付けに適用する。
2. 本表にはフランジ接合が含まれていないため、「第1編第2章第3節2-3-5フランジ継手歩掛表」を参照し、1箇所当り2口計上すること。
3. 本表は、縦型軸流羽根車式水道メータ、電磁式水道メータに適用する。
4. 遠隔式、電磁流量計については（　）の特殊作業員をあわせて計上する。
5. 遠隔式、電磁流量計の指示計、記録計、積算計等の据付調整作業は、別途計上する。
6. 量水器筐の取付けについては、別途計上する。</td></tr>
<tr><td>P174</td><td>1－4－7　その他

(2)人工数の算出方法
機器等の据付人工数は、表－1 により機器等の分類を行い、表－2 によりその分類に該当する歩掛を用いて算出する。

表－1　機器等据付歩掛分類表
（表　略）</td><td>1－4－9　その他

(2)人工数の算出方法
機器等の据付人工数は、第 1 表により機器等の分類を行い、第 2 表によりその分類に該当する歩掛を用いて算出する。

第 1 表　機器等据付歩掛分類表
（表　略）</td></tr>
<tr><td>P175</td><td>表－2　類別歩掛表
（表　略）</td><td>第 2 表　類別歩掛表
（表　略）</td></tr>
<tr><td>P176</td><td>備考　1～4.（略）
5.（3）による職種の振分け例
［例 1］1000mm、10(t)の立軸斜流ポンプを据付ける場合、表－2 の第 1 類より
（数式　略）
［例 2］800 幅の鋼製階段 1.3(t)を据付ける場合、表－2 の第 7 類より
（数式　略）

1－5－2　現場溶接歩掛表
(1)鋼材溶接
（表番号なし）
（表　略）</td><td>備考　1～4.（略）
5.（3）による職種の振分け例
［例 1］1000mm、10(t)の立軸斜流ポンプを据付ける場合、第 2 表の第 1 類より
（数式　略）
［例 2］800 幅の鋼製階段 1.3(t)を据付ける場合、第 2 表の第 7 類より
（数式　略）

1－5－2　現場溶接歩掛表
(1)鋼材溶接
第 3 表
（表　略）</td></tr>
</table>

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

P177

第２章　建設機械損料算定表

機械名	規格 諸元	規格 機関出力	規格 機械重量	(1) 基礎価格	(2) 耐用年数	年間標準 (3) 運転時間	年間標準 (4) 運転日数	年間標準 (5) 供用日数	(6) 維持修理費率	(7) 年間管理費率	運転1日当り (8) 損料率	運転1日当り (9) 損料額	供用1日当り (10) 損料率	供用1日当り (11) 損料額	参考 運転1日当り換算値 (12) 損料率	参考 運転1日当り換算値 (13) 損料額	参考
		ps	kg	千円	年	時間	日	日	%	%	×10⁻⁶	円	×10⁻⁶	円	×10⁻⁶	円	
鋳鉄管切断機 溝切り加工機	450㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
	500㎜以上 ～ 1350㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		
	1500㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		
	※ 1000㎜以下				4		90	150	85	5	3,611		1,083		5,417		
鋳鉄管切断機 溝切り加工機 （タッピンねじ用）	450㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
エンジンカッター （レジノイド砥石）	プレート径 305㎜程度 排気量 70cc程度				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
	※				4		90	150	85	5	3,611		1,083		5,417		
エンジンカッター （ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞﾌﾟﾚｰﾄﾞ）	プレート径 305㎜程度 排気量 70cc程度				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
	※				4		90	150	85	5	3,611		1,083		5,417		
不断水穿孔機	200㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
ロッグリング 挿入機 （PN形用）	300㎜以上 ～ 1350㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。

※ 既設管撤去工において使用するものとする。

P178

3－1－1　使用材料

仮設配管工事で使用する配管材料については、水道施設の技術的基準を定める省令（平成 12 年 2 月 23 日厚生労働省令第 15 号、以下施設基準という。）の第 1 条第 17 項イ、ロ及びハの要件を備えるものを使用する。

（以下　略）

改定（平成 27 年度）

第２章　建設機械損料算定表

機械名	規格 諸元	規格 機関出力	規格 機械重量	(1) 基礎価格	(2) 耐用年数	年間標準 (3) 運転時間	年間標準 (4) 運転日数	年間標準 (5) 供用日数	(6) 維持修理費率	(7) 年間管理費率	運転1日当り (8) 損料率	運転1日当り (9) 損料額	供用1日当り (10) 損料率	供用1日当り (11) 損料額	参考 運転1日当り換算値 (12) 損料率	参考 運転1日当り換算値 (13) 損料額	参考
		ps	kg	千円	年	時間	日	日	%	%	×10⁻⁶	円	×10⁻⁶	円	×10⁻⁶	円	
鋳鉄管切断機 溝切り加工機	450㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
	500㎜以上 ～ 1350㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		
	1500㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		
	※ 1000㎜以下				4		90	150	85	5	3,611		1,083		5,417		
鋳鉄管切断機 溝切り加工機 （タッピンねじ用）	450㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
エンジンカッター （レジノイド砥石）	ブレード径 305㎜程度 排気量 70cc程度				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
	※				4		90	150	85	5	3,611		1,083		5,417		
エンジンカッター （ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞﾌﾟﾚｰﾄﾞ）	ブレード径 305㎜程度 排気量 70cc程度				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
	※				4		90	150	85	5	3,611		1,083		5,417		
不断水穿孔機	200㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。
ロックリング 挿入機 （PN形用）	300㎜以上 ～ 1350㎜以下				7		100	150	45	5	1,286		762		2,429		基礎価格は実勢価格による。

※ 既設管撤去工において使用するものとする。

3－1－1　使用材料

仮設配管工事で使用する配管材料については、水道施設の技術的基準を定める省令（平成 12 年 2 月 23 日厚生~~労働~~省令第 15 号、以下施設基準という。）の第 1 条第 17 項イ、ロ及びハの要件を備えるものを使用する。

（以下　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P180

1－1－5　標準歩掛に含まれないもの

①～④　（略）

⑤標準歩掛の「注」に記載されている別途に積算する事項

⑥　（略）

P185

2－1－1　基本歩掛

2－1－1－1　小口径（呼び径 350mm 以下）

(1)新設詳細設計

第 1 表

（1km当り）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計協議	（第2表により別途積算計上）				
現地調査	0.6	1.6	2.7	2.7	2.6
設計計画	（備考2．備考8．②から必要により第3表の歩掛を計上）				
各種計算	（備考3．〃		〃		）
図面作成	0.6	1.3	2.6	2.6	2.1
数量計算	0.7	1.5	2.9	2.8	2.6
審査	0.4	0.9	1.3	1.2	
計（参考）	2.3	5.3	9.5	9.3	7.3

（備考　略）

第 2 表　設計協議基本歩掛

（表　略）

注 中間打合せの回数は、設計業務の主要な区切りにおいて決定する。

P186

第 3 表

（1km当り）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計計画	0.5	1.1	2.1	2.0	
各種計算	0.5	1.0	2.2	2.2	1.8
計（参考）	1.0	2.1	4.3	4.2	1.8

(2)新設簡易設計

第 4 表

（1km当り）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計協議	（第2表により別途積算計上）				
現地調査	0.4	0.9	1.7	1.7	1.5
設計計画	（備考3．備考9．②から必要により第5表の歩掛を計上）				
各種計算	（備考4．〃		〃		）
図面作成	0.4	0.8	1.7	1.7	1.4
数量計算	0.5	0.9	1.9	1.8	1.6
審査	0.3	0.4	0.7	0.7	
計（参考）	1.6	3.0	6.0	5.9	4.5

（備考　略）

第 5 表

（1km当り）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計計画	0.3	0.7	1.3	1.3	
各種計算	0.3	0.5	1.4	1.4	0.9
計（参考）	0.6	1.2	2.7	2.7	0.9

改定（平成 27 年度）

1－1－5　標準歩掛に含まれないもの

①～④　（略）

⑤標準歩掛の「備考」に記載されている別途に積算する事項

⑥　（略）

2－1－1　基本歩掛

2－1－1－1　小口径（呼び径 350mm 以下）

(1)新設詳細設計

第 1 表

（1km当り標準歩掛）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計協議	（第2表により別途積算計上）				
現地調査	0.6	1.6	2.7	2.7	2.6
設計計画	（備考2．備考8．②から必要により第3表の歩掛を計上）				
各種計算	（備考3．〃		〃		）
図面作成	0.6	1.3	2.6	2.6	2.1
数量計算	0.7	1.5	2.9	2.8	2.6
審査	0.4	0.9	1.3	1.2	
計（参考）	2.3	5.3	9.5	9.3	7.3

（備考　略）

第 2 表　設計協議基本歩掛

（表　略）

備考 中間打合せの回数は、設計業務の主要な区切りにおいて決定する。

第 3 表

（1km当り標準歩掛）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計計画	0.5	1.1	2.1	2.0	
各種計算	0.5	1.0	2.2	2.2	1.8
計（参考）	1.0	2.1	4.3	4.2	1.8

(2)新設簡易設計

第 4 表

（1km当り標準歩掛）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計協議	（第2表により別途積算計上）				
現地調査	0.4	0.9	1.7	1.7	1.5
設計計画	（備考3．備考9．②から必要により第5表の歩掛を計上）				
各種計算	（備考4．〃		〃		）
図面作成	0.4	0.8	1.7	1.7	1.4
数量計算	0.5	0.9	1.9	1.8	1.6
審査	0.3	0.4	0.7	0.7	
計（参考）	1.6	3.0	6.0	5.9	4.5

（備考　略）

第 5 表

（1km当り標準歩掛）

作業内容＼職種	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設計計画	0.3	0.7	1.3	1.3	
各種計算	0.3	0.5	1.4	1.4	0.9
計（参考）	0.6	1.2	2.7	2.7	0.9

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

(3)布設替詳細設計

第 6 表

（1km当り）

職種 / 作業内容	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(第2表により別途積算計上)				
現　地　調　査	0.8	1.8	3.4	3.3	3.2
設　計　計　画	(備考1.から必要により第7表の歩掛を計上)				
各　種　計　算	(　　〃　　〃　　)				
図　面　作　成	0.7	1.5	3.3	3.3	2.7
数　量　計　算	0.7	1.9	3.6	3.6	3.4
審　　査	0.5	1.1	1.5	1.4	
計（参考）	2.7	6.3	11.8	11.6	9.3

（備考　略）

P187

第 7 表

（1km当り）

職種 / 作業内容	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　計　画	0.6	1.5	2.5	2.5	
各　種　計　算	0.8	1.4	2.7	2.7	2.4
計（参考）	1.4	2.9	5.2	5.2	2.4

2－1－1－2　大口径〈呼び径 400mm 以上〉

(1)新設詳細設計

第 8 表

（1km当り）

職種 / 作業内容	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	0.5	1.3	2.6	4.0	4.0	3.3
設　計　計　画	0.3	0.9	1.8	2.6	2.6	
各　種　計　算		0.9	1.9	2.8	2.7	2.2
図　面　作　成		1.1	2.2	3.3	3.3	2.8
数　量　計　算		1.3	2.6	3.9	3.9	3.1
審　　査	0.2	0.7	1.2	2.0	2.0	
計（参考）	1.0	6.2	12.3	18.6	18.5	11.4

（備考　略）

(2) 布設替詳細設計

第 9 表

（1km当り）

職種 / 作業内容	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	0.6	1.6	3.2	4.8	4.8	4.1
設　計　計　画	0.3	1.2	2.3	3.2	3.2	
各　種　計　算		1.2	2.5	3.5	3.5	2.9
図　面　作　成		1.4	2.8	4.2	4.2	3.6
数　量　計　算		1.6	3.3	4.9	4.8	3.9
審　　査	0.3	0.7	1.5	2.3	2.3	
計（参考）	1.2	7.7	15.6	22.9	22.8	14.5

（備考　略）

改定（平成 27 年度）

(3)布設替詳細設計

第 6 表

（1km当り標準歩掛）

職種 / 作業内容	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(第2表により別途積算計上)				
現　地　調　査	0.8	1.8	3.4	3.3	3.2
設　計　計　画	(備考1.から必要により第7表の歩掛を計上)				
各　種　計　算	(　　〃　　〃　　)				
図　面　作　成	0.7	1.5	3.3	3.3	2.7
数　量　計　算	0.7	1.9	3.6	3.6	3.4
審　　査	0.5	1.1	1.5	1.4	
計（参考）	2.7	6.3	11.8	11.6	9.3

（備考　略）

第 7 表

（1km当り標準歩掛）

職種 / 作業内容	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　計　画	0.6	1.5	2.5	2.5	
各　種　計　算	0.8	1.4	2.7	2.7	2.4
計（参考）	1.4	2.9	5.2	5.2	2.4

2－1－1－2　大口径〈呼び径 400mm 以上〉

(1)新設詳細設計

第 8 表

（1km当り標準歩掛）

職種 / 作業内容	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	0.5	1.3	2.6	4.0	4.0	3.3
設　計　計　画	0.3	0.9	1.8	2.6	2.6	
各　種　計　算		0.9	1.9	2.8	2.7	2.2
図　面　作　成		1.1	2.2	3.3	3.3	2.8
数　量　計　算		1.3	2.6	3.9	3.9	3.1
審　　査	0.2	0.7	1.2	2.0	2.0	
計（参考）	1.0	6.2	12.3	18.6	18.5	11.4

（備考　略）

(2) 布設替詳細設計

第 9 表

（1km当り標準歩掛）

職種 / 作業内容	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	0.6	1.6	3.2	4.8	4.8	4.1
設　計　計　画	0.3	1.2	2.3	3.2	3.2	
各　種　計　算		1.2	2.5	3.5	3.5	2.9
図　面　作　成		1.4	2.8	4.2	4.2	3.6
数　量　計　算		1.6	3.3	4.9	4.8	3.9
審　　査	0.3	0.7	1.5	2.3	2.3	
計（参考）	1.2	7.7	15.6	22.9	22.8	14.5

（備考　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P188	(2)延長による補正（小口径、大口径） 第 13 表 （表　略） （備考　なし）	(2)延長による補正（小口径、大口径） 管路延長による補正は、1km 当り標準歩掛に第 13 表に示す管路延長による補正係数を乗じて行う。 第 13 表 （表　略） 備考　1. 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く。） 2.対象延長に応じて 1km 当り標準歩掛の補正を行い、設計人工とすること。(対象延長は 1km 当り標準歩掛に乗じない。) 3. 設計業務委託の内容が複数の工事案件になる場合は、合計の管路延長に応じて補正すること。 4. 管路延長が 18,000m 以上の場合は、別途考慮する。 （計算例） K1:管路延長 2,500m の場合の設計人工　K2:1km 当り標準歩掛による設計人工 K1=K2×1.73
P189	(3)設計条件による補正（小口径、大口径） 第 14 表 （表　略） 備考 1.「地域環境」は住居等に対する振動、騒音の検討業務の度合いを示す。 2.「道路幅員」は作業帯を確保したり残りの道路幅院が.5mを標準をする。 3.「埋設物」は土工断面内に埋設物1本が設計区間の50%程度露出する場合を「あり」とする。 4.「土質」は軟弱地盤又は流動化しやすい砂質地盤で、基礎構造又は仮説工法の検討業務の度合いを示す。 第 15 表 （表　略） （備考なし） (4)工事案件数による補正（小口径、大口径） 設計業務委託の内容が複数工事案件になる場合は、次式により歩掛を補正する。 (5)仮設配管による補正 布設替詳細設計に仮設配管（埋設又は露出）を計上する場合は、次式により歩掛を補正する。 ただし、本歩掛では、仮設配管の呼び径は 350mm を上限とする。 (6)土工事を伴わない場合 共同溝内等で土工事を伴わない工事の委託設計歩掛は、基本歩掛の 80%とする。 この場合、2-1-2 補正に準じて管径、延長及び工事案件数による補正を行う。	(3)設計条件による補正（小口径、大口径） 第 14 表 （表　略） 備考 1.「地域環境」は住居等に対する振動、騒音の検討業務の度合いを示す。 2.「道路幅員」は作業帯を確保した~~り~~残りの道路幅員が3.5mを標準をする。 3.「埋設物」は土工断面内に埋設物1本が設計区間の50%程度露出する場合を「あり」とする。 4.「土質」は軟弱地盤又は流動化しやすい砂質地盤等で、基礎構造又は仮設工法の検討業務の度合~~い~~を示す。 第 15 表 （表　略） 備考　補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） (4)工事案件数による補正（小口径、大口径） 設計業務委託の内容が複数工事案件になる場合は、次式により歩掛を補正する。 なお、補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） (5)仮設配管による補正（小口径、大口径） 布設替詳細設計に仮設配管（埋設又は露出）を計上する場合は、次式により歩掛を補正する。 ただし、本歩掛では、仮設配管の呼び径は 350mm を上限とする。 なお、補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） (6)土工事を伴わない場合 共同溝内等で土工事を伴わない工事の委託設計歩掛は、基本歩掛の 80%とする。 なお、補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） この場合、2-1-2 補正に準じて管径、延長及び工事案件数による補正を行う。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
	(7)複数管径を含む場合等の補正の考え方 次の考え方により基本歩掛（第 1 表、第 6 表、第 8 表、第 9 表）を補正する。 ①適用する基本歩掛が同一で複数管径を含む場合 ・管径補正係数については、それぞれの呼び径における補正係数を設計延長で加重平均した値とする。 ・延長補正係数については、複数管径の合計設計延長に対する値とする。 ②適用する基本歩掛が異なる場合 ・適用する基本歩掛ごとに①の考え方により補正を行い、合算する。 参考：設計人工の計算例 ①のケース：呼び径 200㎜・延長 100m・新設、呼び径 300㎜・延長 300m・新設（基本歩掛第 1 表） ・管径補正係数＝(100m×0.92＋300m×0.96)／(100m＋300m)＝0.95 ・延長補正係数＝0.70（複数呼び径の合計設計延長＝100m＋300m＝400m の補正係数） ・設計人工　＝基本歩掛×管径補正係数×延長補正係数×その他の補正係数※ ＝第 1 表歩掛×0.95×0.70×その他の補正係数※ ②のケース：呼び径 200㎜・延長 100m・新設、呼び径 300㎜・延長 300m・新設（基本歩掛第 1 表） 呼び径 400㎜・延長 200m・新設（基本歩掛第 8 表） a)呼び径 200㎜・延長 100m・新設、呼び径 300㎜・延長 300m・新設の設計人工(設計人工 a) ・管路補正係数＝0.95（①のケースと同様の考え方） ・延長補正係数＝0.70（　　〃　　） ・設計人工 a）＝第 1 表歩掛×0.95×0.70×その他の補正係数※ b)呼び径 400㎜・延長 200m・新設の設計人工(設計人工 b) ・管径補正係数＝0.90 ・延長補正係数＝0.60 ・設計人工 b）＝第 8 表歩掛×0.90×0.60×その他の補正係数※ c)設計人工＝設計人工 a)＋設計人工 b) ※その他の補正係数…設計条件による補正、工事案件数による補正、仮設配管による補正、土工事を伴わない場合の補正における各補正係数	(7)複数管径を含む場合等の補正の考え方 次の考え方により基本歩掛（第 1 表、第 6 表、第 8 表、第 9 表）を補正する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） ①適用する基本歩掛が同一で複数管径を含む場合 ・管径補正係数については、それぞれの呼び径における補正係数を設計延長で加重平均した値とする。 ・延長補正係数については、複数管径の合計設計延長に対する値とする。 ・仮設配管による補正については、それぞれの呼び径における補正係数を設計延長で加重平均した値とする。 ②適用する基本歩掛が異なる場合 ・適用する基本歩掛ごとに①の考え方により補正を行い、合算する。 参考：設計人工の計算例 ①のケース（Ⅰ）：呼び径 200㎜・延長 100m・新設、呼び径 300㎜・延長 300m・新設（基本歩掛第 1 表） ・管径補正係数＝(100m×0.92＋300m×0.96)／(100m＋300m)＝0.95 ・延長補正係数＝0.70（複数呼び径の合計設計延長＝100m＋300m＝400m の補正係数） ・仮設配管による補正＝1.0（補正無し） ・設計人工　＝基本歩掛×管径補正係数×延長補正係数×仮設配管による補正×その他の補正係数※ ＝第 1 表歩掛×0.95×0.70×1.0×その他の補正係数※ ①のケース（Ⅱ）：呼び径 700㎜・延長 200m・布設替（仮設配管を 100m 使用）、 呼び径 800㎜・延長 300m・布設替（仮設配管を 300m 使用）（基本歩掛第 9 表） ・管径補正係数＝(200m×0.90＋300m×0.91)／(200m＋300m)＝0.906 ・延長補正係数＝0.80（複数呼び径の合計設計延長＝100m＋300m＝500m の補正係数） ・仮設配管による補正＝1＋((100m×0.5＋300m×0.49)/(100m＋300m))×((100m＋300m)／(200m＋300m)) ＝1.394 ・設計人工　＝基本歩掛×管径補正係数×延長補正係数×仮設配管による補正×その他の補正係数※ ＝第 9 表歩掛×0.906×0.80×1.394×その他の補正係数※ ②のケース：呼び径 200㎜・延長 100m・新設、呼び径 300㎜・延長 300m・新設（基本歩掛第 1 表） 呼び径 400㎜・延長 200m・新設（基本歩掛第 8 表） a)呼び径 200㎜・延長 100m・新設、呼び径 300㎜・延長 300m・新設の設計人工(設計人工 a) ・管路補正係数＝0.95（①のケースと同様の考え方） ・延長補正係数＝0.70（　　〃　　） ・仮設配管による補正＝1.0（補正無し） ・設計人工 a）＝第 1 表歩掛×0.95×0.70×仮設配管による補正×その他の補正係数※ b)呼び径 400㎜・延長 200m・新設の設計人工(設計人工 b) ・管径補正係数＝0.90 ・延長補正係数＝0.60 ・仮設配管による補正＝1.0（補正無し） ・設計人工 b）＝第 8 表歩掛×0.90×0.60×仮設配管による補正×その他の補正係数※ c)設計人工＝設計人工 a)＋設計人工 b) ※その他の補正係数…設計条件による補正、工事案件数による補正、~~仮設配管による補正、~~土工事を伴わない場合の補正における各補正係数

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P191	第２節　推進工法	第２節　推進工法

2－2－1 標準業務内容

第１表

推進工法の設計については、以下の業務を行う。

作業項目		作業内容
①現地調査	設計路線の踏査	設計対象箇所の地勢、道路状況、住居、排水の状況等の現地の状況確認及び補足測量
	地下埋設物調査	地下埋設物（他企業への問い合わせ含む）の資料収集及び現地確認
	支障物件(電柱、架空線等)の調査	架線や電線の有無等状況の現地確認及び関係企業からの資料収集並びに整理
	在来管等の調査	既設水道管等の資料収集及び現地確認
	渉外折衝の立会	関係機関との協議・調整・協議資料の作成・現地立会
②公図調査		土地の所有者を確認
③設計計画	設計路線の工法比較	推進工法の比較検討、概略作業計画
	構造計画	立坑、管種、管厚、仮設等の検討
	仮設比較とその施工計画	施工方法の検討、仮設・補助工法の検討
④各種計算	構造計算	管種・管厚、推進力等の計算
	仮設計算	立坑、補助工法等の仮設計算
⑤図面作成	位置図、平面図、縦断面図、詳細図及び構造図等	各種図面の作成、　工事に係る占用書類及び図面の作成
⑥数量計算		数量計算書の作成
⑦審査		基本条件の確認、比較検討の確認、設計計画の妥当性、計算書と図面の整合性確認、計算書の精査
⑧配管設計	設計計画	管材、管種、継手形状、口径等の選定及び比較検討、挿入設備等の検討
	各種計算	挿入管の構造計算(管厚及び挿入力等)
	図面作成	詳細図(平面、縦断、横断、管割図等)の作成
	数量計算	挿入管に係る施工延長及び材料等の数量計算
	審査	基本条件確認、設計計画の妥当性、計算書と図面の整合性、計算書の精査等
⑨報告書作成		設計条件、検討結果をまとめた報告書の作成

備考 1．現地調査に測量、土質、試掘の調査は含まない。

2．管内調査が必要な場合は、別途考慮すること。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

2－2－1　基本歩掛

2－2－1－1　刃口推進

第 1 表

（100m未満：1箇所当り）

作業内容＼職種	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(2-1-1-1第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	1.0	1.3	1.6	3.4	3.1	1.9
設　計　計　画	0.6	0.9	1.6	2.5	2.5	
各　種　計　算		0.9	1.6	1.9	1.9	1.2
図　面　作　成		1.1	2.0	3.0	2.9	2.3
数　量　計　算		0.7	1.9	2.6	2.2	1.9
審　　査	0.8	1.5				
配　管　設　計	0.2	0.5	1.0	1.4	1.0	0.8

備考 1. 作業内容説明は、開削工法備考1～6に準ずる。
2. さや管推進、鉄管・鋼管推進工法とも共通歩掛とし、100m未満を基準とし、2-2-2補正（4）延長による補正は行わない。
3. 配管設計は、さや管推進の場合必要に応じて計上する。
4. 上記作業内容で必要ない項目は除外する。
5. 対象箇所数は推進工事1箇所当りとする。
6. 上記は、推進工法を単独で委託する場合であって、主として開削工法の委託設計の中に推進工法を含む場合は必要とする箇所数の「図面作成」及び「数量計算」の歩掛を使用する。

2－2－1－2　小口径推進（φ250mm 以上 700mm 以下）

第 2 表

（1箇所当り）

作業内容＼職種	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(2-1-1-1第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	1.6	2.2	2.6	5.7	5.2	3.2
設　計　計　画	1.0	1.5	2.6	4.1	4.1	
各　種　計　算		1.5	2.6	3.1	3.1	2.0
図　面　作　成		1.8	3.3	4.8	4.8	3.8
数　量　計　算		1.1	3.2	4.2	3.7	3.1
審　　査	1.4	2.4				

備考 1. 作業内容説明は、開削工法備考1～6に準ずる。
2. さや管推進、鉄管・鋼管推進工法とも共通歩掛とする。
3. 配管設計は、さや管推進の場合必要に応じて計上する。
4. 上記作業内容で必要ない項目は除外する。
5. 対象箇所数は推進工事1箇所当りとする。
6. 上記は、推進工法を単独で委託する場合であって、主として開削工法の委託設計の中に推進工法を含む場合は必要とする箇所数の「図面作成」及び「数量計算」の歩掛を使用する。

改定（平成 27 年度）

2－2－2　基本歩掛

2－2－2－1　刃口推進

第 2 表

（100m未満：1箇所当り）

作業内容＼職種	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(2-1-1-1第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	1.0	1.3	1.6	3.4	3.1	1.9
公　図　調　査	(2-2-2-4 第5表により別途積算計上)					
設　計　計　画	0.6	0.9	1.6	2.5	2.5	
各　種　計　算		0.9	1.6	1.9	1.9	1.2
図　面　作　成		1.1	2.0	3.0	2.9	2.3
数　量　計　算		0.7	1.9	2.6	2.2	1.9
審　　査	0.8	1.5				
配　管　設　計	(2-3-2-2 第3表及び第4表により別途積算計上)					
報 告 書 作 成	(2-2-2-5 第6表により別途積算計上)					

備考 1. さや管推進、鉄管・鋼管推進工法とも共通歩掛とし、100m未満を基準とし、2-2-3 補正（4）延長による補正は行わない。
2. 配管設計は、さや管推進の場合必要に応じて計上し、挿入する水道管の口径に応じた歩掛を使用する。
3. 上記作業内容で必要のない項目は除外する。
4. 対象箇所数は推進工事1箇所当りとする。
5. 報告書作成は、設計条件による補正、立坑数による補正は行わない。
6. 上記は、推進工法を単独で委託する場合であって、主として開削工法の委託設計の中に推進工法を含む場合は必要とする箇所数の「図面作成」及び「数量計算」の歩掛を使用する。

2－2－2－2　小口径推進（φ250mm 以上 700mm 以下）

第 3 表

（500m:1箇所当り）

作業内容＼職種	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(2-1-1-1第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	1.6	2.2	2.6	5.7	5.2	3.2
公　図　調　査	(2-2-2-4 第5表により別途積算計上)					
設　計　計　画	1.0	1.5	2.6	4.1	4.1	
各　種　計　算		1.5	2.6	3.1	3.1	2.0
図　面　作　成		1.8	3.3	4.8	4.8	3.8
数　量　計　算		1.1	3.2	4.2	3.7	3.1
審　　査	1.4	2.4				
配　管　設　計	(2-3-2-2 第3表及び第4表により別途積算計上)					
報 告 書 作 成	(2-2-2-5 第6表により別途積算計上)					

備考 1. さや管推進、鉄管・鋼管推進工法とも共通歩掛とする。
2. 配管設計は、さや管推進の場合必要に応じて計上し、挿入する水道管の口径に応じた歩掛を使用する。
3. 上記作業内容で必要のない項目は除外する。
4. 対象箇所数は推進工事1箇所当りとする。
5. 報告書作成は、設計条件による補正、立坑数による補正は行わない。
6. 上記は、推進工法を単独で委託する場合であって、主として開削工法の委託設計の中に推進工法を含む場合は必要とする箇所数の「図面作成」及び「数量計算」の歩掛を使用する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P192

現行（平成 26 年度）

2－2－1－3　中大口径推進（φ800mm 以上）

第 3 表

（1箇所当り）

作業内容＼職種	主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(2-1-1-1第2表により別途積算計上)						
現　地　調　査	1.0	1.5	2.0	2.5	4.6	4.5	3.6
設　計　計　画	1.0	1.0	2.1	3.6	5.1	4.6	
各　種　計　算			1.6	2.7	4.2	4.2	3.2
図　面　作　成			1.8	3.9	5.4	5.4	4.4
数　量　計　算			1.6	2.6	4.2	3.7	3.2
審　　査		2.0	2.4				
配　管　設　計	0.4	0.7	1.3	2.3	2.9	2.2	

備考 1. 作業内容説明は、開削工法備考1～6に準ずる。
2. さや管推進、鉄管・鋼管推進工法とも共通歩掛とする。
3. 配管設計は、さや管推進の場合必要に応じて計上する。
4. 上記作業内容で必要ない項目は除外する。
5. 対象箇所数は推進工事1箇所当りとする。
6. 上記は、推進工法を単独で委託する場合であって、主として開削工法の委託設計の中に推進工法を含む場合は必要とする箇所数の「図面作成」及び「数量計算」の歩掛を使用する。

改定（平成 27 年度）

2－2－2－3　中大口径推進（φ800mm 以上）

第 4 表

（500m:1箇所当り）

作業内容＼職種	主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(2-1-1-1第2表により別途積算計上)						
現　地　調　査	1.0	1.5	2.0	2.5	4.6	4.5	3.6
公　図　調　査	(2-2-2-4 第5表により別途積算計上)						
設　計　計　画	1.0	1.0	2.1	3.6	5.1	4.6	
各　種　計　算			1.6	2.7	4.2	4.2	3.2
図　面　作　成			1.8	3.9	5.4	5.4	4.4
数　量　計　算			1.6	2.6	4.2	3.7	3.2
審　　査		2.0	2.4				
配　管　設　計	(2-3-2-2 第3表及び第4表により別途積算計上)						
報 告 書 作 成	(2-2-2-5 第6表により別途積算計上)						

備考 1. さや管推進、鉄管・鋼管推進工法とも共通歩掛とする。
2. 配管設計は、さや管推進の場合必要に応じて計上し、挿入する水道管の口径に応じた歩掛を使用する。
3. 上記作業内容で必要のない項目は除外する。
4. 対象箇所数は推進工事1箇所当りとする。
5. 報告書作成は、設計条件による補正、立坑数による補正は行わない。
6. 上記は、推進工法を単独で委託する場合であって、主として開削工法の委託設計の中に推進工法を含む場合は必要とする箇所数の「図面作成」及び「数量計算」の歩掛を使用する。

2－2－2－4　公図調査

第 5 表

（500m：1箇所当り）

作業内容＼職種	主任技術者	技師長	主任技師	技師（A）	技師（B）	技師（C）	技術員
公図調査（小口径）				0.5	0.5	2.5	2.0
公図調査（中大口径）				0.5	1.0	2.0	1.5

備考　刃口推進の場合は、小口径推進の歩掛に0.7を乗じて計上する。

2－2－2－5　報告書作成

第 6 表

（500m：1箇所当り）

作業内容＼職種	主任技術者	技師長	主任技師	技師（A）	技師（B）	技師（C）	技術員
報告書作成			1.0	4.0	3.0	1.0	

備考　刃口推進の場合は、上記歩掛に0.7を乗じて計上する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P192	2－2－2　補正 補正は(1)～(3)それぞれの補正係数を乗じたものとする。 (1)設計条件による補正 設計条件による補正は開削工法設計条件による補正に準じて補正係数を算出する。 (2)工事案件数による補正 工事案件数による補正は開削工法工事案件数による補正に準じて補正係数を算出する。 (3)立坑数による補正 立坑を 1 箇所増すごとに次の補正を行う。 第 4 表 (表　略) (備考なし) (4)延長による補正 第 5 表 延長(m)：250m未満／250～500／500～750／750～1,000／1,000～1,250／1,250～1,500 補正係数：0.7／0.8／1.0／1.2／1.4／1.6 延長(m)：1,500～1,750／1,750～2,000／2,000～2,250 補正係数：1.8／2.0／2.2 備考 延長による補正は、2-2-1-1　刃口推進には適用しない。	2－2－3　補正 補正は(1)～(4)それぞれの補正係数を乗じたものとする。 ただし、延長による補正は、2－2－2－1 刃口推進には適用しない。 (1)設計条件による補正 設計条件による補正は開削工法設計条件による補正に準じて補正係数を算出する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、報告書作成及び設計協議を除く） (2)工事案件数による補正 工事案件数による補正は開削工法工事案件数による補正に準じて補正係数を算出する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） (3)立坑数による補正 立坑を 1 箇所増すごとに次の補正を行う。 第 7 表 (表　略) 備考　補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、報告書作成及び設計協議を除く） (4)延長による補正 第 8 表 管路延長(m)：250 未満／250 ～ 500 〃／500 ～ 750 〃／750 ～ 1,000 〃／1,000 ～ 1,250 〃／1,250 ～ 1,500 〃／1,500 ～ 1,750 〃／1,750 ～ 2,000 〃／2,000 ～ 2,250 〃 補正係数：0.7／0.8／1.0／1.2／1.4／1.6／1.8／2.0／2.2 備考 1. 延長による補正は、2-2-2-1　刃口推進には適用しない。 2. 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く。） 3. 管路延長が2,250m以上の場合は、別途考慮する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
		（平成27年度版より、「第３節　既設管内配管工法」を追加し、現行（平成26年度）の「第３節　シールド工法」「第４節　水管橋設計歩掛」はそれぞれ「第４節　シールド工法」「第５節　水管橋設計歩掛」とする。）

第３節 既設管内配管工法

2－3－1　標準業務内容

第１表

既設管内配管工法の設計については、以下の業務を行う。

作業項目		作業内容
①現地調査	設計路線の踏査	設計対象箇所の地勢、道路状況、住居、排水の状況等の現地の状況確認及び補足測量
	地下埋設物調査	地下埋設物（他企業への問い合わせ含む）の資料収集及び現地確認
	支障物件(電柱、架空線等)の調査	架線や電線の有無等状況の現地確認及び関係企業からの資料収集並びに整理
	在来管等の調査	既設水道管等の資料収集及び現地確認
	渉外折衝の立会	関係機関との協議・調整・協議資料の作成・現地立会
②設計計画		立坑位置及び立坑数の検討、施工方法の検討、仮設・補助工法の検討
③各種計算		構造計算及び立坑、補助工法等の仮設計算
④図面作成	位置図、平面図、縦断面図、詳細図及び構造図等	各種図面の作成、工事に係る占用書類及び図面の作成
⑤数量計算		数量計算書の作成
⑥審査		基本条件の確認、比較検討の確認、設計計画の妥当性、計算書と図面の整合性確認、計算書の精査
⑦配管設計	設計計画	管材、管種、継手形状、口径等の選定及び比較検討、挿入設備等の検討
	各種計算	挿入管の構造計算(管厚及び挿入力等)
	図面作成	詳細図(平面、縦断、横断、管割図等)の作成
	数量計算	挿入管に係る施工延長及び材料等の数量計算
	審査	基本条件確認、設計計画の妥当性、計算書と図面の整合性、計算書の精査等
⑧報告書作成		設計条件、検討結果をまとめた報告書の作成

備考　1．現地調査に測量、土質、試掘の調査は含まない。
　　2．管内調査が必要な場合は、別途考慮すること。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

2－3－2　基本歩掛

2－3－2－1　既設管内配管工

第 2 表

（500m：1箇所当り）

作業内容＼職種	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　協　議	(2-1-1-1 第2表により別途積算計上)					
現　地　調　査	0.5	0.8	1.4	2.8	2.4	2.4
設　計　計　画	0.4	0.5	1.5	3.0	1.8	
各　種　計　算		0.5	1.2	1.9	2.8	1.1
図　面　作　成		0.8	1.4	2.6	3.7	3.8
数　量　計　算		0.7	1.6	2.4	2.4	2.9
審　　査	0.7	1.5				
配　管　設　計	(2-3-2-2 第3表及び第4表により別途積算計上)					
報 告 書 作 成	(2-2-2-5 第6表により別途積算計上)					

備考 1.配管設計は、挿入する水道管の口径に応じた歩掛を使用する。
2.上記作業内容で必要のない項目は除外する。
3.対象箇所数は推進工事1箇所当りとする。
4.上記は、既設管内配管工法を単独で委託する場合であって、主として開削工法の委託設計の中に既設管内配管工法を含む場合は必要とする箇所数の「図面作成」及び「数量計算」の歩掛を使用する。
5.報告書作成は、設計条件による補正、立坑数による補正は行わない。

2－3－2－2　配管設計

(1)挿入する水道管の口径が 700㎜ 以下の場合

第 3 表

（500m：1箇所当り）

作業内容＼職種	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　計　画	0.1	0.3	0.4	0.6	0.4	
各　種　計　算		0.1	0.4	0.5	0.4	0.4
図　面　作　成		0.1	0.5	0.8	0.6	0.4
数　量　計　算		0.1	0.4	0.6	0.4	0.5
審　　査	0.2	0.2				
計	0.3	0.8	1.7	2.5	1.8	1.3

備考　刃口推進の場合は、上記歩掛に0.7を乗じて計上する。

(2)挿入する水道管の口径が 800㎜ 以上の場合

第 4 表

（500m：1箇所当り）

作業内容＼職種	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
設　計　計　画	0.3	0.3	0.7	0.6	0.4	
各　種　計　算		0.3	0.5	0.7	0.5	0.3
図　面　作　成		0.2	0.7	0.8	0.7	0.5
数　量　計　算		0.2	0.4	0.6	0.6	0.4
審　　査	0.2	0.3				
計	0.5	1.3	2.3	2.7	2.2	1.2

備考　刃口推進の場合は、上記歩掛に0.7を乗じて計上する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
		2－3－3　補正 補正は（1）～（4）それぞれの補正係数を乗じたものとする。 （1）設計条件による補正 設計条件による補正は開削工法設計条件による補正に準じて補正係数を算出する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、報告書作成及び設計協議を除く） （2）工事案件数による補正 工事案件数による補正は開削工法工事案件数による補正に準じて補正係数を算出する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） （3）立坑数による補正 立坑数による補正は推進工法立坑数による補正に準じて補正係数を算出する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、報告書作成及び設計協議を除く） （4）延長による補正 延長による補正は推進工法延長による補正に準じて補正係数を算出する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P193	第３節　シールド工法 2－3－1　基本歩掛 2－3－2　補正 (1)設計条件による補正 第２表 （表　略） 備考 1.「地域環境」は、主として立坑の立地条件とする。 2.「土質」は、軟弱地盤又は流動化しやすい砂質地盤に対しての検討。 3.「立坑方式」は、築造と仮設の検討。 4.「シールド工法」は、掘削方式、機械前面型式、泥水、泥土等のプラント及び圧気工法の検討。 5.「その他」は、主として立坑の深さ又は鉄道、河川横断に関する検討。	第４節　シールド工法 2－4－1　基本歩掛 2－4－2　補正 (1)設計条件による補正 第２表 （表　略） 備考 1.「地域環境」は、主として立坑の立地条件とする。 2.「土質」は、軟弱地盤又は流動化しやすい砂質地盤に対しての検討。 3.「立坑方式」は、築造と仮設の検討。 4.「シールド方式」は、掘削方式、機械前面型式、泥水、泥土等のプラント及び圧気工法の検討。 5.「その他」は、主として立坑の深さ又は鉄道、河川横断に関する検討。
P194	第３表 （表　略） 備考　２次覆工は、補正対象外とする。 (2)延長による補正 第４表 延 長（m）　1,000未満　1,000～1,250　1,250～1,500　1,500～1,750　1,750～2,000　2,000～2,250 補正係数　0.90　1.00　1.13　1.25　1.38　1.50 延 長（m）　2,250～2,500　2,500～2,750　2,750～3,000　3,000～3,500　3,500～4,000 補正係数　1.63　1.75　1.88　2.00　2.13 備考 1.　補正対象の作業内容は次の項目とする。 ア.1次覆工、イ.2次覆工、ウ.図面作成、エ.数量計算 2.　対象延長は、トンネル延長とする。 (3)工事案件数による補正 工事案件数による補正は、開削工法工事案件数による補正に準じて補正係数を算出する。 (4)立坑の種類等による補正 (1)で補正された立坑設計（発進、到達）について次の補正をする。 (5)標準図使用による補正 標準図、又はこれに準ずる参考書を使用する場合(3)で補正された立坑設計について次の補正を行う。	第３表 （表　略） 備考　設計協議及び２次覆工は、補正対象外とする。 (2)延長による補正 第４表 管路延長(m)　補　正　係　数 1,000 未満　0.90 1,000 ～ 1,250 〃　1.00 1,250 ～ 1,500 〃　1.13 1,500 ～ 1,750 〃　1.25 1,750 ～ 2,000 〃　1.38 2,000 ～ 2,250 〃　1.50 2,250 ～ 2,500 〃　1.63 2,500 ～ 2,750 〃　1.75 2,750 ～ 3,000 〃　1.88 3,000 ～ 3,500 〃　2.00 3,500 ～ 4,000 〃　2.13 備考 1.　補正対象の作業内容は次の項目とする。 ア.1次覆工、イ.2次覆工、ウ.図面作成、エ.数量計算 2.　対象延長は、トンネル延長とする。 3.　管路延長が4,000m以上の場合は、別途考慮する。 (3)工事案件数による補正 工事案件数による補正は、開削工法工事案件数による補正に準じて補正係数を算出する。 補正対象は作業内容の全項目とする。（ただし、設計協議を除く） (4)立坑の種類等による補正 (1)及び(4)で補正された立坑設計（発進、到達）について次の補正をする。 (5)標準図使用による補正 標準図、又はこれに準ずる参考書を使用する場合(1)(3)及び(4)で補正された立坑設計について次の補正を行う。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P195	第４節　水管橋設計歩掛	第５節　水管橋設計歩掛
	2－4－1　適用範囲	**2－5－1　適用範囲**
P196	**2－4－2　基本設計** **2－4－2－1　基本歩掛** 第２表　設計協議基本歩掛 （表　略） 注）1．中間打合せは、2回を標準とする。 基本設計　設計計算を実施する前の数種の比較検討案選定時及び最適案決定時 詳細設計　一般図の作成時及び細部事項決定時 2．関係機関との協議が必要な場合においては適宜業務内容に応じて中間打合せを追加する。 第３表　現地調査基本歩掛 （表　略） 注）1業務当り最大2橋とする。	**2－5－2　基本設計** **2－5－2－1　基本歩掛** 第２表　設計協議基本歩掛 （表　略） 備考 1．中間打合せは、2回を標準とする。 基本設計　設計計算を実施する前の数種の比較検討案選定時及び最適案決定時 詳細設計　一般図の作成時及び細部事項決定時 2．関係機関との協議が必要な場合においては適宜業務内容に応じて中間打合せを追加する。 第３表　現地調査基本歩掛 （表　略） 備考 1業務当り最大2橋とする。
	2－4－2－2　基本設計の補正	**2－5－2－2　基本設計の補正**
P197	第５表　基本設計の橋長補正係数 （表　略） 注）1．補正係数については、小数点以下第4位を四捨五入し、小数点以下第3位とする。 2．橋長が3,000mを超えるものについては別途考慮する。	第５表　基本設計の橋長補正係数 （表　略） 備考 1．補正係数については、小数点以下第4位を四捨五入し、小数点以下第3位とする。 2．橋長が3,000mを超えるものについては別途考慮する。
	2－4－3　詳細設計 **2－4－3－1　水管橋詳細設計の構成**	**2－5－3　詳細設計** **2－5－3－1　水管橋詳細設計の構成**
	2－4－3－2　上部工基本歩掛	**2－5－3－2　上部工基本歩掛**
P198	第９表　フランジ補剛形式基本歩掛 （表　略） 備考 1．基準橋長(径間)25m 2．電算機使用料は、直接経費として直接人件費の1%を計上する。 第 10 表　トラス補剛形式基本歩掛 （表　略） 備考 1．基準橋長(径間)72.5m 2．電算機使用料は、直接経費として直接人件費の1%を計上する。	第９表　フランジ補剛形式基本歩掛 （表　略） 備考 1．本歩掛は、フランジ補剛形式に適用する。 2．基準橋長(径間)25m 3．電算機使用料は、直接経費として直接人件費の1%を計上する。 第 10 表　トラス補剛形式（その他の補剛形式）基本歩掛 （表　略） 備考 1．本歩掛は、フランジ補剛形式を除く補剛形式（その他の補剛形式）に適用する。 2．基準橋長(径間)72.5m 3．電算機使用料は、直接経費として直接人件費の1%を計上する。
	2－4－3－3　上部工補正	**2－5－3－3　上部工補正**

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P201	基本歩掛は標準的なものであり、第 3 章第 1 節で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。 (イ)～(ヌ)　（略）	基本歩掛は標準的なものであり、3－1－1 で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。 (イ)～(ヌ)　（略）
P208	**3－1－2－3　設計協議（基本設計及び詳細設計）基本歩掛** 第 10 表　設計協議基本歩掛 （表　略） 備考 1．一般的な中間打合せは、設計計画、設計図作成、数量計算などの時点において、必要な打合せ回数を計上する。 2．各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、各工種(土木、建築、電気)それぞれ1名としたものである。したがって、業務に該当する工種がない場合は、その分歩掛から減じる。 **3－1－2－4　現地調査(基本設計及び詳細設計)基本歩掛** 第 11－1 表　現地調査基本歩掛 （表　略） （備考なし） **3－1－3　補正** **3－1－3－1　設計対象容量に係る補正** 第 12 表　設計対象容量に係る補正係数 （表　略） 備考 将来の増設計画を含めた基本設計については、増設計画の容量も加えた設計対象容量の補正係数とする。	**3－1－2－3　設計協議（基本設計及び詳細設計）基本歩掛** 第 10 表　設計協議基本歩掛 （表　略） 備考 1．一般的な中間打合せは、設計計画、設計図作成、数量計算などの時点において、必要な打合せ回数を計上する。 2．各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、~~各工種(~~土木、建築、電気~~)~~に係るものである。~~したがって、~~業務に該当する工種がない場合は、それぞれ 1 工種につき、(歩掛×1/3) を減じる。 **3－1－2－4　現地調査(基本設計及び詳細設計)基本歩掛** 第 11－1 表　現地調査基本歩掛 （表　略） 備考 1．本表は1業務、1回当りの歩掛である。 2．技師(A)、技師(B)の歩掛は、土木、建築、電気に係るものである。 業務に該当する工種がない場合は、それぞれ1工種につき、（歩掛×1/3）を減じる。 **3－1－3　補正** **3－1－3－1　設計対象容量に係る補正** 第 12 表　設計対象容量に係る補正係数 （表　略） 備考 1．将来の増設計画を含めた基本設計については、増設計画の容量も加えた設計対象容量の補正係数とする。 2．配水池有効容量が50,000m^3を超える場合は、別途考慮する。
P209	2)詳細設計 実施設計（詳細設計）における設計対象容量に係る補正は第 4 表、第 6 表あるいは第 8 表、第 9 表の各基本歩掛のすべての項目（ただし、設計協議を除く。）について、第 13 表のそれぞれの補正係数を適用する。 第 13 表　詳細設計対象容量に係る補正係数 （表　略） 備考 鋼製配水池の積算 1）配水池・調整池の土木設計の積算 第9表配水池・調整池の土木設計基本歩掛×(A)×(B) 2）配水池・調整池の土木設計以外の積算 第9表配水池・調整池の土木設計以外の基本歩掛×(A)×(C) 3）鋼製配水池の積算 1）＋ 2)	2)詳細設計 実施設計（詳細設計）における設計対象容量に係る補正は第 4 表、第 6 表あるいは第 8 表、第 9 表の各基本歩掛のすべての項目（ただし、設計協議及び現地調査を除く。）について、第 13 表のそれぞれの補正係数を適用する。 第 13 表　詳細設計対象容量に係る補正係数 （表　略） 備考 鋼製配水池の積算 1）配水池・調整池の土木設計の積算 第9表配水池・調整池の土木設計基本歩掛×(A)×(B) 2）配水池・調整池の土木設計以外の積算 第9表配水池・調整池の土木設計以外の基本歩掛×(A)×(C) 3）鋼製配水池の積算 1）＋ 2) 4）配水池有効容量が50,000m^3を超える場合は、別途考慮する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P213

現行（平成 26 年度）

第 4 表　ポンプ場実施設計(詳細設計)基本歩掛

（単位:人）

施設名	作業項目		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			3-2-2-3第6表により積算計上						
現地調査			3-2-2-4第7-2表により積算計上						
ポンプ場施設			基準（対象）水量1,000m^3/日当り						
ポンプ施設	設計計画		0.7	0.8	1.4	1.8	1.7	1.2	7.6
	計算	構造							0.0
		機能		0.9	2.0	2.8	2.2	1.8	9.7
	設計図作成			3.7	8.1	11.7	9.6	7.1	40.2
	数量計算			1.1	2.4	3.3	2.7	2.0	11.5
	審査		0.9	1.1					2.0
	小計		1.6	7.6	13.9	19.6	16.2	12.1	71.0
自家発電施設	設計計画		0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.3	2.3
	計算	構造							0.0
		機能		0.3	0.5	0.8	0.7	0.5	2.8
	設計図作成			1.1	2.3	3.3	2.8	2.0	11.5
	数量計算			0.3	0.6	1.0	0.8	0.5	3.2
	審査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.5	2.2	3.9	5.6	4.8	3.3	20.3
塩素注入施設	設計計画				0.4	0.6	0.4	0.4	1.8
	計算	構造							0.0
		機能			0.4	0.8	0.5	0.4	2.1
	設計図作成			0.8	1.7	2.7	2.2	1.7	9.1
	数量計算				0.4	0.8	0.8	0.4	2.4
	審査		0.2	0.3					0.5
	小計		0.2	1.1	2.9	4.9	3.9	2.9	15.9
場内配管	設計計画		0.1	0.4	0.4	0.3			1.2
	計算	構造							0.0
		機能		0.2	0.5	0.9	0.8	0.4	2.8
	設計図作成			0.8	1.7	2.9	2.4	1.3	9.1
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.9	0.4	2.8
	審査		0.1	0.2					0.3
	小計		0.2	1.8	3.1	4.9	4.1	2.1	16.2
場内整備	設計計画		0.2	0.3	0.4	0.1			1.0
	計算	構造							0.0
		機能		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
	設計図作成			0.4	0.8	1.6	1.3	0.6	4.7
	数量計算			0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
	審査		0.1	0.2					0.3
	小計		0.3	1.3	1.8	2.7	2.1	0.8	9.0
合計			2.8	14.0	25.6	37.7	31.1	21.2	132.4
配水池・調整池施設			3-1-2-2配水池実施設計(詳細設計)基本歩掛(場内配管・場内整備除く)により積算計上						

備考 1. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。
2. ポンプ施設にポンプ井がある場合は3-1-2-2第5表 配水池・調整池(場内配管、場内整備を除く)の土木設計歩掛を適用する。
3. ポンプ場施設のポンプ施設、自家発電施設及び塩素注入施設の建築設計は合棟を基としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。

改定（平成 27 年度）

第 4 表　ポンプ場実施設計(詳細設計)基本歩掛

（単位:人）

施設名	作業項目		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			3-2-2-3第6表により積算計上						
現地調査			3-2-2-4第7-2表により積算計上						
ポンプ場施設			基準（対象）水量1,000m^3/日当り						
ポンプ施設	設計計画		0.7	0.8	1.4	1.8	1.7	1.2	7.6
	計算	構造		0.3	0.6	1.0	0.8	0.5	3.2
		機能		0.6	1.4	1.8	1.4	1.3	6.5
	設計図作成			3.7	8.1	11.7	9.6	7.1	40.2
	数量計算			1.1	2.4	3.3	2.7	2.0	11.5
	審査		0.9	1.1					2.0
	小計		1.6	7.6	13.9	19.6	16.2	12.1	71.0
自家発電施設	設計計画		0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.3	2.3
	計算	構造		0.1	0.2	0.3	0.3	0.1	1.0
		機能		0.2	0.3	0.5	0.4	0.4	1.8
	設計図作成			1.1	2.3	3.3	2.8	2.0	11.5
	数量計算			0.3	0.6	1.0	0.8	0.5	3.2
	審査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.5	2.2	3.9	5.6	4.8	3.3	20.3
塩素注入施設	設計計画				0.4	0.6	0.4	0.4	1.8
	計算	構造			0.1	0.2	0.1	0.1	0.5
		機能			0.3	0.6	0.4	0.3	1.6
	設計図作成			0.8	1.7	2.7	2.2	1.7	9.1
	数量計算				0.4	0.8	0.8	0.4	2.4
	審査		0.2	0.3					0.5
	小計		0.2	1.1	2.9	4.9	3.9	2.9	15.9
場内配管	設計計画		0.1	0.4	0.4	0.3			1.2
	計算	構造							0.0
		機能		0.2	0.5	0.9	0.8	0.4	2.8
	設計図作成			0.8	1.7	2.9	2.4	1.3	9.1
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.9	0.4	2.8
	審査		0.1	0.2					0.3
	小計		0.2	1.8	3.1	4.9	4.1	2.1	16.2
場内整備	設計計画		0.2	0.3	0.4	0.1			1.0
	計算	構造							0.0
		機能		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
	設計図作成			0.4	0.8	1.6	1.3	0.6	4.7
	数量計算			0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
	審査		0.1	0.2					0.3
	小計		0.3	1.3	1.8	2.7	2.1	0.8	9.0
合計			2.8	14.0	25.6	37.7	31.1	21.2	132.4
配水池・調整池施設			3-1-2-2配水池実施設計(詳細設計)基本歩掛(場内配管・場内整備除く)により積算計上						

備考 1. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。
2. ポンプ施設にポンプ井がある場合は3-1-2-2第5表 配水池・調整池(場内配管、場内整備を除く)の土木設計歩掛を適用する。
3. ポンプ場施設のポンプ施設、自家発電施設及び塩素注入施設の建築設計は合棟を基としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。
4. 作業項目の計算(構造)は水道施設耐震工法指針・解説2009年版による。
5. 作業項目の計算(機能)は、標準的な水理計算、容量計算、設備計算、仮設計算等である。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号

現行（平成 26 年度）

P214

第5表　ポンプ場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳

作業項目		土木設計 技師長	土木設計 主任技師	土木設計 技師(A)	土木設計 技師(B)	土木設計 技師(C)	土木設計 技術員	土木設計 計	建築設計 技師長	建築設計 主任技師	建築設計 技師(A)	建築設計 技師(B)	建築設計 技師(C)	建築設計 技術員	建築設計 計	機械設計 技師長	機械設計 主任技師	機械設計 技師(A)	機械設計 技師(B)	機械設計 技師(C)	機械設計 技術員	機械設計 計	電気 技師長	電気 主任技師	電気 技師(A)	電気 技師
設計協議		3-2-2-3第6表により積算計上																								
現地調査		3-2-2-4第7-2表により積算計上																								
ポンプ場施設		基準（対象）水量1,000m³/日当り																								
ポンプ施設	設計計画							0.0	0.5	0.6	0.6	0.7	0.6	0.5	3.5	0.1	0.1	0.3	0.4	0.4	0.3	1.6	0.1	0.1	0.5	0.
	計算 構造							0.0							0.0							0.0				
	計算 機能							0.0		0.5	0.9	1.4	1.1	0.7	4.6		0.2	0.4	0.5	0.4	0.4	1.9		0.2	0.7	0.
	設計図作成							0.0		2.0	3.9	5.8	4.7	3.5	19.9		0.7	1.6	2.3	1.9	1.2	7.7		1.0	2.6	3.
	数量計算							0.0		0.6	1.1	1.5	1.3	1.0	5.5		0.1	0.5	0.8	0.5	0.3	2.2		0.4	0.8	1.
	審査							0.0	0.5	0.5					1.0	0.1	0.3					0.4	0.3	0.3		
	小計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.2	6.5	9.4	7.7	5.7	34.5	0.2	1.4	2.8	4.0	3.2	2.2	13.8	0.4	2.0	4.6	6.
自家発電施設	設計計画							0.0		0.1	0.3	0.3	0.3	0.1	1.1							0.0	0.2	0.2	0.2	0.
	計算 構造							0.0							0.0							0.0				
	計算 機能							0.0		0.1	0.3	0.4	0.4	0.2	1.4							0.0		0.2	0.2	0.
	設計図作成							0.0		0.5	1.2	1.6	1.4	0.9	5.6							0.0		0.6	1.1	1.
	数量計算							0.0		0.1	0.3	0.5	0.4	0.3	1.6							0.0		0.2	0.3	0.
	審査							0.0	0.2	0.1					0.3							0.0	0.1	0.1		
	小計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.9	2.1	2.8	2.5	1.5	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.3	1.8	2.
塩素注入施設	設計計画							0.0			0.1	0.1	0.1	0.2	0.5			0.2	0.4	0.2	0.1	0.9			0.1	0.
	計算 構造							0.0							0.0							0.0				
	計算 機能							0.0			0.1	0.3	0.1	0.1	0.6			0.1	0.3	0.3	0.2	0.9			0.2	0.
	設計図作成							0.0		0.2	0.5	0.9	0.8	0.5	2.9		0.4	0.7	1.0	0.7	0.7	3.5		0.2	0.5	0.
	数量計算							0.0			0.1	0.3	0.1	0.1	0.6			0.2	0.2	0.4	0.2	1.0			0.1	0.
	審査							0.0	0.2	0.1					0.3		0.1					0.1		0.1		
	小計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.8	1.6	1.1	0.9	4.9	0.0	0.5	1.2	1.9	1.6	1.2	6.4	0.0	0.3	0.9	1.
場内配管	設計計画	0.1	0.4	0.4	0.3			1.2							0.0							0.0				
	計算 構造							0.0							0.0							0.0				
	計算 機能		0.2	0.5	0.9	0.8	0.4	2.8							0.0							0.0				
	設計図作成		0.8	1.7	2.9	2.4	1.3	9.1							0.0							0.0				
	数量計算		0.2	0.5	0.8	0.9	0.4	2.8							0.0							0.0				
	審査	0.1	0.2					0.3							0.0							0.0				
	小計	0.2	1.8	3.1	4.9	4.1	2.1	16.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.
場内整備	設計計画	0.2	0.3	0.4	0.1			1.0							0.0							0.0				
	計算 構造							0.0							0.0							0.0				
	計算 機能		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5							0.0							0.0				
	設計図作成		0.4	0.8	1.6	1.3	0.6	4.7							0.0							0.0				
	数量計算		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5							0.0							0.0				
	審査	0.1	0.2					0.3							0.0							0.0				
	小計	0.3	1.3	1.8	2.7	2.1	0.8	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.
合計		0.5	3.1	4.9	7.6	6.2	2.9	25.2	1.4	5.4	9.4	13.8	11.3	8.1	49.4	0.2	1.9	4.0	5.9	4.8	3.4	20.2	0.7	3.6	7.3	10.
配水池・調整池施設		3-1-2-2配水池実施設計(詳細設計)基本歩掛(場内配管・場内整備除く)により積算計上																								

備考 1. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。
2. ポンプ施設にポンプ井がある場合は3-1-2-2第5表配水池・調整池(場内配管、場内整備を除く)の土木設計歩掛を適用する。
3. ポンプ場施設のポンプ施設、自家発電施設及び塩素注入施設の建築設計は合棟を基としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100

P215

3－2－2－4　現地調査（基本設計及び詳細設計）基本歩掛

第 7－1 表　現地調査基本歩掛

（表　略）

（備考なし）

3－2－3－1　設計対象水量に係る補正

実施設計（基本設計及び詳細設計）設計対象水量に係る補正は配水池・調整池を除く基本歩掛のすべての項目（ただし、設計協議を除く。）について、第 8 表の補正係数を適用する。

第 8 表

（表　略）

備考 1. 将来の増設計画を含めた基本設計については、増設計画の水量も加えた設計対象水量の補正係数とする。
2. 配水ポンプ場については、計画時間最大配水量(m³/日換算)に該当する設計対象水量の補正係数とする。

改定（平成 27 年度）

第5表　ポンプ場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳

（単位:人）

作業項目		土木設計 技師長	土木設計 主任技師	土木設計 技師(A)	土木設計 技師(B)	土木設計 技師(C)	土木設計 技術員	土木設計 計	建築設計 技師長	建築設計 主任技師	建築設計 技師(A)	建築設計 技師(B)	建築設計 技師(C)	建築設計 技術員	建築設計 計	機械設計 技師長	機械設計 主任技師	機械設計 技師(A)	機械設計 技師(B)	機械設計 技師(C)	機械設計 技術員	機械設計 計	電気設計 技師長	電気設計 主任技師	電気設計 技師(A)	電気設計 技師(B)	電気設計 技師(C)	電気設計 技術員	電気設計 計	合計
設計協議		3-2-2-3第6表により積算計上																												
現地調査		3-2-2-4第7-2表により積算計上																												
ポンプ場施設		基準（対象）水量1,000m³/日当り																												
ポンプ施設	設計計画								0.5	0.6	0.6	0.7	0.6	0.5	3.5	0.1	0.1	0.3	0.4	0.4	0.3	1.6	0.1	0.1	0.5	0.7	0.7	0.4	2.5	7.6
	計算 構造									0.3	0.6	1.0	0.8	0.5	3.2							0.0							0.0	3.2
	計算 機能									0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	1.4		0.2	0.4	0.5	0.4	0.4	1.9		0.2	0.7	0.9	0.7	0.7	3.2	6.5
	設計図作成									2.0	3.9	5.8	4.7	3.5	19.9		0.7	1.6	2.3	1.9	1.2	7.7		1.0	2.6	3.6	3.0	2.4	12.6	40.2
	数量計算									0.6	1.1	1.5	1.3	1.0	5.5		0.1	0.5	0.8	0.5	0.3	2.2		0.4	0.8	1.0	0.9	0.7	3.8	11.5
	審査								0.5	0.5					1.0	0.1	0.3					0.4	0.3	0.3					0.6	2.0
	小計								1.0	4.2	6.5	9.4	7.7	5.7	34.5	0.2	1.4	2.8	4.0	3.2	2.2	13.8	0.4	2.0	4.6	6.2	5.3	4.2	22.7	71.0
自家発電施設	設計計画									0.1	0.3	0.3	0.3	0.1	1.1							0.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	1.2	2.3
	計算 構造									0.1	0.2	0.3	0.3	0.1	1.0							0.0							0.0	1.0
	計算 機能										0.1	0.1	0.1	0.1	0.4							0.0		0.2	0.2	0.4	0.3	0.3	1.4	1.8
	設計図作成									0.5	1.2	1.6	1.4	0.9	5.6							0.0		0.6	1.1	1.7	1.4	1.1	5.9	11.5
	数量計算									0.1	0.3	0.5	0.4	0.3	1.6							0.0		0.2	0.3	0.5	0.4	0.2	1.6	3.2
	審査								0.2	0.1					0.3							0.0	0.1	0.1					0.2	0.5
	小計								0.2	0.9	2.1	2.8	2.5	1.5	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.3	1.8	2.8	2.3	1.8	10.3	20.3
塩素注入施設	設計計画										0.1	0.1	0.1	0.2	0.5			0.2	0.4	0.2	0.1	0.9			0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	1.8
	計算 構造										0.1	0.2	0.1	0.1	0.5							0.0							0.0	0.5
	計算 機能											0.1			0.1			0.1	0.3	0.3	0.2	0.9			0.2	0.2	0.1	0.1	0.6	1.6
	設計図作成									0.2	0.5	0.9	0.8	0.5	2.9		0.4	0.7	1.0	0.7	0.7	3.5		0.2	0.5	0.8	0.7	0.5	2.7	9.1
	数量計算										0.1	0.3	0.1	0.1	0.6			0.2	0.2	0.4	0.2	1.0			0.1	0.3	0.3	0.1	0.8	2.4
	審査								0.2	0.1					0.3		0.1					0.1		0.1					0.1	0.5
	小計								0.2	0.3	0.8	1.6	1.1	0.9	4.9	0.0	0.5	1.2	1.9	1.6	1.2	6.4	0.0	0.3	0.9	1.4	1.2	0.8	4.6	15.9
場内配管	設計計画	0.1	0.4	0.4	0.3			1.2																						1.2
	計算 構造							0.0																						0.0
	計算 機能		0.2	0.5	0.9	0.8	0.4	2.8																						2.8
	設計図作成		0.8	1.7	2.9	2.4	1.3	9.1																						9.1
	数量計算		0.2	0.5	0.8	0.9	0.4	2.8																						2.8
	審査	0.1	0.2					0.3																						0.3
	小計	0.2	1.8	3.1	4.9	4.1	2.1	16.2																						16.2
場内整備	設計計画	0.2	0.3	0.4	0.1			1.0																						1.0
	計算 構造							0.0																						0.0
	計算 機能		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5																						1.5
	設計図作成		0.4	0.8	1.6	1.3	0.6	4.7																						4.7
	数量計算		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5																						1.5
	審査	0.1	0.2					0.3																						0.3
	小計	0.3	1.3	1.8	2.7	2.1	0.8	9.0																						9.0
合計		0.5	3.1	4.9	7.6	6.2	2.9	25.2	1.4	5.4	9.4	13.8	11.3	8.1	49.4	0.2	1.9	4.0	5.9	4.8	3.4	20.2	0.7	3.6	7.3	10.4	8.8	6.8	37.6	132.4
配水池・調整池施設		3-1-2-2配水池実施設計(詳細設計)基本歩掛(場内配管・場内整備除く)により積算計上																												

備考 1. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。
2. ポンプ施設にポンプ井がある場合は3-1-2-2第5表配水池・調整池(場内配管、場内整備を除く)の土木設計歩掛を適用する。
3. 作業項目の計算(構造)は水道施設耐震工法指針・解説2009年版による。
4. 作業項目の計算(機能)は、標準的な水理計算、容量計算、設備計算、仮設計算等である。

3－2－2－4　現地調査（基本設計及び詳細設計）基本歩掛

第 7－1 表　現地調査基本歩掛

（表　略）

備考 1. 本表は1業務、1回当りの歩掛である。
2. 各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、土木、建築、機械、電気に係るものである。
業務に該当する工種がない場合は、それぞれ1工種につき、（歩掛×1/4）を減じる。

3－2－3－1　設計対象水量に係る補正

実施設計（基本設計及び詳細設計）設計対象水量に係る補正は配水池・調整池を除く基本歩掛のすべての項目（ただし、設計協議及び現地調査を除く。）について、第 8 表の補正係数を適用する。

第 8 表

（表　略）

備考 1. 将来の増設計画を含めた基本設計については、増設計画の水量も加えた設計対象水量の補正係数とする。
2. 配水ポンプ場については、計画時間最大配水量(m³/日換算)に該当する設計対象水量の補正係数とする。
3. 設計対象水量が200,000m³/日を超える場合は、別途考慮する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

現行（平成 26 年度）

P218

3－3－2　基本歩掛

3－3－2－1　実施設計（基本設計）

第１表　浄水場実施設計（基本設計）基本歩掛

（表　略）

（備考１～４　略）

5．急速ろ過方式の建築設計は、管理本館、薬注施設、自家発電装置の合棟を基としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。

6．膜ろ過方式の建築設計は、膜ろ過装置、浄水池、送水ポンプ棟管理本館、薬注施設、自家発電装置の合棟を基としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。

7．紫外線処理方式の建築設計は、紫外線照射装置、送水ポンプ施設、管理本館、薬注施設、自家発電施設の合棟を基本としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。

P220

第２－４表　2,000m3/日未満（紫外線処理方式）工種別設計歩掛の割合(%)

種別	土木	建築	機械	電気	計
造成	4.41				4.41
原水槽	4.74			0.32	5.06
紫外線照射装置		3.59	4.26	1.51	9.36
浄水池	10.63	1.27		0.36	12.26
送水ポンプ施設		6.90	2.33	1.65	10.88
場内配管	5.49				5.49
排水池	5.11		0.66	0.45	6.22
管理本館		18.32	0.90	1.27	20.49
薬品注施設		2.03	5.10	1.51	8.64
中央監視操作施設				4.25	4.25
自家発電施設		2.47		1.42	3.89
受配電施設				4.84	4.84
場内整備	3.80			0.41	4.21
合計	34.18	34.58	13.25	17.99	100.00

改定（平成 27 年度）

3－3－2　基本歩掛

3－3－2－1　実施設計（基本設計）

第１表　浄水場実施設計（基本設計）基本歩掛

（表　略）

（備考１～４　略）

5．急速ろ過方式の建築設計は、管理本館、薬品注入施設、自家発電~~装置~~施設の合棟を基としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。

6．膜ろ過方式の建築設計は、膜ろ過装置、浄水池、送水ポンプ~~棟~~施設、管理本館、薬品注入施設、自家発電~~装置~~施設の合棟を基としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。

7．紫外線処理方式の建築設計は、紫外線照射装置、送水ポンプ施設、管理本館、薬品注入施設、自家発電施設の合棟を基本としており、分棟の場合は建築設計基本歩掛を30/100増加するものとする。

第２－４表　2,000m3/日未満（紫外線処理方式）工種別設計歩掛の割合(%)

種別	土木	建築	機械	電気	計
造成	4.41				4.41
原水槽	4.74			0.32	5.06
紫外線照射装置		3.59	4.26	1.51	9.36
浄水池	10.63	1.27		0.36	12.26
送水ポンプ施設		6.90	2.33	1.65	10.88
場内配管	5.49				5.49
排水池	5.11		0.66	0.45	6.22
管理本館		18.32	0.90	1.27	20.49
薬品注入施設		2.03	5.10	1.51	8.64
中央監視操作施設				4.25	4.25
自家発電施設		2.47		1.42	3.89
受配電施設				4.84	4.84
場内整備	3.80			0.41	4.21
合計	34.18	34.58	13.25	17.99	100.00

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版
頁番号

P229

現行（平成 26 年度）

第4－2表　2,000m³/日未満(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛

（単位：人）

作業項目			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			3-3-2-3第6表により積算計上						
現地調査			3-3-2-4第7-2表により積算計上						
浄水場施設			基準(対象)水量10,000m³/日						
造成	設計計画		0.3	0.3	0.5	0.8	0.7	0.5	3.1
	計算	構造							0.0
		機能		0.3	0.7	1.2	0.9	0.6	3.7
	設計図作成			1.6	3.6	5.5	4.2	3.4	18.3
	数量計算			0.4	1.0	1.5	1.2	0.9	5.0
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.6	3.1	5.8	9.0	7.0	5.4	30.9
着水井	設計計画		0.4	0.5	1.0	1.4			3.3
	計算	構造		0.4	1.3	2.0	1.7	1.2	6.6
		機能			0.2	0.4	0.4	0.3	1.3
	設計図作成			1.5	3.2	5.2	4.6	4.0	18.5
	数量計算			0.4	1.0	1.3	1.3	0.9	4.9
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.7	3.3	6.7	10.3	8.0	6.4	35.4
薬品沈でん池	設計計画		2.6	3.0	5.0	7.9	6.2	5.0	29.7
	計算	構造		3.8	8.3	13.2	9.9	7.6	42.8
		機能		1.2	2.8	4.3	3.3	2.5	14.1
	設計図作成			13.8	30.4	47.3	37.2	27.9	156.6
	数量計算			3.6	7.3	12.2	9.4	6.8	39.3
	審査		2.7	3.5					6.2
	小計		5.3	28.9	53.8	84.9	66.0	49.8	288.7
急速ろ過機	設計計画		0.5	0.5	1.6	2.2	1.5	1.3	7.6
	計算	構造							0.0
		機能		0.7	1.9	3.1	2.5	1.8	10.0
	設計図作成			3.9	9.4	15.1	11.7	8.8	48.9
	数量計算			0.9	2.6	3.6	2.7	2.7	12.5
	審査		0.6	1.5					2.1
	小計		1.1	7.5	15.5	24.0	18.4	14.6	81.1
塩素混和池	設計計画		0.1	0.1	0.4	0.5	0.4	0.3	1.8
	計算	構造		0.3	0.9	1.2	0.9	0.6	3.9
		機能			0.2	0.2	0.1	0.1	0.6
	設計図作成			0.9	2.1	3.6	2.7	1.9	11.2
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.6	0.4	2.5
	審査		0.1	0.3					0.4
	小計		0.2	1.8	4.1	6.3	4.7	3.3	20.4
浄水池	設計計画		0.6	1.0	1.4	2.2	1.7	1.1	8.0
	計算	構造		1.7	3.2	4.7	3.9	3.0	16.5
		機能		0.2	0.6	1.0	0.7	0.5	3.0
	設計図作成			3.9	9.0	13.2	10.5	7.8	44.4
	数量計算			1.1	2.4	3.6	2.8	2.0	11.9
	審査		0.8	1.0					1.8
	小計		1.4	8.9	16.6	24.7	19.6	14.4	85.6
送水ポンプ施設	設計計画		0.7	0.9	1.5	2.3	1.7	1.3	8.4
	計算	構造		0.4	0.9	1.4	1.0	0.8	4.5
		機能		0.5	1.1	1.8	1.4	0.9	5.7
	設計図作成			3.9	8.7	12.7	10.3	7.9	43.5
	数量計算			1.2	2.4	3.6	2.7	2.1	12.0
	審査		0.8	1.4					2.2
	小計		1.5	8.3	14.6	21.8	17.1	13.0	76.3
場内配管	設計計画		0.3	0.5	0.7	1.1	0.9	0.8	4.3
	計算	構造							0.0
		機能		0.5	1.0	1.4	1.2	1.0	5.1
	設計図作成			1.9	4.4	6.3	5.1	4.2	21.9
	数量計算			0.5	1.3	1.8	1.3	1.1	6.0
	審査		0.4	0.6					1.0
	小計		0.7	4.0	7.4	10.6	8.5	7.1	38.3
排水池	設計計画		0.2	0.4	0.9	1.3	1.0	0.8	4.6
	計算	構造		0.8	1.5	2.3	2.0	1.3	7.9
		機能		0.3	0.5	0.7	0.5	0.4	2.4
	設計図作成			1.6	4.3	6.6	5.0	4.1	21.6
	数量計算			0.5	1.3	1.7	1.5	1.0	6.0
	審査		0.4	0.6					1.0
	小計		0.6	4.2	8.5	12.6	10.0	7.6	43.5
排泥池	設計計画		0.2	0.5	0.9	1.3	1.0	0.7	4.6
	計算	構造		0.4	1.3	2.0	1.4	0.9	6.0
		機能		0.4	0.5	0.6	0.5	0.3	2.3
	設計図作成			1.7	4.3	6.3	4.9	4.0	21.2
	数量計算			0.5	1.3	1.7	1.4	1.0	5.9
	審査		0.4	0.6					1.0
	小計		0.6	4.1	8.3	11.9	9.2	6.9	41.0

（単位：人）

作業項目			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
濃縮槽	設計計画		0.6	1.1	1.8	2.2	1.4	1.0	8.1
	計算	構造		1.3	1.8	2.7	2.1	1.6	9.5
		機能		0.6	0.8	0.9	0.8	0.5	3.6
	設計図作成			2.3	6.1	8.7	7.1	6.0	30.2
	数量計算			0.7	1.8	2.4	2.1	1.7	8.7
	審査		0.5	0.9					1.4
	小計		1.1	6.9	12.3	16.9	13.5	10.8	61.5
天日乾燥床(自然式)	設計計画		0.2	0.3	0.4	0.5	0.5	0.4	2.3
	計算	構造		0.4	0.9	1.4	1.2	0.6	4.5
		機能			0.3	0.6	0.2	0.3	1.4
	設計図作成			0.8	2.3	3.5	2.6	2.6	11.8
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.6	0.6	2.7
	審査		0.2	0.3					0.5
	小計		0.4	2.0	4.4	6.8	5.1	4.5	23.2
管理本館	設計計画		1.3	1.6	2.7	4.0	3.2	2.4	15.2
	計算	構造		1.1	2.4	3.6	2.9	2.2	12.2
		機能		0.5	1.4	2.1	1.6	1.1	6.7
	設計図作成			7.4	16.5	24.4	19.4	15.1	82.8
	数量計算			2.1	4.5	6.7	5.2	4.0	22.5
	審査		1.5	2.5					4.0
	小計		2.8	15.2	27.5	40.8	32.3	24.8	143.4
薬注施設	設計計画		0.6	0.6	1.2	1.9	1.5	1.1	6.9
	計算	構造		0.1	0.3	0.5	0.4	0.2	1.5
		機能		0.5	1.3	2.0	1.7	1.3	6.8
	設計図作成			3.1	6.8	10.1	8.0	6.4	34.4
	数量計算			0.9	2.0	2.8	2.1	1.6	9.4
	審査		0.7	0.8					1.5
	小計		1.3	6.0	11.6	17.3	13.7	10.6	60.5
中央監視撮作施設	設計計画		0.2	0.3	0.6	0.9	0.7	0.4	3.1
	計算	構造							0.0
		機能		0.3	0.8	1.2	1.0	0.6	3.9
	設計図作成			1.6	3.3	5.3	4.2	2.9	17.3
	数量計算			0.4	0.9	1.4	1.1	0.7	4.5
	審査		0.3	0.6					0.9
	小計		0.5	3.2	5.6	8.8	7.0	4.6	29.7
自家発電旋設	設計計画		0.3	0.3	0.6	0.8	0.6	0.4	3.0
	計算	構造		0.1	0.4	0.5	0.4	0.3	1.7
		機能		0.1	0.4	0.6	0.4	0.4	1.9
	設計図作成			1.4	3.2	4.8	3.6	2.8	15.8
	数量計算			0.3	0.8	1.3	1.0	0.8	4.2
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.6	2.7	5.4	8.0	6.0	4.7	27.4
受配電施設	設計計画		0.3	0.3	0.7	1.1	0.9	0.5	3.8
	計算	構造							0.0
		機能		0.4	0.9	1.4	1.1	0.7	4.5
	設計図作成			1.9	3.8	5.6	4.6	3.3	19.2
	数量計算			0.5	1.0	1.6	1.3	0.9	5.3
	審査		0.4	0.7					1.1
	小計		0.7	3.8	6.4	9.7	7.9	5.4	33.9
場内整備	設計計画		0.2	0.3	0.5	0.8	0.6	0.4	2.8
	計算	構造							0.0
		機能		0.2	0.6	1.1	0.9	0.6	3.4
	設計図作成			1.5	3.4	5.5	4.2	3.2	17.8
	数量計算			0.4	1.0	1.4	1.1	0.9	4.8
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.5	2.9	5.5	8.8	6.8	5.1	29.6
合計	設計計画		9.6	12.5	22.4	33.2	24.5	18.4	120.6
	計算	構造	0.0	10.8	23.2	35.5	27.8	20.3	117.6
		機能	0.0	6.7	16.0	24.6	19.2	13.9	80.4
	設計図作成		0.0	54.7	124.8	189.7	149.9	116.3	635.4
	数量計算		0.0	14.8	33.6	50.2	39.4	30.1	168.1
	審査		11.0	17.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.3
	小計		20.6	116.8	220.0	333.2	260.8	199.0	1150.4

改定（平成 27 年度）

第4－2表　2,000m³/日未満(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛

作業項目			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			3-3-2-3第6表により積算計上						
現地調査			3-3-2-4第7-2表により積算計上						
浄水場施設			基準(対象)水量10,000m³/日						
造成	設計計画		0.3	0.3	0.5	0.8	0.7	0.5	3.1
	計算	構造							0.0
		機能		0.3	0.7	1.2	0.9	0.6	3.7
	設計図作成			1.6	3.6	5.5	4.2	3.4	18.3
	数量計算			0.4	1.0	1.5	1.2	0.9	5.0
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.6	3.1	5.8	9.0	7.0	5.4	30.9
着水井	設計計画		0.4	0.5	1.0	1.4			3.3
	計算	構造		0.4	1.3	2.0	1.7	1.2	6.6
		機能			0.2	0.4	0.4	0.3	1.3
	設計図作成			1.5	3.2	5.2	4.6	4.0	18.5
	数量計算			0.4	1.0	1.3	1.3	0.9	4.9
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.7	3.3	6.7	10.3	8.0	6.4	35.4
薬品沈でん池	設計計画		2.6	3.0	5.0	7.9	6.2	5.0	29.7
	計算	構造		3.8	8.3	13.2	9.9	7.6	42.8
		機能		1.2	2.8	4.3	3.3	2.5	14.1
	設計図作成			13.8	30.4	47.3	37.2	27.9	156.6
	数量計算			3.6	7.3	12.2	9.4	6.8	39.3
	審査		2.7	3.5					6.2
	小計		5.3	28.9	53.8	84.9	66.0	49.8	288.7
急速ろ過機	設計計画		0.5	0.5	1.6	2.2	1.5	1.3	7.6
	計算	構造		0.4	1.1	1.6	1.4	0.7	5.2
		機能		0.5	1.4	2.4	1.9	1.5	7.7
	設計図作成			3.9	9.4	15.1	11.7	8.8	48.9
	数量計算			0.9	2.6	3.6	2.7	2.7	12.5
	審査		0.6	1.5					2.1
	小計		1.1	7.7	16.1	24.9	19.2	15.0	84.0
塩素混和池	設計計画		0.1	0.1	0.4	0.5	0.4	0.3	1.8
	計算	構造		0.3	0.9	1.2	0.9	0.6	3.9
		機能			0.2	0.2	0.1	0.1	0.6
	設計図作成			0.9	2.1	3.6	2.7	1.9	11.2
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.6	0.4	2.5
	審査		0.1	0.3					0.4
	小計		0.2	1.8	4.1	6.3	4.7	3.3	20.4
浄水池	設計計画		0.6	1.0	1.4	2.2	1.7	1.1	8.0
	計算	構造		1.7	3.2	4.7	3.9	3.0	16.5
		機能		0.2	0.6	1.0	0.7	0.5	3.0
	設計図作成			3.9	9.0	13.2	10.5	7.8	44.4
	数量計算			1.1	2.4	3.6	2.8	2.0	11.9
	審査		0.8	1.0					1.8
	小計		1.4	8.9	16.6	24.7	19.6	14.4	85.6
送水ポンプ施設	設計計画		0.7	0.9	1.5	2.3	1.7	1.3	8.4
	計算	構造		0.4	0.9	1.4	1.0	0.8	4.5
		機能		0.5	1.1	1.8	1.4	0.9	5.7
	設計図作成			3.9	8.7	12.7	10.3	7.9	43.5
	数量計算			1.2	2.4	3.6	2.7	2.1	12.0
	審査		0.8	1.4					2.2
	小計		1.5	8.3	14.6	21.8	17.1	13.0	76.3
場内配管	設計計画		0.3	0.5	0.7	1.1	0.9	0.8	4.3
	計算	構造							0.0
		機能		0.5	1.0	1.4	1.2	1.0	5.1
	設計図作成			1.9	4.4	6.3	5.1	4.2	21.9
	数量計算			0.5	1.3	1.8	1.3	1.1	6.0
	審査		0.4	0.6					1.0
	小計		0.7	4.0	7.4	10.6	8.5	7.1	38.3
排水池	設計計画		0.2	0.4	0.9	1.3	1.0	0.8	4.6
	計算	構造		0.8	1.5	2.3	2.0	1.3	7.9
		機能		0.3	0.5	0.7	0.5	0.4	2.4
	設計図作成			1.6	4.3	6.6	5.0	4.1	21.6
	数量計算			0.5	1.3	1.7	1.5	1.0	6.0
	審査		0.4	0.6					1.0
	小計		0.6	4.2	8.5	12.6	10.0	7.6	43.5
排泥池	設計計画		0.2	0.5	0.9	1.3	1.0	0.7	4.6
	計算	構造		0.4	1.3	2.0	1.4	0.9	6.0
		機能		0.4	0.5	0.6	0.5	0.3	2.3
	設計図作成			1.7	4.3	6.3	4.9	4.0	21.2
	数量計算			0.5	1.3	1.7	1.4	1.0	5.9
	審査		0.4	0.6					1.0
	小計		0.6	4.1	8.3	11.9	9.2	6.9	41.0

（単位：人）

作業項目			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
濃縮槽	設計計画		0.6	1.1	1.8	2.2	1.4	1.0	8.1
	計算	構造		1.3	1.8	2.7	2.1	1.6	9.5
		機能		0.6	0.8	0.9	0.8	0.5	3.6
	設計図作成			2.3	6.1	8.7	7.1	6.0	30.2
	数量計算			0.7	1.8	2.4	2.1	1.7	8.7
	審査		0.5	0.9					1.4
	小計		1.1	6.9	12.3	16.9	13.5	10.8	61.5
天日乾燥床(自然式)	設計計画		0.2	0.3	0.4	0.5	0.5	0.4	2.3
	計算	構造		0.4	0.9	1.4	1.2	0.6	4.5
		機能			0.3	0.6	0.2	0.3	1.4
	設計図作成			0.8	2.3	3.5	2.6	2.6	11.8
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.6	0.6	2.7
	審査		0.2	0.3					0.5
	小計		0.4	2.0	4.4	6.8	5.1	4.5	23.2
管理本館	設計計画		1.3	1.6	2.7	4.0	3.2	2.4	15.2
	計算	構造		1.1	2.4	3.6	2.9	2.2	12.2
		機能		0.5	1.4	2.1	1.6	1.1	6.7
	設計図作成			7.4	16.5	24.4	19.4	15.1	82.8
	数量計算			2.1	4.5	6.7	5.2	4.0	22.5
	審査		1.5	2.5					4.0
	小計		2.8	15.2	27.5	40.8	32.3	24.8	143.4
薬注施設	設計計画		0.6	0.6	1.2	1.9	1.5	1.1	6.9
	計算	構造		0.1	0.3	0.5	0.4	0.2	1.5
		機能		0.5	1.3	2.0	1.7	1.3	6.8
	設計図作成			3.1	6.8	10.1	8.0	6.4	34.4
	数量計算			0.9	2.0	2.8	2.1	1.6	9.4
	審査		0.7	0.8					1.5
	小計		1.3	6.0	11.6	17.3	13.7	10.6	60.5
中央監視撮作施設	設計計画		0.2	0.3	0.6	0.9	0.7	0.4	3.1
	計算	構造							0.0
		機能		0.3	0.8	1.2	1.0	0.6	3.9
	設計図作成			1.6	3.3	5.3	4.2	2.9	17.3
	数量計算			0.4	0.9	1.4	1.1	0.7	4.5
	審査		0.3	0.6					0.9
	小計		0.5	3.2	5.6	8.8	7.0	4.6	29.7
自家発電旋設	設計計画		0.3	0.3	0.6	0.8	0.6	0.4	3.0
	計算	構造		0.1	0.4	0.5	0.4	0.3	1.7
		機能		0.1	0.4	0.6	0.4	0.4	1.9
	設計図作成			1.4	3.2	4.8	3.6	2.8	15.8
	数量計算			0.3	0.8	1.3	1.0	0.8	4.2
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.6	2.7	5.4	8.0	6.0	4.7	27.4
受配電施設	設計計画		0.3	0.3	0.7	1.1	0.9	0.5	3.8
	計算	構造							0.0
		機能		0.4	0.9	1.4	1.1	0.7	4.5
	設計図作成			1.9	3.8	5.6	4.6	3.3	19.2
	数量計算			0.5	1.0	1.6	1.3	0.9	5.3
	審査		0.4	0.7					1.1
	小計		0.7	3.8	6.4	9.7	7.9	5.4	33.9
場内整備	設計計画		0.2	0.3	0.5	0.8	0.6	0.4	2.8
	計算	構造							0.0
		機能		0.2	0.6	1.1	0.9	0.6	3.4
	設計図作成			1.5	3.4	5.5	4.2	3.2	17.8
	数量計算			0.4	1.0	1.4	1.1	0.9	4.8
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.5	2.9	5.5	8.8	6.8	5.1	29.6
合計	設計計画		9.6	12.5	22.4	33.2	24.5	18.4	120.6
	計算	構造	0.0	11.2	24.3	37.1	29.2	21.0	122.8
		機能	0.0	6.5	15.5	23.9	18.6	13.6	78.1
	設計図作成		0.0	54.7	124.8	189.7	149.9	116.3	635.4
	数量計算		0.0	14.8	33.6	50.2	39.4	30.1	168.1
	審査		11.0	17.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.3
	小計		20.6	117.0	220.6	334.1	261.6	199.4	1153.3

別　紙

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）

P232

現行（平成 26 年度）

第 5－1 表(1/3)　2,000m³/日以上(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳　（一部抜粋）

作業項目			土木設計							建築設計						
			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			3-3-2-3第6表により積算計上													
現地調査			3-3-2-4第7-2表により積算計上													
浄水場施設			基準（対象）水量10,000m³/日													
e	e		e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
急遮ろ過池	設計計画		0.8	1.0	1.7	2.6	2.1	1.6	9.8	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.2	1.8
	計算	構造		1.9	4.7	7.2	5.8	4.0	23.6		0.1	0.4	0.6	0.5	0.3	1.9
		機能		0.5	0.7	0.9	0.7	0.5	3.3		0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.6
	設計図作成			5.4	10.9	16.0	12.8	9.6	54.7		0.6	2.1	3.1	2.4	2.3	10.5
	数量計算			1.4	2.9	4.3	3.4	3.0	15.0		0.4	0.6	0.8	0.8	0.5	3.1
	審査		1.1	1.3					2.4	0.3	0.3					0.6
	小計		1.9	11.5	20.9	31.0	24.8	18.7	108.8	0.5	1.8	3.5	5.1	4.2	3.4	18.5

改定（平成 27 年度）

第 5－1 表(1/3)　2,000m³/日以上(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳　（一部抜粋）

作業項目			土木設計							建築設計						
			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			3-3-2-3第6表により積算計上													
現地調査			3-3-2-4第7-2表により積算計上													
浄水場施設			基準（対象）水量10,000m³/日													
e	e		e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
急速ろ過池	設計計画		0.8	1.0	1.7	2.6	2.1	1.6	9.8	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.2	1.8
	計算	構造		1.9	4.7	7.2	5.8	4.0	23.6		0.1	0.4	0.6	0.5	0.3	1.9
		機能		0.5	0.7	0.9	0.7	0.5	3.3		0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.6
	設計図作成			5.4	10.9	16.0	12.8	9.6	54.7		0.6	2.1	3.1	2.4	2.3	10.5
	数量計算			1.4	2.9	4.3	3.4	3.0	15.0		0.4	0.6	0.8	0.8	0.5	3.1
	審査		1.1	1.3					2.4	0.3	0.3					0.6
	小計		1.9	11.5	20.9	31.0	24.8	18.7	108.8	0.5	1.8	3.5	5.1	4.2	3.4	18.5

P235

現行（平成 26 年度）

第 5-2 表(1/3)　2,000m³/日未満(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目		土木設計							建築設計							機械設計							電気設計							合計
		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	
設計協議		3-3-2-3第6表により積算計上																												
現地調査		3-3-2-4第7-2表により積算計上																												
浄水場施設		基準（対象）水量10,000m³/日																												
造成	設計計画	0.3	0.3	0.5	0.8	0.7	0.5	3.1							0.0							0.0							0.0	3.1
	計算 構造							0.0							0.0							0.0							0.0	0.0
	計算 機能		0.3	0.7	1.2	0.9	0.6	3.7							0.0							0.0							0.0	3.7
	設計図作成		1.6	3.6	5.5	4.2	3.4	18.3							0.0							0.0							0.0	18.3
	数量計算		0.4	1.0	1.5	1.2	0.9	5.0							0.0							0.0							0.0	5.0
	審査	0.3	0.5					0.8							0.0							0.0							0.0	0.8
	小計	0.6	3.1	5.8	9.0	7.0	5.4	30.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.9
着水井	設計計画	0.4	0.5	1.0	1.4			3.3							0.0							0.0							0.0	3.3
	計算 構造		0.4	1.3	2.0	1.7	1.2	6.6							0.0							0.0							0.0	6.6
	計算 機能			0.2	0.3	0.3	0.3	1.1							0.0							0.0				0.1	0.1		0.2	1.3
	設計図作成		1.5	3.1	4.7	4.2	3.4	16.9							0.0							0.0			0.1	0.5	0.4	0.6	1.6	18.5
	数量計算		0.4	0.9	1.2	1.2	0.9	4.6							0.0							0.0			0.1	0.1	0.1		0.3	4.9
	審査	0.3	0.5					0.8							0.0							0.0							0.0	0.8
	小計	0.7	3.3	6.5	9.6	7.4	5.8	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.7	0.6	0.6	2.1	35.4
薬品沈でん池	設計計画	1.8	2.1	3.5	5.4	4.9	3.7	21.4	0.4	0.5	0.4	1.1	0.5	0.5	3.4	0.4	0.4	0.8	1.1	0.5	0.5	3.7			0.3	0.3	0.3	0.3	1.2	29.7
	計算 構造		3.5	7.8	12.2	9.4	7.1	40.0		0.3	0.5	1.0	0.5	0.5	2.8							0.0							0.0	42.8
	計算 機能		0.7	0.9	1.7	1.2	1.1	5.6		0.1	0.3	0.5	0.3	0.3	1.5		0.4	1.2	1.4	1.4	0.8	5.2			0.4	0.7	0.4	0.3	1.8	14.1
	設計図作成		11.0	21.0	29.4	23.6	17.9	102.9		1.2	3.4	7.1	4.6	3.4	19.7		1.2	4.1	7.5	6.4	5.1	24.3		0.4	1.9	3.3	2.6	1.5	9.7	156.6
	数量計算		2.8	5.3	7.8	6.4	4.5	26.8		0.4	0.8	1.6	1.1	0.7	4.6		0.4	0.8	2.0	1.5	1.3	6.0			0.4	0.8	0.4	0.3	1.9	39.3
	審査	1.6	2.1					3.7	0.5	0.4					0.9	0.6	1.0					1.6							0.0	6.2
	小計	3.4	22.2	38.5	56.5	45.5	34.3	200.4	0.9	2.9	5.4	11.3	7.0	5.4	32.9	1.0	3.4	6.9	12.0	9.8	7.7	40.8	0.0	0.4	3.0	5.1	3.7	2.4	14.6	288.7
急速ろ過機	設計計画	0.1	0.1	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0							0.0	0.4	0.4	0.9	1.0	0.7	0.8	4.2			0.3	0.6	0.3	0.2	1.4	7.6
	計算 構造							0.0							0.0							0.0							0.0	0.0
	計算 機能		0.2	0.6	0.9	0.8	0.4	2.9							0.0		0.5	1.0	1.6	1.1	1.1	5.3			0.3	0.6	0.6	0.3	1.8	10.0
	設計図作成		2.3	2.9	4.1	2.8	2.1	14.2							0.0		1.0	4.7	7.8	6.4	5.2	25.1		0.6	1.8	3.2	2.5	1.5	9.6	48.9
	数量計算		0.6	0.8	1.0	0.9	0.7	4.0							0.0		0.3	1.1	2.0	1.2	1.8	6.4			0.7	0.6	0.6	0.2	2.1	12.5
	審査	0.3	0.4					0.7							0.0	0.3	0.8					1.1		0.3					0.3	2.1
	小計	0.4	3.6	4.7	6.6	5.0	3.5	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	3.0	7.7	12.4	9.4	8.9	42.1	0.0	0.9	3.1	5.0	4.0	2.2	15.2	81.1
塩素混和池	設計計画	0.1	0.1	0.4	0.5	0.4	0.3	1.8							0.0							0.0							0.0	1.8
	計算 構造		0.3	0.9	1.2	0.9	0.6	3.9							0.0							0.0							0.0	3.9
	計算 機能			0.2	0.2	0.1	0.1	0.6							0.0							0.0							0.0	0.6
	設計図作成		0.9	2.0	3.2	2.3	1.8	10.2							0.0							0.0			0.1	0.4	0.4	0.1	1.0	11.2
	数量計算		0.2	0.5	0.8	0.6	0.4	2.5							0.0							0.0							0.0	2.5
	審査	0.1	0.3					0.4							0.0							0.0							0.0	0.4
	小計	0.2	1.8	4.0	5.9	4.3	3.2	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.4	0.1	1.0	20.4
浄水池	設計計画	0.5	0.7	1.3	1.8	1.4	1.0	6.7	0.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.1	1.2							0.0				0.1			0.1	8.0
	計算 構造		1.6	3.1	4.4	3.8	2.9	15.8		0.1	0.1	0.3	0.1	0.1	0.7							0.0							0.0	16.5
	計算 機能		0.2	0.5	0.8	0.5	0.4	2.4			0.1	0.1	0.1	0.1	0.4							0.0				0.1	0.1		0.2	3.0
	設計図作成		3.6	7.7	11.2	8.7	6.7	37.9		0.3	0.9	1.5	1.3	0.9	4.9							0.0			0.4	0.5	0.5	0.2	1.6	44.4
	数量計算		1.0	2.0	3.0	2.4	1.6	10.0		0.1	0.3	0.5	0.3	0.3	1.5							0.0			0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	11.9
	審査	0.7	0.9					1.6	0.1	0.1					0.2							0.0							0.0	1.8
	小計	1.2	8.0	14.6	21.2	16.8	12.6	74.4	0.2	0.9	1.5	2.7	2.1	1.5	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.8	0.7	0.3	2.3	85.6
送水ポンプ施設	設計計画							0.0	0.5	0.7	0.8	1.3	1.0	0.8	5.1	0.1	0.1	0.4	0.6	0.4	0.2	1.8	0.1	0.1	0.3	0.4	0.3	0.3	1.5	8.4
	計算 構造							0.0		0.4	0.9	1.4	1.0	0.8	4.5							0.0							0.0	4.5
	計算 機能							0.0		0.2	0.4	0.5	0.5	0.3	1.9		0.2	0.4	0.8	0.5	0.3	2.2		0.1	0.3	0.5	0.4	0.3	1.6	5.7
	設計図作成							0.0		2.9	5.5	8.0	6.4	5.3	28.1		0.6	1.9	2.8	2.3	1.4	9.0		0.4	1.3	1.9	1.6	1.2	6.4	43.5
	数量計算							0.0		0.8	1.5	2.1	1.7	1.3	7.4		0.3	0.5	0.9	0.6	0.4	2.7		0.1	0.4	0.6	0.4	0.4	1.9	12.0
	審査							0.0	0.3	0.8					1.1	0.4	0.3					0.7	0.1	0.3					0.4	2.2
	小計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	5.8	9.1	13.3	10.6	8.5	48.1	0.5	1.5	3.2	5.1	3.8	2.3	16.4	0.2	1.0	2.3	3.4	2.7	2.2	11.8	76.3
場内配管	設計計画	0.3	0.5	0.7	1.1	0.9	0.8	4.3							0.0							0.0							0.0	4.3
	計算 構造							0.0							0.0							0.0							0.0	0.0
	計算 機能		0.5	1.0	1.4	1.2	1.0	5.1							0.0							0.0							0.0	5.1
	設計図作成		1.9	4.4	6.3	5.1	4.2	21.9							0.0							0.0							0.0	21.9
	数量計算		0.5	1.3	1.8	1.3	1.1	6.0							0.0							0.0							0.0	6.0
	審査	0.4	0.6					1.0							0.0							0.0							0.0	1.0
	小計	0.7	4.0	7.4	10.6	8.5	7.1	38.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.3

改定（平成 27 年度）

第 5-2 表(1/3)　2,000m³/日未満(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目		土木設計							建築設計							機械設計							電気設計							合計
		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	
設計協議		3-3-2-3第6表により積算計上																												
現地調査		3-3-2-4第7-2表により積算計上																												
浄水場施設		基準（対象）水量10,000m³/日																												
造成	設計計画	0.3	0.3	0.5	0.8	0.7	0.5	3.1							0.0							0.0							0.0	3.1
	計算 構造							0.0							0.0							0.0							0.0	0.0
	計算 機能		0.3	0.7	1.2	0.9	0.6	3.7							0.0							0.0							0.0	3.7
	設計図作成		1.6	3.6	5.5	4.2	3.4	18.3							0.0							0.0							0.0	18.3
	数量計算		0.4	1.0	1.5	1.2	0.9	5.0							0.0							0.0							0.0	5.0
	審査	0.3	0.5					0.8							0.0							0.0							0.0	0.8
	小計	0.6	3.1	5.8	9.0	7.0	5.4	30.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.9
着水井	設計計画	0.4	0.5	1.0	1.4			3.3							0.0							0.0							0.0	3.3
	計算 構造		0.4	1.3	2.0	1.7	1.2	6.6							0.0							0.0							0.0	6.6
	計算 機能			0.2	0.3	0.3	0.3	1.1							0.0							0.0				0.1	0.1		0.2	1.3
	設計図作成		1.5	3.1	4.7	4.2	3.4	16.9							0.0							0.0			0.1	0.5	0.4	0.6	1.6	18.5
	数量計算		0.4	0.9	1.2	1.2	0.9	4.6							0.0							0.0			0.1	0.1	0.1		0.3	4.9
	審査	0.3	0.5					0.8							0.0							0.0							0.0	0.8
	小計	0.7	3.3	6.5	9.6	7.4	5.8	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.7	0.6	0.6	2.1	35.4
薬品沈でん池	設計計画	1.8	2.1	3.5	5.4	4.9	3.7	21.4	0.4	0.5	0.4	1.1	0.5	0.5	3.4	0.4	0.4	0.8	1.1	0.5	0.5	3.7			0.3	0.3	0.3	0.3	1.2	29.7
	計算 構造		3.5	7.8	12.2	9.4	7.1	40.0		0.3	0.5	1.0	0.5	0.5	2.8							0.0							0.0	42.8
	計算 機能		0.7	0.9	1.7	1.2	1.1	5.6		0.1	0.3	0.5	0.3	0.3	1.5		0.4	1.2	1.4	1.4	0.8	5.2			0.4	0.7	0.4	0.3	1.8	14.1
	設計図作成		11.0	21.0	29.4	23.6	17.9	102.9		1.2	3.4	7.1	4.6	3.4	19.7		1.2	4.1	7.5	6.4	5.1	24.3		0.4	1.9	3.3	2.6	1.5	9.7	156.6
	数量計算		2.8	5.3	7.8	6.4	4.5	26.8		0.4	0.8	1.6	1.1	0.7	4.6		0.4	0.8	2.0	1.5	1.3	6.0			0.4	0.8	0.4	0.3	1.9	39.3
	審査	1.6	2.1					3.7	0.5	0.4					0.9	0.6	1.0					1.6							0.0	6.2
	小計	3.4	22.2	38.5	56.5	45.5	34.3	200.4	0.9	2.9	5.4	11.3	7.0	5.4	32.9	1.0	3.4	6.9	12.0	9.8	7.7	40.8	0.0	0.4	3.0	5.1	3.7	2.4	14.6	288.7
急速ろ過機	設計計画	0.1	0.1	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0							0.0	0.4	0.4	0.9	1.0	0.7	0.8	4.2			0.3	0.6	0.3	0.2	1.4	7.6
	計算 構造		0.4	1.1	1.6	1.4	0.7	5.2							0.0							0.0							0.0	5.2
	計算 機能			0.1	0.2	0.2	0.1	0.6							0.0		0.5	1.0	1.6	1.1	1.1	5.3			0.3	0.6	0.6	0.3	1.8	7.7
	設計図作成		2.3	2.9	4.1	2.8	2.1	14.2							0.0		1.0	4.7	7.8	6.4	5.2	25.1		0.6	1.8	3.2	2.5	1.5	9.6	48.9
	数量計算		0.6	0.8	1.0	0.9	0.7	4.0							0.0		0.3	1.1	2.0	1.2	1.8	6.4			0.7	0.6	0.6	0.2	2.1	12.5
	審査	0.3	0.4					0.7							0.0	0.3	0.8					1.1		0.3					0.3	2.1
	小計	0.4	3.8	5.3	7.5	5.8	3.9	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	3.0	7.7	12.4	9.4	8.9	42.1	0.0	0.9	3.1	5.0	4.0	2.2	15.2	84.0
塩素混和池	設計計画	0.1	0.1	0.4	0.5	0.4	0.3	1.8							0.0							0.0							0.0	1.8
	計算 構造		0.3	0.9	1.2	0.9	0.6	3.9							0.0							0.0							0.0	3.9
	計算 機能			0.2	0.2	0.1	0.1	0.6							0.0							0.0							0.0	0.6
	設計図作成		0.9	2.0	3.2	2.3	1.8	10.2							0.0							0.0			0.1	0.4	0.4	0.1	1.0	11.2
	数量計算		0.2	0.5	0.8	0.6	0.4	2.5							0.0							0.0							0.0	2.5
	審査	0.1	0.3					0.4							0.0							0.0							0.0	0.4
	小計	0.2	1.8	4.0	5.9	4.3	3.2	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.4	0.1	1.0	20.4
浄水池	設計計画	0.5	0.7	1.3	1.8	1.4	1.0	6.7	0.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.1	1.2							0.0				0.1			0.1	8.0
	計算 構造		1.6	3.1	4.4	3.8	2.9	15.8		0.1	0.1	0.3	0.1	0.1	0.7							0.0							0.0	16.5
	計算 機能		0.2	0.5	0.8	0.5	0.4	2.4			0.1	0.1	0.1	0.1	0.4							0.0				0.1	0.1		0.2	3.0
	設計図作成		3.6	7.7	11.2	8.7	6.7	37.9		0.3	0.9	1.5	1.3	0.9	4.9							0.0			0.4	0.5	0.5	0.2	1.6	44.4
	数量計算		1.0	2.0	3.0	2.4	1.6	10.0		0.1	0.3	0.5	0.3	0.3	1.5							0.0			0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	11.9
	審査	0.7	0.9					1.6	0.1	0.1					0.2							0.0							0.0	1.8
	小計	1.2	8.0	14.6	21.2	16.8	12.6	74.4	0.2	0.9	1.5	2.7	2.1	1.5	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.8	0.7	0.3	2.3	85.6
送水ポンプ施設	設計計画							0.0	0.5	0.7	0.8	1.3	1.0	0.8	5.1	0.1	0.1	0.4	0.6	0.4	0.2	1.8	0.1	0.1	0.3	0.4	0.3	0.3	1.5	8.4
	計算 構造							0.0		0.4	0.9	1.4	1.0	0.8	4.5							0.0							0.0	4.5
	計算 機能							0.0		0.2	0.4	0.5	0.5	0.3	1.9		0.2	0.4	0.8	0.5	0.3	2.2		0.1	0.3	0.5	0.4	0.3	1.6	5.7
	設計図作成							0.0		2.9	5.5	8.0	6.4	5.3	28.1		0.6	1.9	2.8	2.3	1.4	9.0		0.4	1.3	1.9	1.6	1.2	6.4	43.5
	数量計算							0.0		0.8	1.5	2.1	1.7	1.3	7.4		0.3	0.5	0.9	0.6	0.4	2.7		0.1	0.4	0.6	0.4	0.4	1.9	12.0
	審査							0.0	0.3	0.8					1.1	0.4	0.3					0.7	0.1	0.3					0.4	2.2
	小計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	5.8	9.1	13.3	10.6	8.5	48.1	0.5	1.5	3.2	5.1	3.8	2.3	16.4	0.2	1.0	2.3	3.4	2.7	2.2	11.8	76.3
場内配管	設計計画	0.3	0.5	0.7	1.1	0.9	0.8	4.3							0.0							0.0							0.0	4.3
	計算 構造							0.0							0.0							0.0							0.0	0.0
	計算 機能		0.5	1.0	1.4	1.2	1.0	5.1							0.0							0.0							0.0	5.1
	設計図作成		1.9	4.4	6.3	5.1	4.2	21.9							0.0							0.0							0.0	21.9
	数量計算		0.5	1.3	1.8	1.3	1.1	6.0							0.0							0.0							0.0	6.0
	審査	0.4	0.6					1.0							0.0							0.0							0.0	1.0
	小計	0.7	4.0	7.4	10.6	8.5	7.1	38.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.3

P237

現行（平成 26 年度）

第5-2表(3/3)　2,000m³/日未満(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目		土木設計							建築設計							機械設計							電気設計							合計
		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	
場内整備	設計計画	0.2	0.3	0.5	0.7	0.6	0.4	2.7							0.0							0.0				0.1			0.1	2.8
	計算 構造							0.0							0.0							0.0							0.0	0.0
	計算 機能		0.2	0.6	1.0	0.8	0.5	3.1							0.0							0.0				0.1	0.1	0.1	0.3	3.4
	設計図作成		1.5	3.0	4.9	3.6	2.9	15.9							0.0							0.0			0.4	0.6	0.6	0.3	1.9	17.8
	数量計算		0.4	0.9	1.3	1.0	0.8	4.4							0.0							0.0			0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	4.8
	審査	0.3	0.5					0.8							0.0							0.0							0.0	0.8
	小計	0.5	2.9	5.0	7.9	6.0	4.6	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.9	0.8	0.5	2.7	29.6
合計	設計計画	4.6	5.9	11.1	15.9	12.1	9.0	58.6	2.9	3.5	4.8	7.5	5.7	4.2	28.6	1.3	1.8	3.4	4.9	3.0	2.7	17.1	0.8	1.3	3.1	4.9	3.7	2.5	16.3	120.6
	計算 構造	0.0	8.4	18.3	27.7	22.1	16.0	92.5	0.0	2.4	4.9	7.8	5.7	4.3	25.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	117.6
	計算 機能	0.0	2.6	5.9	8.9	6.9	5.3	29.6	0.0	0.8	2.1	3.0	2.2	1.9	10.0	0.0	2.0	4.1	6.5	5.0	3.7	21.3	0.0	1.3	3.9	6.2	5.1	3.0	19.5	80.4
	設計図作成	0.0	30.0	60.1	86.9	68.8	54.5	300.3	0.0	13.3	29.6	45.3	35.5	27.8	151.5	0.0	5.0	17.5	27.9	22.6	18.2	91.2	0.0	6.4	17.6	29.6	23.0	15.8	92.4	635.4
	数量計算	0.0	7.8	16.3	23.1	18.8	13.9	79.9	0.0	3.6	8.0	12.1	9.2	7.1	40.0	0.0	2.0	4.3	7.9	5.8	5.2	25.2	0.0	1.4	5.0	7.1	5.6	3.9	23.0	168.1
	審査	5.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	2.6	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	2.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	28.3
	小計	9.7	62.4	111.7	162.5	128.7	98.7	573.7	5.5	28.0	49.4	75.7	58.3	45.3	262.2	3.5	13.8	29.3	47.2	36.4	29.8	160.0	1.9	12.6	29.6	47.8	37.4	25.2	154.5	1150.4

改定（平成 27 年度）

第5-2表(3/3)　2,000m³/日未満(急速ろ過方式)浄水場実施設計(詳細設計)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目		土木設計							建築設計							機械設計							電気設計							合計
		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計	
場内整備	設計計画	0.2	0.3	0.5	0.7	0.6	0.4	2.7							0.0							0.0				0.1			0.1	2.8
	計算 構造							0.0							0.0							0.0							0.0	0.0
	計算 機能		0.2	0.6	1.0	0.8	0.5	3.1							0.0							0.0				0.1	0.1	0.1	0.3	3.4
	設計図作成		1.5	3.0	4.9	3.6	2.9	15.9							0.0							0.0			0.4	0.6	0.6	0.3	1.9	17.8
	数量計算		0.4	0.9	1.3	1.0	0.8	4.4							0.0							0.0			0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	4.8
	審査	0.3	0.5					0.8							0.0							0.0							0.0	0.8
	小計	0.5	2.9	5.0	7.9	6.0	4.6	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.9	0.8	0.5	2.7	29.6
合計	設計計画	4.6	5.9	11.1	15.9	12.1	9.0	58.6	2.9	3.5	4.8	7.5	5.7	4.2	28.6	1.3	1.8	3.4	4.9	3.0	2.7	17.1	0.8	1.3	3.1	4.9	3.7	2.5	16.3	120.6
	計算 構造	0.0	8.8	19.4	29.3	23.5	16.7	97.7	0.0	2.4	4.9	7.8	5.7	4.3	25.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	122.8
	計算 機能	0.0	2.4	5.4	8.2	6.3	5.0	27.3	0.0	0.8	2.1	3.0	2.2	1.9	10.0	0.0	2.0	4.1	6.5	5.0	3.7	21.3	0.0	1.3	3.9	6.2	5.1	3.0	19.5	78.1
	設計図作成	0.0	30.0	60.1	86.9	68.8	54.5	300.3	0.0	13.3	29.6	45.3	35.5	27.8	151.5	0.0	5.0	17.5	27.9	22.6	18.2	91.2	0.0	6.4	17.6	29.6	23.0	15.8	92.4	635.4
	数量計算	0.0	7.8	16.3	23.1	18.8	13.9	79.9	0.0	3.6	8.0	12.1	9.2	7.1	40.0	0.0	2.0	4.3	7.9	5.8	5.2	25.2	0.0	1.4	5.0	7.1	5.6	3.9	23.0	168.1
	審査	5.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	2.6	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	2.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	28.3
	小計	9.7	62.6	112.3	163.4	129.5	99.1	576.6	5.5	28.0	49.4	75.7	58.3	45.3	262.2	3.5	13.8	29.3	47.2	36.4	29.8	160.0	1.9	12.6	29.6	47.8	37.4	25.2	154.5	1153.3

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P242	**3－3－2－4　現地調査（基本設計及び詳細設計）基本歩掛** 第 7－1 表　現地調査基本歩掛 （表　略） （備考なし） **3－3－3－1　設計対象水量に係る補正** 実施設計(基本設計及び詳細設計)設計対象水量に係る補正は第 8－1 表、第 8－2 表の補正係数を適用する。 第 8－1 表　2,000m³/日以上 （表　略） （備考なし）	**3－3－2－4　現地調査（基本設計及び詳細設計）基本歩掛** 第 7－1 表　現地調査基本歩掛 （表　略） 備考 1. 本表は1業務、1回当りの歩掛である。 2. 各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、土木、建築、機械、電気に係るものである。 業務に該当する工種がない場合は、それぞれ1工種につき、（歩掛×1/4）を減じる。 **3－3－3－1　設計対象水量に係る補正** 実施設計(基本設計及び詳細設計)設計対象水量に係る補正は基本歩掛のすべての項目（ただし、設計協議及び現地調査を除く。）について、第 8－1 表、第 8－2 表の補正係数を適用する。 第 8－1 表　2,000m³/日以上 （表　略） 備考 1. 将来の増設計画を含めた基本設計については、増設計画の水量も加えた設計対象水量の補正係数とする。 2. 配水施設については、計画時間最大配水量（m³/日換算）に該当する設計対象水量の補正係数とする。 3. 設計対象水量が200,000m³/日を超える場合は、別途考慮する。
P245	**3－4－2　補正**	**3－4－2　補正** 補正対象は作業内容のすべての項目とする。(ただし、設計協議を除く)
P246	**3－5－2－2　設計協議(詳細設計)** 第 2 表　設計協議基本歩掛 （表　略） 備考 1. 一般的な中間打合せは、設計計画、設計図作成、数量計算などの時点において、必要な打合せ回数を計上する。 2. 打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、各工種(土木、電気)それぞれ1名としたものである。従って、業務に該当する工種がない場合は、その分歩掛から減じる。 **3－5－2－3　現地調査(詳細設計)** 第 3 表　現地調査基本歩掛 （表　略） 備考 1. 本表は、1業務、1回当りの歩掛である。 2. 技師(A)、技師(B)の歩掛は、各工種(土木、電気)それぞれ1名としたものである。従って、業務に該当する工種がない場合は、その分歩掛から減じる。 **3－5－3　補正** 設計条件による補正については、基本歩掛の全ての項目について、3－1－3－1 の補正係数を乗じて補正するものとする。また、掘削に係る補正は 3－1－3－2、地盤に係る補正については 3－1－3－3、場内整備に係る補正については 3－1－3－4 の各補正係数を乗じて補正し加算するものとする。	**3－5－2－2　設計協議(詳細設計)** 第 2 表　設計協議基本歩掛 （表　略） 備考 1. 一般的な中間打合せは、設計計画、設計図作成、数量計算などの時点において、必要な打合せ回数を計上する。 2. 各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、~~各工種(~~土木、電気~~)それぞれ1名としたに~~係るものである。 ~~従って、~~業務に該当する工種がない場合は、それぞれ1工種につき、(歩掛×1/2)を減じる。 **3－5－2－3　現地調査(詳細設計)** 第 3 表　現地調査基本歩掛 （表　略） 備考 1. 本表は、1業務、1回当りの歩掛である。 2. 技師(A)、技師(B)の歩掛は、~~各工種(~~土木、電気~~)それぞれ1名としたに~~係るものである。 ~~従って、~~業務に該当する工種がない場合は、それぞれ1工種につき(歩掛×1/2)を減じる。 **3－5－3　補正** 設計条件による補正については、基本歩掛の全ての項目(ただし、設計協議及び現地調査を除く)について、3－1－3－1 の補正係数を乗じて補正するものとする。また、掘削深度に係る補正は 3－1－3－2、地盤に係る補正については 3－1－3－3、場内整備に係る補正については 3－1－3－4 の各補正係数を乗じて補正し加算するものとする。
P248	第 3－1 表　水管橋上部工の耐震診断(詳細診断)　パイプビーム形式基本歩掛 （表　略） 備考 1.本歩掛表は、パイプビーム形式及び橋梁添架形式に適する。 2～6.略 第 3－2 表　水管橋上部工の耐震診断(詳細診断)　フランジ補剛形式基本歩掛 （表　略） 備考 1. 基準橋長（径間）25m 2. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 3. 作業項目の診断条件整理は、レベル1地震動及びレベル2地震動を含むものとし、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方1～4によるものとする。 ただし、方法1による場合は、別途計上する。 4. 作業項目の耐震診断評価における解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。	第 3－1 表　水管橋上部工の耐震診断(詳細診断)　パイプビーム形式基本歩掛 （表　略） 備考 1.本歩掛表は、パイプビーム形式及び橋梁添架形式に適用する。 2～6.略 第 3－2 表　水管橋上部工の耐震診断(詳細診断)　フランジ補剛形式基本歩掛 （表　略） 備考 1. 本歩掛表は、フランジ補剛形式に適用する。 2. 基準橋長（径間）25m 3. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 4. 作業項目の診断条件整理は、レベル1地震動及びレベル2地震動を含むものとし、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方1～4によるものとする。 ただし、方法1による場合は、別途計上する。 5. 作業項目の耐震診断評価における解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P249	第 3－3 表　水管橋上部工の耐震診断(詳細診断)　トラス補剛形式基本歩掛 (表　略) 備考 1. 基準橋長（径間）72.5m 2. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 3. 作業項目の診断条件整理は、レベル1地震動及びレベル2地震動を含むものとし、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方1～4によるものとする。ただし、方法1による場合は、別途計上する。 4. 作業項目の耐震診断評価における解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。	第 3－3 表　水管橋上部工の耐震診断(詳細診断)　トラス補剛形式(その他の補剛形式)基本歩掛 (表　略) 備考 1. 本歩掛表は、フランジ補剛形式を除く補剛形式（その他の補剛形式）に適用する。 2. 基準橋長（径間）72.5m 3. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 4. 作業項目の診断条件整理は、レベル1地震動及びレベル2地震動を含むものとし、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方1～4によるものとする。ただし、方法1による場合は、別途計上する。 5. 作業項目の耐震診断評価における解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。
P250	第5－2表　水管橋上部工の耐震補強工事の実施設計　フランジ補剛形式基本歩掛 (表　略) 備考 1. 基準橋長（径間）25m 2. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 3. 作業項目の設計計算は、レベル1地震動及びレベル2地震動に対する計算を含むもので、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方法1～4によるものとし、方法1による場合は、別途計上する。解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。 4. 補強方法は、落橋防止装置の設置、伸縮可とう管の伸縮量増強、リングサポートの改造・補強など水管橋の支承部における改造・補強を対象とする。 5. 管体本体の補強がある場合は、別途計上する。 第5－3表　水管橋上部工の耐震補強工事の実施設計　トラス補剛形式基本歩掛 (表　略) 備考 1. 基準橋長（径間）72.5m 2. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 3. 作業項目の設計計算は、レベル1地震動及びレベル2地震動に対する計算を含むもので、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方法1～4によるものとし、方法1による場合は、別途計上する。解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。 4. 補強方法は、落橋防止装置の設置、伸縮可とう管の伸縮量増強、リングサポートの改造・補強など水管橋の支承部における改造・補強を対象とする。 5. 管体本体の補強がある場合は、別途計上する。	第5－2表　水管橋上部工の耐震補強工事の実施設計　フランジ補剛形式基本歩掛 (表　略) 備考 1. 本歩掛は、フランジ補剛形式に適用する。 2. 基準橋長（径間）25m 3. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 4. 作業項目の設計計算は、レベル1地震動及びレベル2地震動に対する計算を含むもので、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方法1～4によるものとし、方法1による場合は、別途計上する。解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。 5. 補強方法は、落橋防止装置の設置、伸縮可とう管の伸縮量増強、リングサポートの改造・補強など水管橋の支承部における改造・補強を対象とする。 6. 管体本体の補強がある場合は、別途計上する。 第5－3表　水管橋上部工の耐震補強工事の実施設計　トラス補剛形式(その他の補剛形式)基本歩掛 (表　略) 備考 1. 本歩掛は、フランジ補剛形式を除く補剛形式(その他の補剛形式)に適用する。 2. 基準橋長（径間）72.5m 3. 本表の内、必要でない作業項目については削除して使用するものとする。 4. 作業項目の設計計算は、レベル1地震動及びレベル2地震動に対する計算を含むもので、レベル2地震動の設定は、水道施設耐震工法指針・解説2009年版方法1～4によるものとし、方法1による場合は、別途計上する。解析手法は、静的解析とし、他の解析手法による場合は、別途計上する。 5. 補強方法は、落橋防止装置の設置、伸縮可とう管の伸縮量増強、リングサポートの改造・補強など水管橋の支承部における改造・補強を対象とする。 6. 管体本体の補強がある場合は、別途計上する。
P253	基本歩掛は標準的なものであり、第 4 章第 2 節で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。 （イ）～（ヌ）　略	基本歩掛は標準的なものであり、4－2－1 で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。 （イ）～（ヌ）　略
P257	**4－2－2－4　現地調査(耐震診断及び耐震補強工事の実施設計)基本歩掛** 第6表　現地調査基本歩掛 (表　略) 備考 1.(略) 2.各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、それぞれ土木に係るものである。したがって、この業務において建築、機械、電気に該当する工種を追加する場合は、それぞれ 1 工種につき土木に係る歩掛と同数ずつ加算する。	**4－2－2－4　現地調査(耐震診断及び耐震補強工事の実施設計)基本歩掛** 第6表　現地調査基本歩掛 (表　略) 備考 1.(略) 2.~~各打合せの~~技師(A)、技師(B)の歩掛は、それぞれ土木に係るものである。したがって、この業務において建築、機械、電気に該当する工種を追加する場合は、それぞれ 1 工種につき土木に係る歩掛と同数ずつ加算する。
P258	**4－2－3－1　設計容量に係る補正** 第8表　設計対象容量に係る補正係数 (表　略) 備考 1. 配水池の容量は、耐震診断評価及び計算(構造)を行う構造単位ごとに設定する。 2. 形状の異なる配水池を複数実施する場合は構造単位ごとに設定する **4－2－3－2　掘削深度に係る補正** 耐震補強工事に係る掘削深度が大きい場合(5m 以上 10m 未満)は、第 4 表・耐震補強工事の実施設計基本歩掛に 15/100 増加、さらに極めて深い場合(10m 以上)は、30/100 増加するものとする。	**4－2－3－1　設計容量に係る補正** 補正対象は耐震診断においては、設計協議及び現地調査を除く項目、耐震補強工事においては、設計協議、現地調査及び既存資料調査を除く項目とする。 第8表　設計対象容量に係る補正係数 (表　略) 備考 1. 配水池の容量は、耐震診断評価及び計算(構造)を行う構造単位ごとに設定する。 2. 形状の異なる配水池を複数実施する場合は構造単位ごとに設定する。 3. 配水池有効容量が50,000m^3を超える場合は、別途考慮する。 **4－2－3－2　掘削深度に係る補正** 耐震補強工事に係る掘削深度が大きい場合(5m 以上 10m 未満)は、第 4 表・耐震補強工事の実施設計基本歩掛に 15/100 増加、さらに極めて深い場合(10m 以上)は、30/100 増加するものとする。 なお、補正対象は設計協議、現地調査及び既存資料調査を除く項目とする。

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

<table>
<tr><th>26 年度版
頁番号</th><th>現行（平成 26 年度）</th><th>改定（平成 27 年度）</th></tr>
<tr><td>P259</td><td>第 1 表　耐震診断(詳細診断)における歩掛使用ケース
<table>
<tr><th>歩掛表使用ケース</th><th>耐震診断(詳細診断)</th><th>耐震補強工事の実施設計</th></tr>
<tr><td>標準的な手順</td><td>基本歩掛(第3表)</td><td>別途積算</td></tr>
<tr><td>耐震診断のみ
(耐震診断の結果、補強が必要ない場合)</td><td>基本歩掛(第3表)</td><td>―</td></tr>
<tr><td>耐震補強工事のみ
(簡易診断で補強が必要であると判断した場合</td><td>―</td><td>別途積算</td></tr>
<tr><td>高度な解析（動的解析等）を実施する場合</td><td>別途積算</td><td>別途積算</td></tr>
</table>
基本歩掛は標準的なものであり、第 4 章第 1 節で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。
（イ）～（リ）　略</td><td>第 1 表　耐震診断(詳細診断)における歩掛使用ケース
<table>
<tr><th>歩掛表使用ケース</th><th>耐震診断(詳細診断)</th><th>耐震補強工事の実施設計</th></tr>
<tr><td>標準的な手順</td><td>基本歩掛(第3表)</td><td>別途積算(第4章第4節参照)</td></tr>
<tr><td>耐震診断のみ
(耐震診断の結果、補強が必要ない場合)</td><td>基本歩掛(第3表)</td><td>―</td></tr>
<tr><td>耐震補強工事のみ
(簡易診断で補強が必要であると判断した場合</td><td>―</td><td>別途積算(第4章第4節参照)</td></tr>
<tr><td>高度な解析（動的解析等）を実施する場合</td><td>別途積算</td><td>別途積算</td></tr>
</table>
基本歩掛は標準的なものであり、4－3－1 で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。
（イ）～（リ）　略</td></tr>
</table>

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版
頁番号

現行（平成 26 年度）

P260

4－3－2－1　耐震診断(詳細診断)

第 3－1 表　(1/3)2,000m³/日以上(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			4-3-2-2 第4表により積算計上						
現地調査			4-3-2-3 第5表により積算計上						
既存資料調査	既存資料収集・整理		4-3-2-4 第6表により積算計上						
診断条件整理	地盤検討		4-3-2-4 第6表により積算計上						
診断条件整理	耐震基本方針及び設計地震動設定		4-3-2-4 第6表により積算計上						
浄水場施設			基準(対象)水量10,000m³/日						
着水井	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		耐震診断		0.3	0.7	1.1	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		総合評価		0.2	0.1	0.4	0.4	0.1	1.2
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.7	0.6	0.4	2.3
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.3	0.1	1.3
		対策案の概算工事費作成		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.5	3.7	6.3	5.5	2.8	21.2
急速撹拌池	耐震診断評価	解析モデル作成			0.3	0.4	0.4	0.2	1.3
		耐震診断		0.2	0.4	0.8	0.8	0.4	2.6
		耐震性能の照査			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		耐震性能の照査			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
	対策案の検討	補強対策検討			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
		劣化対策検討			0.1	0.3	0.3		0.7
		対策後の構造解析			0.3	0.5	0.4	0.3	1.5
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	報告書作成			0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	照査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.3	0.8	2.8	4.5	4.3	1.6	14.3
フロック形成池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.8	0.6	0.3	2.3
		耐震診断		0.3	0.8	1.3	1.3	0.8	4.5
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.8	0.6	0.3	2.3
		総合評価		0.1	0.3	0.5	0.4	0.3	1.6
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.5	0.8	0.8	0.5	2.8
		施工検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.8	0.6	0.3	2.3
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.5	4.4	7.6	6.6	3.4	24.9
沈でん池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.4	0.7	1.3	1.1	0.6	4.1
		耐震診断		0.6	1.5	2.5	2.4	1.5	8.5
		耐震性能の照査		0.3	0.7	1.3	1.1	0.6	4.0
		総合評価		0.3	0.4	0.9	0.7	0.4	2.7
	対策案の検討	補強対策検討		0.3	0.5	1.0	0.9	0.4	3.1
		劣化対策検討			0.4	0.8	0.7	0.3	2.2
		対策後の構造解析		0.4	0.9	1.5	1.3	0.9	5.0
		施工検討		0.3	0.5	0.9	0.7	0.4	2.8
		対策案の概算工事費作成		0.3	0.5	0.9	0.7	0.4	2.8
		補強図・補修図の作成		0.3	0.7	1.3	1.1	0.6	4.0
	報告書作成			0.4	0.8	1.2	1.1	0.6	4.1
	照査		0.8	1.0					1.8
	小計		0.8	4.6	7.6	13.6	11.8	6.7	45.1

改定（平成 27 年度）

4－3－2－1　耐震診断(詳細診断)

第 3－1 表　(1/3)2,000m³/日以上(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			4-3-2-2 第4表により積算計上						
現地調査			4-3-2-3 第5表により積算計上						
既存資料調査	既存資料収集・整理		4-3-2-4 第6表により積算計上						
診断条件整理	地盤検討		4-3-2-4 第6表により積算計上						
診断条件整理	耐震基本方針及び設計地震動設定		4-3-2-4 第6表により積算計上						
浄水場施設			基準(対象)水量10,000m³/日						
着水井	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		耐震診断		0.3	0.7	1.1	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		総合評価		0.2	0.1	0.4	0.4	0.1	1.2
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.7	0.6	0.4	2.3
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.3	0.1	1.3
		対策案の概算工事費作成		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.5	3.7	6.3	5.5	2.8	21.2
急速撹拌池	耐震診断評価	解析モデル作成			0.3	0.4	0.4	0.2	1.3
		耐震診断		0.2	0.4	0.8	0.8	0.4	2.6
		耐震性能の照査			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		総合評価			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
	対策案の検討	補強対策検討			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
		劣化対策検討			0.1	0.3	0.3		0.7
		対策後の構造解析			0.3	0.5	0.4	0.3	1.5
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	報告書作成			0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	照査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.3	0.8	2.8	4.5	4.3	1.6	14.3
フロック形成池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.8	0.6	0.3	2.3
		耐震診断		0.3	0.8	1.3	1.3	0.8	4.5
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.8	0.6	0.3	2.3
		総合評価		0.1	0.3	0.5	0.4	0.3	1.6
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.5	0.8	0.8	0.5	2.8
		施工検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.8	0.6	0.3	2.3
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.5	4.4	7.6	6.6	3.4	24.9
沈でん池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.4	0.7	1.3	1.1	0.6	4.1
		耐震診断		0.6	1.5	2.5	2.4	1.5	8.5
		耐震性能の照査		0.3	0.7	1.3	1.1	0.6	4.0
		総合評価		0.3	0.4	0.9	0.7	0.4	2.7
	対策案の検討	補強対策検討		0.3	0.5	1.0	0.9	0.4	3.1
		劣化対策検討			0.4	0.8	0.7	0.3	2.2
		対策後の構造解析		0.4	0.9	1.5	1.3	0.9	5.0
		施工検討		0.3	0.5	0.9	0.7	0.4	2.8
		対策案の概算工事費作成		0.3	0.5	0.9	0.7	0.4	2.8
		補強図・補修図の作成		0.3	0.7	1.3	1.1	0.6	4.0
	報告書作成			0.4	0.8	1.2	1.1	0.6	4.1
	照査		0.8	1.0					1.8
	小計		0.8	4.6	7.6	13.6	11.8	6.7	45.1

別　紙

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版
頁番号

現行（平成 26 年度）

P261

第３－１表　(2/3)2,000m³/日以上(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			4-3-2-2 第4表により積算計上						
現地調査			4-3-2-3 第5表により積算計上						
既存資料調査		既存資料収集・整理	4-3-2-4 第6表により積算計上						
診断条件整理		地盤検討	4-3-2-4 第6表により積算計上						
		耐震基本方針及び設計地震動設定	4-3-2-4 第6表により積算計上						
浄水場施設			基準(対象)水量10,000m³/日						
急速ろ過池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.4	1.1	1.9	1.7	0.8	5.9
		耐震診断		0.9	2.2	3.8	3.6	2.2	12.7
		耐震性能の照査		0.4	1.1	1.9	1.7	0.8	5.9
		総合評価		0.3	0.7	1.3	1.1	0.7	4.1
	対策案の検討	補強対策検討		0.4	0.9	1.6	1.3	0.7	4.9
		劣化対策検討			0.7	1.1	1.1	0.4	3.3
		対策後の構造解析		0.5	1.3	2.1	2.0	1.3	7.2
		施工検討		0.3	0.8	1.2	1.1	0.6	4.0
		対策案の概算工事費作成		0.3	0.8	1.2	1.1	0.6	4.0
		補強図・補修図の作成		0.4	1.1	1.9	1.7	0.8	5.9
	報告書作成			0.4	1.2	1.9	1.7	0.9	6.1
	照査		1.2	1.5					2.7
	小計		1.2	5.8	11.9	19.9	18.1	9.8	66.7
塩素混和池	耐震診断評価	解析モデル作成			0.2	0.4	0.4	0.2	1.2
		耐震診断		0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
		耐震性能の照査			0.2	0.4	0.3	0.2	1.1
		総合評価			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
	対策案の検討	補強対策検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		劣化対策検討			0.1	0.3	0.3		0.7
		対策後の構造解析			0.3	0.4	0.4	0.3	1.4
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
	報告書作成				0.3	0.4	0.3	0.1	1.1
	照査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.3	0.4	2.5	4.3	3.9	1.7	13.1
浄水池			第2節　配水池　耐震補強設計歩掛により積算計上						
共同溝			4-3-2-5 第7表により積算計上						
排水池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		耐震診断		0.3	0.7	1.2	1.2	0.8	4.2
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		総合評価		0.2	0.2	0.5	0.4	0.1	1.4
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.6	4.1	6.6	6.1	2.9	22.7
排泥池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		耐震診断		0.3	0.7	1.1	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		総合評価		0.2	0.1	0.4	0.4	0.1	1.2
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.7	0.6	0.4	2.3
		施工検討		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		対策案の概算工事費作成		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
	報告書作成			0.2	0.3	0.5	0.5	0.3	1.8
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.4	3.6	6.2	5.5	2.8	20.9

改定（平成 27 年度）

第３－１表　(2/3)2,000m³/日以上(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
~~設計協議~~			~~4-3-2-2 第4表により積算計上~~						
~~現地調査~~			~~4-3-2-3 第5表により積算計上~~						
~~既存資料調査~~		~~既存資料収集・整理~~	~~4-3-2-4 第6表により積算計上~~						
~~診断条件整理~~		~~地盤検討~~	~~4-3-2-4 第6表により積算計上~~						
		~~耐震基本方針及び設計地震動設定~~	~~4-3-2-4 第6表により積算計上~~						
~~浄水場施設~~			~~基準(対象)水量10,000m³/日~~						
急速ろ過池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.4	1.1	1.9	1.7	0.8	5.9
		耐震診断		0.9	2.2	3.8	3.6	2.2	12.7
		耐震性能の照査		0.4	1.1	1.9	1.7	0.8	5.9
		総合評価		0.3	0.7	1.3	1.1	0.7	4.1
	対策案の検討	補強対策検討		0.4	0.9	1.6	1.3	0.7	4.9
		劣化対策検討			0.7	1.1	1.1	0.4	3.3
		対策後の構造解析		0.5	1.3	2.1	2.0	1.3	7.2
		施工検討		0.3	0.8	1.2	1.1	0.6	4.0
		対策案の概算工事費作成		0.3	0.8	1.2	1.1	0.6	4.0
		補強図・補修図の作成		0.4	1.1	1.9	1.7	0.8	5.9
	報告書作成			0.4	1.2	1.9	1.7	0.9	6.1
	照査		1.2	1.5					2.7
	小計		1.2	5.8	11.9	19.9	18.1	9.8	66.7
塩素混和池	耐震診断評価	解析モデル作成			0.2	0.4	0.4	0.2	1.2
		耐震診断		0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
		耐震性能の照査			0.2	0.4	0.3	0.2	1.1
		総合評価			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
	対策案の検討	補強対策検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		劣化対策検討			0.1	0.3	0.3		0.7
		対策後の構造解析			0.3	0.4	0.4	0.3	1.4
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
	報告書作成				0.3	0.4	0.3	0.1	1.1
	照査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.3	0.4	2.5	4.3	3.9	1.7	13.1
浄水池			第2節　配水池　耐震補強設計歩掛により積算計上						
共同溝			4-3-2-5 第7表により積算計上						
排水池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		耐震診断		0.3	0.7	1.2	1.2	0.8	4.2
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		総合評価		0.2	0.2	0.5	0.4	0.1	1.4
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.6	4.1	6.6	6.1	2.9	22.7
排泥池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		耐震診断		0.3	0.7	1.1	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		総合評価		0.2	0.1	0.4	0.4	0.1	1.2
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.7	0.6	0.4	2.3
		施工検討		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		対策案の概算工事費作成		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
	報告書作成			0.2	0.3	0.5	0.5	0.3	1.8
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.4	3.6	6.2	5.5	2.8	20.9

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P262

現行（平成 26 年度）

第３－１表　(3/3)2,000m³/日以上(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目			土木設計						
			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			4-3-2-2 第4表により積算計上						
現地調査			4-3-2-3 第5表により積算計上						
既存資料調査		既存資料収集・整理	4-3-2-4 第6表により積算計上						
診断条件整理		地盤検討	4-3-2-4 第6表により積算計上						
		耐震基本方針及び設計地震動設定	4-3-2-4 第6表により積算計上						
浄水場施設			基準(対象)水量10,000m³/日						
濃縮槽	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		耐震診断		0.3	0.7	1.2	1.1	0.7	4.0
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
		総合評価		0.2	0.2	0.5	0.4	0.1	1.4
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.6	4.1	6.6	5.8	2.8	22.3
天日乾燥床	耐震診断評価	解析モデル作成			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		耐震診断		0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		総合評価			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
	対策案の検討	補強対策検討			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
		劣化対策検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策後の構造解析			0.3	0.5	0.4	0.3	1.5
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	報告書作成			0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	照査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.3	1.0	2.9	4.5	4.2	1.6	14.5

(備考　略)

改定（平成 27 年度）

第３－１表　(3/3)2,000m³/日以上(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

(単位:人)

作業項目			土木設計						
			技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
~~設計協議~~			~~4-3-2-2 第4表により積算計上~~						
~~現地調査~~			~~4-3-2-3 第5表により積算計上~~						
~~既存資料調査~~		~~既存資料収集・整理~~	~~4-3-2-4 第6表により積算計上~~						
~~診断条件整理~~		~~地盤検討~~	~~4-3-2-4 第6表により積算計上~~						
		~~耐震基本方針及び設計地震動設定~~	~~4-3-2-4 第6表により積算計上~~						
~~浄水場施設~~			~~基準(対象)水量10,000m³/日~~						
濃縮槽	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		耐震診断		0.3	0.7	1.2	1.1	0.7	4.0
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
		総合評価		0.2	0.2	0.5	0.4	0.1	1.4
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.6	4.1	6.6	5.8	2.8	22.3
天日乾燥床	耐震診断評価	解析モデル作成			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		耐震診断		0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		総合評価			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
	対策案の検討	補強対策検討			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
		劣化対策検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策後の構造解析			0.3	0.5	0.4	0.3	1.5
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	報告書作成			0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
	照査		0.3	0.2					0.5
	小計		0.3	1.0	2.9	4.5	4.2	1.6	14.5

(備考　略)

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版
頁番号

現行（平成 26 年度）

P263

第３－２表　(2/2)2,000m³/日未満(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

（単位:人）

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			4-3-2-2　第4表により積算計上						
現地調査			4-3-2-3　第5表により積算計上						
既存資料調査		既存資料収集・整理	4-3-2-4　第6表により積算計上						
診断条件整理		地盤検討	4-3-2-4　第6表により積算計上						
		耐震基本方針及び設計地震動設定	4-3-2-4　第6表により積算計上						
浄水場施設			基準（対象）水量10,000m³／日						
排水池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.2
		耐震診断		0.3	0.8	1.2	1.2	0.8	4.3
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		総合評価		0.2	0.1	0.5	0.4	0.3	1.5
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.6	4.1	6.7	6.1	3.1	23.0
排泥池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		耐震診断		0.3	0.7	1.1	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		総合評価		0.2	0.1	0.4	0.4	0.1	1.2
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.2	0.4	0.4	0.1	1.1
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.7	0.6	0.4	2.3
		施工検討		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		対策案の概算工事費作成		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.4					0.8
	小計		0.4	2.3	3.6	6.3	5.5	2.8	20.9
濃縮槽	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		耐震診断		0.2	0.7	1.2	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		総合評価		0.2	0.2	0.5	0.4	0.1	1.4
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.2	0.4	0.4	0.1	1.1
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.5	4.0	6.6	5.9	2.8	22.2
天日乾燥床	耐震診断評価	解析モデル作成			0.3	0.5	0.4	0.2	1.4
		耐震診断		0.2	0.6	0.9	0.8	0.5	3.0
		耐震性能の照査			0.3	0.5	0.4	0.2	1.4
		総合評価			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
	対策案の検討	補強対策検討			0.3	0.4	0.3	0.1	1.1
		劣化対策検討			0.1	0.3	0.3		0.7
		対策後の構造解析			0.3	0.5	0.4	0.3	1.5
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成			0.3	0.5	0.4	0.2	1.4
	報告書作成				0.3	0.4	0.4	0.3	1.4
	照査		0.3	0.3					0.6
	小計		0.3	0.5	3.1	5.0	4.3	2.1	15.3

（備考　略）

改定（平成 27 年度）

第３－２表　(2/2)2,000m³/日未満(急速ろ過方式)　浄水場土木施設耐震診断(詳細診断)基本歩掛内訳

（単位:人）

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
~~設計協議~~			~~4-3-2-2　第4表により積算計上~~						
~~現地調査~~			~~4-3-2-3　第5表により積算計上~~						
~~既存資料調査~~		~~既存資料収集・整理~~	~~4-3-2-4　第6表により積算計上~~						
~~診断条件整理~~		~~地盤検討~~	~~4-3-2-4　第6表により積算計上~~						
		~~耐震基本方針及び設計地震動設定~~	~~4-3-2-4　第6表により積算計上~~						
~~浄水場施設~~			~~基準（対象）水量10,000m³／日~~						
排水池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.7	0.6	0.3	2.2
		耐震診断		0.3	0.8	1.2	1.2	0.8	4.3
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		総合評価		0.2	0.1	0.5	0.4	0.3	1.5
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.3	0.4	0.4	0.1	1.2
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.6	4.1	6.7	6.1	3.1	23.0
排泥池	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		耐震診断		0.3	0.7	1.1	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
		総合評価		0.2	0.1	0.4	0.4	0.1	1.2
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.2	0.4	0.4	0.1	1.1
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.7	0.6	0.4	2.3
		施工検討		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		対策案の概算工事費作成		0.1	0.3	0.4	0.3	0.1	1.2
		補強図・補修図の作成		0.2	0.3	0.6	0.5	0.3	1.9
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.4					0.8
	小計		0.4	2.3	3.6	6.3	5.5	2.8	20.9
濃縮槽	耐震診断評価	解析モデル作成		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		耐震診断		0.2	0.7	1.2	1.1	0.7	3.9
		耐震性能の照査		0.2	0.4	0.6	0.6	0.3	2.1
		総合評価		0.2	0.2	0.5	0.4	0.1	1.4
	対策案の検討	補強対策検討		0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	1.5
		劣化対策検討			0.2	0.4	0.4	0.1	1.1
		対策後の構造解析		0.2	0.4	0.8	0.6	0.4	2.4
		施工検討		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		対策案の概算工事費作成		0.2	0.3	0.4	0.4	0.1	1.4
		補強図・補修図の作成		0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	報告書作成			0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	2.0
	照査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.4	2.5	4.0	6.6	5.9	2.8	22.2
天日乾燥床	耐震診断評価	解析モデル作成			0.3	0.5	0.4	0.2	1.4
		耐震診断		0.2	0.6	0.9	0.8	0.5	3.0
		耐震性能の照査			0.3	0.5	0.4	0.2	1.4
		総合評価			0.2	0.4	0.3	0.1	1.0
	対策案の検討	補強対策検討			0.3	0.4	0.3	0.1	1.1
		劣化対策検討			0.1	0.3	0.3		0.7
		対策後の構造解析			0.3	0.5	0.4	0.3	1.5
		施工検討			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		対策案の概算工事費作成			0.2	0.3	0.3	0.1	0.9
		補強図・補修図の作成			0.3	0.5	0.4	0.2	1.4
	報告書作成				0.3	0.4	0.4	0.3	1.4
	照査		0.3	0.3					0.6
	小計		0.3	0.5	3.1	5.0	4.3	2.1	15.3

（備考　略）

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P265	**4－3－2－3　現地調査基本歩掛** 第 5 表　現地調査基本歩掛 （表　略） 備考 1.（略） 2. 各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、それぞれ土木に係るものである。したがって、この業務において建築、機械、電気に該当する工種を追加する場合は、それぞれ 1 工種につき土木に係る歩掛と同数ずつ加算する。	**4－3－2－3　現地調査基本歩掛** 第 5 表　現地調査基本歩掛 （表　略） 備考 1.（略） 2. ~~各打合せの~~技師(A)、技師(B)の歩掛は、それぞれ土木に係るものである。したがって、この業務において建築、機械、電気に該当する工種を追加する場合は、それぞれ 1 工種につき土木に係る歩掛と同数ずつ加算する。
P266	**4－3－3－1　設計対象水量に係る補正** 第 8－1 表　2,000m³/日以上　浄水場施設対象水量に係る補正係数 （表　略） 備考　水量補正は耐震診断を行う各施設単位の処理水量ごとに設定する。	**4－3－3－1　設計対象水量に係る補正** 補正対象は、第3－1表、第3－2表のうち設計協議、現地調査、既存資料調査、診断条件整理、浄水池及び共同溝(第3－1表のみ)を除く項目とする。 第 8－1 表　2,000m³/日以上　浄水場施設対象水量に係る補正係数 （表　略） 備考　1. 水量補正は耐震診断を行う各施設単位の処理水量ごとに設定する。 2. 設計水量が 200,000m³/日を超える場合は、別途考慮する。
	4－3－3－2　類似施設に係る補正 類似系列施設の耐震診断を行う場合は、耐震診断評価の基本歩掛人工に 0.65 を乗じて使用するものとする。対策案の検討は、補強対策が異なってくるため、この類似補正は乗じないこととする。類似施設とは、同一形状の解析モデルで、若干部材厚、配筋が異なる施設とする。これによらない場合(形状寸法が大きく異なるまたは基礎形式が異なるなど)は、各系列施設単位ごとに算定する。	**4－3－3－2　類似施設に係る補正** 類似系列施設の耐震診断を行う場合は、耐震診断評価の基本歩掛人工に 0.65 を乗じて使用するものとする(ただし、浄水池及び共同溝(第 3－1 表のみ)を除く)。対策案の検討は、補強対策が異なってくるため、この類似補正は乗じないこととする。類似施設とは、同一形状の解析モデルで、若干部材厚、配筋が異なる施設とする。これによらない場合(形状寸法が大きく異なるまたは基礎形式が異なるなど)は、各系列施設単位ごとに算定する。
	4－3－3－3　設備設計に係る補正 対策案の検討において、壁補強等に伴うゲートの付け替えなどの付帯施設の付け替え計画と概算工事費算定はこの歩掛に含むものとする。部分的な設備更新計画(仕様に変更を生じない単純更新)を行う場合は、第 3 表の対策案の検討基本歩掛を 15/100 増加するものとする。全面的な設備機器の更新を行う場合は別途計上すること。	**4－3－3－3　設備設計に係る補正** 対策案の検討において、壁補強等に伴うゲートの付け替えなどの付帯施設の付け替え計画と概算工事費算定はこの歩掛に含むものとする。部分的な設備更新計画(仕様に変更を生じない単純更新)を行う場合は、第 3 表の対策案の検討基本歩掛を 15/100 増加するものとする(ただし、浄水池及び共同溝(第 3－1 表のみ)を除く)。全面的な設備機器の更新を行う場合は別途計上すること。
P267	基本歩掛は標準的なものであり、第 4 章第 3 節で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。 (イ)～(リ)　(略)	基本歩掛は標準的なものであり、4－3－1 及び 4－4－1 で示した委託内容及び以下に示す項目について別途積算計上する。 (イ)～(リ)　(略)

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版頁番号：P270

現行（平成 26 年度）

4-4-2　基本歩掛

4-4-2-1　耐震補強工事の実施設計

第3-2表　2,000m³／日未満（急速ろ過方式）浄水場土木施設　耐震補強工事実施設計基本歩掛内訳

（単位：人）

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			4-4-2-2　第4表により積算計上						
現地調査			4-4-2-3　第5表により積算計上						
既存資料調査			4-4-2-4　第6表により積算計上						
浄水場施設			基準（対象）水量10,000m³／日						
着水井	設計計画		0.6	0.6	1.2	1.7			4.1
	計算	構造		0.5	1.5	2.5	2.0	1.5	8.0
		機能			0.3	0.2	0.1	0.1	0.7
	施工計画			0.2	0.6	1.2	1.0	0.5	3.5
	設計図作成			0.9	1.9	2.9	2.6	2.0	10.3
	数量計算			0.2	0.6	0.7	0.7	0.6	2.8
	審査		0.2	0.6					0.8
	小計		0.8	3.0	6.1	9.2	6.4	4.7	30.2
薬品沈でん池	設計計画		2.1	2.0	4.2	6.7	5.3	3.9	24.2
	計算	構造		4.3	9.6	15.0	11.4	8.8	49.1
		機能		0.5	0.9	1.4	0.9	0.7	4.4
	施工計画			1.6	3.7	6.9	6.1	3.3	21.6
	設計図作成			5.9	12.7	19.9	15.6	11.0	65.1
	数量計算			1.6	3.4	5.2	4.0	2.8	17.0
	審査		2.3	2.9					5.2
	小計		4.4	18.8	34.5	55.1	43.3	30.5	186.6
急速ろ過機	設計計画		0.2	0.1	0.5	0.9	0.7	0.5	2.9
	計算	構造							0.0
		機能		0.2	0.6	0.9	0.6	0.4	2.7
	施工計画			0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
	設計図作成			0.9	2.0	2.9	2.3	1.6	9.7
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.6	0.5	2.6
	審査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.6	2.1	4.0	6.3	4.9	3.4	21.3
塩素混和池	設計計画		0.1	0.1	0.5	0.6	0.5	0.3	2.1
	計算	構造		0.3	1.0	1.4	1.0	0.8	4.5
		機能			0.2	0.3	0.1	0.1	0.7
	施工計画			0.1	0.4	0.7	0.6	0.3	2.1
	設計図作成			0.5	1.3	2.0	1.5	0.9	6.2
	数量計算			0.1	0.4	0.5	0.4	0.2	1.6
	審査		0.1	0.3					0.4
	小計		0.2	1.4	3.8	5.5	4.1	2.6	17.6
浄水池	第２節　配水池　耐震補強設計歩掛により積算計上								
排水池	設計計画		0.2	0.3	0.9	1.2	0.9	0.7	4.2
	計算	構造		1.0	1.9	2.7	2.5	1.6	9.7
		機能		0.1	0.2	0.3	0.1	0.1	0.8
	施工計画			0.2	0.7	1.2	1.0	0.5	3.6
	設計図作成			0.8	2.1	3.3	2.6	1.9	10.7
	数量計算			0.2	0.6	0.9	0.7	0.5	2.9
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.5	3.1	6.4	9.6	7.8	5.3	32.7
排泥池	設計計画		0.2	0.3	0.7	1.2	0.9	0.6	3.9
	計算	構造		0.5	1.5	2.4	1.8	1.2	7.4
		機能		0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.8
	施工計画			0.2	0.5	1.1	0.9	0.5	3.2
	設計図作成			0.9	2.1	3.1	2.5	1.9	10.5
	数量計算			0.2	0.6	0.9	0.7	0.5	2.9
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.5	2.7	5.7	8.9	6.9	4.8	29.5
濃縮槽	設計計画		0.3	0.5	1.1	1.4	0.8	0.7	4.8
	計算	構造		1.1	1.8	2.6	2.1	1.6	9.2
		機能		0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.8
	施工計画			0.2	0.6	1.2	1.1	0.6	3.7
	設計図作成			0.9	1.9	2.8	2.3	1.8	9.7
	数量計算			0.2	0.6	0.7	0.6	0.5	2.6
	審査		0.3	0.6					0.9
	小計		0.6	3.6	6.3	8.9	7.0	5.3	31.7
天日乾燥床（自然式）	設計計画		0.3	0.2	0.5	0.6	0.6	0.5	2.7
	計算	構造		0.4	1.0	1.7	1.4	0.8	5.3
		機能			0.3	0.5	0.1	0.1	1.0
	施工計画			0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
	設計図作成			0.4	1.4	2.0	1.6	1.4	6.8
	数量計算			0.1	0.4	0.5	0.4	0.4	1.8
	審査		0.2	0.4					0.6
	小計		0.5	1.7	4.0	6.1	4.8	3.6	20.7

改定（平成 27 年度）

4-4-2　基本歩掛

4-4-2-1　耐震補強工事の実施設計

第3-2表　2,000m³／日未満（急速ろ過方式）浄水場土木施設　耐震補強工事実施設計基本歩掛内訳

（単位：人）

作業項目			土木設計 技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	計
設計協議			4-4-2-2　第4表により積算計上						
現地調査			4-4-2-3　第5表により積算計上						
既存資料調査			4-4-2-4　第6表により積算計上						
浄水場施設			基準（対象）水量10,000m³／日						
着水井	設計計画		0.6	0.6	1.2	1.7			4.1
	計算	構造		0.5	1.5	2.5	2.0	1.5	8.0
		機能			0.3	0.2	0.1	0.1	0.7
	施工計画			0.2	0.6	1.2	1.0	0.5	3.5
	設計図作成			0.9	1.9	2.9	2.6	2.0	10.3
	数量計算			0.2	0.6	0.7	0.7	0.6	2.8
	審査		0.2	0.6					0.8
	小計		0.8	3.0	6.1	9.2	6.4	4.7	30.2
薬品沈でん池	設計計画		2.1	2.0	4.2	6.7	5.3	3.9	24.2
	計算	構造		4.3	9.6	15.0	11.4	8.8	49.1
		機能		0.5	0.9	1.4	0.9	0.7	4.4
	施工計画			1.6	3.7	6.9	6.1	3.3	21.6
	設計図作成			5.9	12.7	19.9	15.6	11.0	65.1
	数量計算			1.6	3.4	5.2	4.0	2.8	17.0
	審査		2.3	2.9					5.2
	小計		4.4	18.8	34.5	55.1	43.3	30.5	186.6
急速ろ過機	設計計画		0.2	0.1	0.5	0.9	0.7	0.5	2.9
	計算	構造		0.4	1.1	1.6	1.1	0.7	4.9
		機能			0.1	0.2	0.1	0.1	0.5
	施工計画			0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
	設計図作成			0.9	2.0	2.9	2.3	1.6	9.7
	数量計算			0.2	0.5	0.8	0.6	0.5	2.6
	審査		0.4	0.5					0.9
	小計		0.6	2.3	4.6	7.2	5.5	3.8	24.0
塩素混和池	設計計画		0.1	0.1	0.5	0.6	0.5	0.3	2.1
	計算	構造		0.3	1.0	1.4	1.0	0.8	4.5
		機能			0.2	0.3	0.1	0.1	0.7
	施工計画			0.1	0.4	0.7	0.6	0.3	2.1
	設計図作成			0.5	1.3	2.0	1.5	0.9	6.2
	数量計算			0.1	0.4	0.5	0.4	0.2	1.6
	審査		0.1	0.3					0.4
	小計		0.2	1.4	3.8	5.5	4.1	2.6	17.6
浄水池	第２節　配水池　耐震補強設計歩掛により積算計上								
排水池	設計計画		0.2	0.3	0.9	1.2	0.9	0.7	4.2
	計算	構造		1.0	1.9	2.7	2.5	1.6	9.7
		機能		0.1	0.2	0.3	0.1	0.1	0.8
	施工計画			0.2	0.7	1.2	1.0	0.5	3.6
	設計図作成			0.8	2.1	3.3	2.6	1.9	10.7
	数量計算			0.2	0.6	0.9	0.7	0.5	2.9
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.5	3.1	6.4	9.6	7.8	5.3	32.7
排泥池	設計計画		0.2	0.3	0.7	1.2	0.9	0.6	3.9
	計算	構造		0.5	1.5	2.4	1.8	1.2	7.4
		機能		0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.8
	施工計画			0.2	0.5	1.1	0.9	0.5	3.2
	設計図作成			0.9	2.1	3.1	2.5	1.9	10.5
	数量計算			0.2	0.6	0.9	0.7	0.5	2.9
	審査		0.3	0.5					0.8
	小計		0.5	2.7	5.7	8.9	6.9	4.8	29.5
濃縮槽	設計計画		0.3	0.5	1.1	1.4	0.8	0.7	4.8
	計算	構造		1.1	1.8	2.6	2.1	1.6	9.2
		機能		0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.8
	施工計画			0.2	0.6	1.2	1.1	0.6	3.7
	設計図作成			0.9	1.9	2.8	2.3	1.8	9.7
	数量計算			0.2	0.6	0.7	0.6	0.5	2.6
	審査		0.3	0.6					0.9
	小計		0.6	3.6	6.3	8.9	7.0	5.3	31.7
天日乾燥床（自然式）	設計計画		0.3	0.2	0.5	0.6	0.6	0.5	2.7
	計算	構造		0.4	1.0	1.7	1.4	0.8	5.3
		機能			0.3	0.5	0.1	0.1	1.0
	施工計画			0.2	0.4	0.8	0.7	0.4	2.5
	設計図作成			0.4	1.4	2.0	1.6	1.4	6.8
	数量計算			0.1	0.4	0.5	0.4	0.4	1.8
	審査		0.2	0.4					0.6
	小計		0.5	1.7	4.0	6.1	4.8	3.6	20.7

平成 27 年度水道施設整備費に係る歩掛表　改定比較表

26 年度版 頁番号	現行（平成 26 年度）	改定（平成 27 年度）
P271	**4－4－2－3　現地調査(耐震補強工事の実施設計)基本歩掛** 第 5 表　現地調査基本歩掛 (表　略) 備考 1.(略) 2. 各打合せの技師(A)、技師(B)の歩掛は、それぞれ土木に係るものである。したがって、この業務において建築、機械電気に該当する工種を追加する場合は、それぞれ 1 工種につき土木に係る歩掛と同数ずつ加算する。	**4－4－2－3　現地調査(耐震補強工事の実施設計)基本歩掛** 第 5 表　現地調査基本歩掛 (表　略) 備考 1.(略) 2. ~~各打合せの~~技師(A)、技師(B)の歩掛は、それぞれ土木に係るものである。したがって、この業務において建築、機械電気に該当する工種を追加する場合は、それぞれ 1 工種につき土木に係る歩掛と同数ずつ加算する。
P272	**4－4－3　補正** 補正は、4－4－3－1～4－4－3－4 の各補正係数を乗ずるものとする。 **4－4－3－1　設計対象容量に係る補正** 第 8－1 表　2,000m³/日以上　浄水場施設対象水量に係る補正係数 (表　略) (備考　なし)	**4－4－3　補正** 補正は、4－4－3－1～4－4－3－4 の各補正係数を乗ずるものとする。補正対象は第 3－1 表、第 3－2 表のうち設計協議、現地調査、既存資料調査、浄水池及び共同溝(第 3－1 表のみ)を除く項目とする。 **4－4－3－1　設計対象水量に係る補正** 第 8－1 表　2,000m³/日以上　浄水場施設対象水量に係る補正係数 (表　略) 備考 1. 水量補正は耐震診断を行う各施設単位の処理水量ごとに設定する。 2. 設計水量が 200,000m³/日を超える場合は、別途考慮する。